

みんなくファクトブック

FACT BOOK 2021



Contents

1 組織 2

- 1-1 国立民族学博物館のミッションと特徴 2
- 1-2 組織の概要 3
- 1-3 構成員の一覧 9

2 研究 13

- 2-1 令和3年度の研究業績 13
- 2-2 みんなで実施した研究プロジェクト 14
- 2-3 外部資金による研究 32
- 2-4 研究出版活動 36
- 2-5 人間文化研究機構 機構連携プロジェクト 36

3 共同利用 41

- 3-1 国内における研究連携 41
- 3-2 研究員制度 43
- 3-3 資料の収集と利用 45

4 展示 56

- 4-1 本館展示 56
- 4-2 本館展示以外の展示 59
- 4-3 公募型メディア展示 59

5 国際連携 60

- 5-1 海外研究機関との学術交流協定 60
- 5-2 「博物館とコミュニティ開発」コース 62

6 社会連携

64

- 6-1 受託事業 64
- 6-2 学校教育・社会教育活動 65
- 6-3 インターネットによる情報発信 71
- 6-4 開催イベント 73

7 産学連携

79

- 産学連携活動の実施状況 79

8 大学院教育

80

- 8-1 教員数・在籍学生数 80
- 8-2 志願・入学状況 82
- 8-3 学生支援状況 84
- 8-4 退学者 86
- 8-5 学位取得 86
- 8-6 卒業後の進路・就職 87

9 業務運営

88

- 9-1 収入・支出 88
- 9-2 自己収入と外部資金受入額の推移 89
- 9-3 新型コロナウイルス感染症の影響について 90

はじめに

国立民族学博物館インスティテューショナル・リサーチ室（以下、IR室）は、本館の研究、教育等に関する活動についてのデータを収集・分析することにより、館の運営機能の強化・改善に資することを目的として、2016年4月に設置されました。

IR室では、今年度より『みんなくファクトブック』を作成することにしました。その目的は、本館の活動に関するさまざまな数値や指標を表やグラフのかたちで可視化し、館内で現状を把握し、改善や計画策定に利用していただくとともに、ステークホルダーの皆様の本館の現状や取り組みについてより一層理解していただくことです。

みんなくファクトブックでは、数値データについて6年間の経年変化をグラフ化し、これまでの傾向を把握し今後の課題を検討しやすくしました。

館員はもちろん、国立民族学博物館の活動を支援してくださるステークホルダーの皆様や、活動に関心をもってください市民の皆様に本ファクトブックを活用していただければ幸いです。まだまだ不十分な点があるかと思いますが、今後もさらに改良を続けていくつもりですので、皆様からのご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2022年10月

国立民族学博物館

IR室長 平井 京之介

1 組織

1-1 国立民族学博物館のミッションと特徴

● ミッション

国立民族学博物館は、文化人類学・民族学及びその関連分野の調査研究を行うとともに、世界の諸民族に関する資料を収集・保管し、公開することを目的とする。また、当該分野の共同研究・共同利用の世界的な研究拠点、文化資源と研究情報の国際的集積センター、ならびに博物館機能を活かした大学や一般社会への貢献の役割を担っている。

● 特徴

● 文化人類学・民族学及びその関連分野の世界的研究拠点

世界全域を対象とする研究者より組織される文化人類学・民族学の研究所であり、大学共同利用機能・大学院教育機能を有する世界で唯一の民族学博物館である。

● 国際的研究ネットワークのハブとしての共同研究拠点

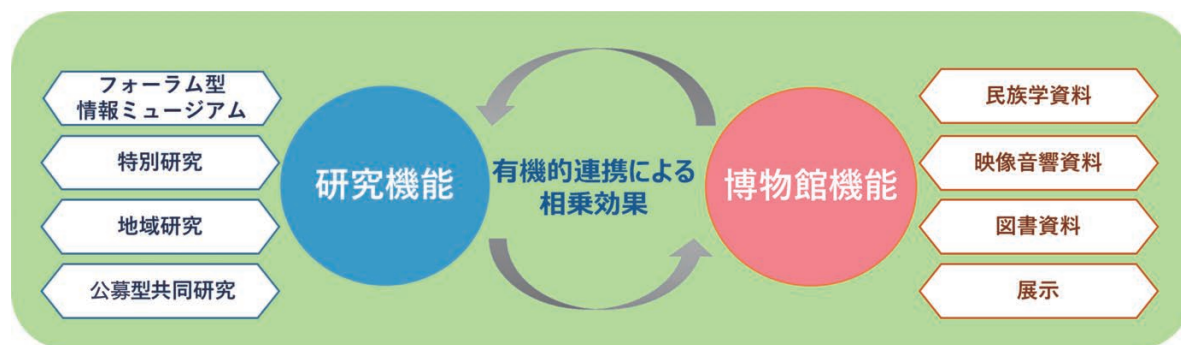
共同研究の公募と外国人研究者の受入を積極的に推進するとともに、国内外の大学・研究機関と学術協定を締結し、国際共同研究を推進している。また、文化の担い手であるソースコミュニティと研究者、そして地域社会の結節点となることで、共同研究・共同利用による文化資源情報の充実と人類の共有財産化を推進している。

● 人類の文化資源と研究情報の国際的集積センター

20世紀後半以降に築かれた世界最大規模の民族学資料、映像音響資料、図書資料のコレクションを所蔵し、整理・公開している。また、世界各地でのフィールドワークに基づく研究成果を展示によって公開している。

● 博物館機能を活かした研究成果の発信による大学・社会への貢献

民族学資料、映像音響資料、図書資料の収集・保存・公開等の活動を通じて大学の研究・教育における機能強化や社会一般の異文化理解・国際理解の促進に寄与している。

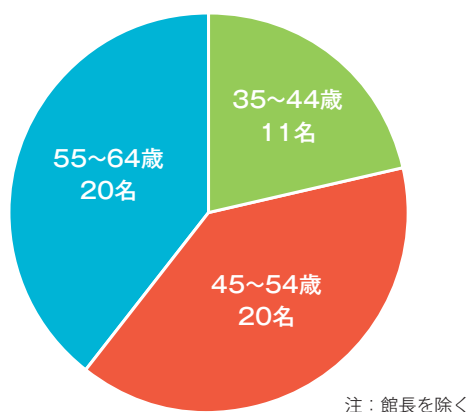


1-2 組織の概要

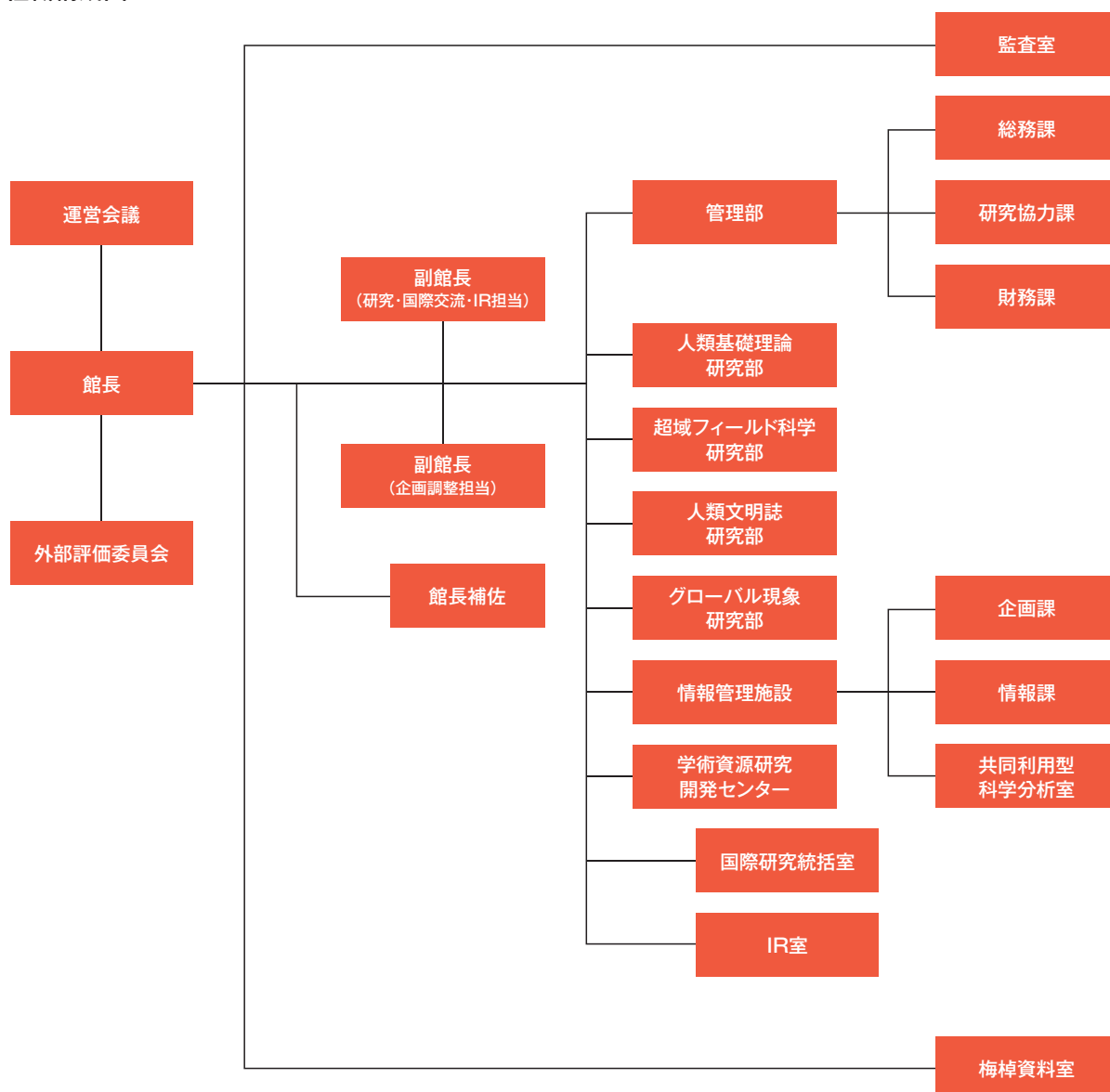
● 組織の特徴

常勤教員数	52 名（館長を含む）
女性	18 名（34.6%）
外国人	3 名（ 5.6%）
職員数	153 名（常勤51名）
運営費交付金	2,732 百万円
敷地面積	40,821 m ²
収蔵資料数	417,841 点

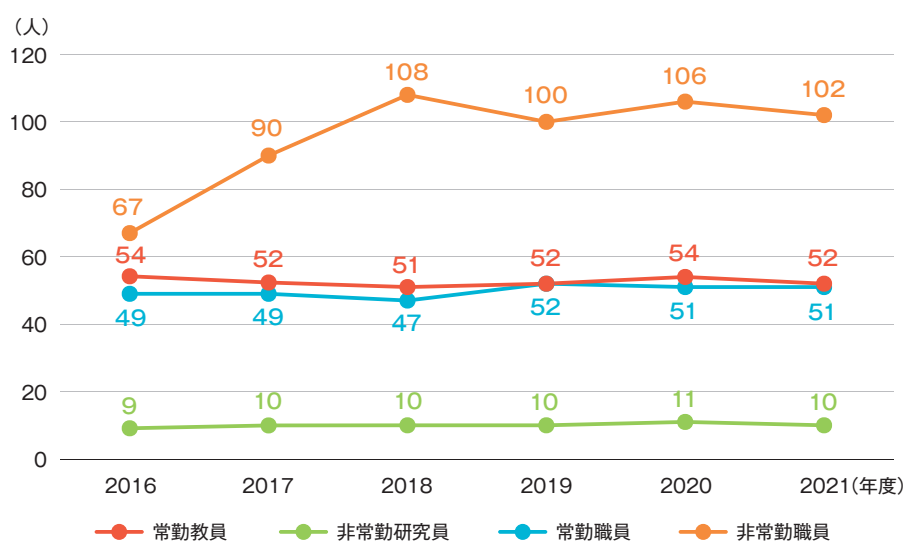
● 常勤教員の年齢構成（令和3年5月1日現在）



● 組織構成図

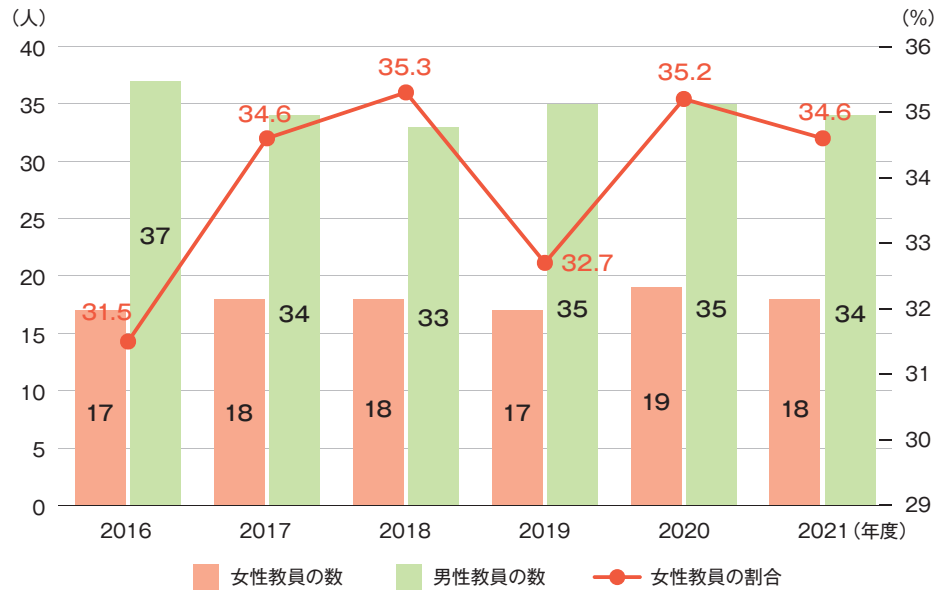


● 教職員数の推移



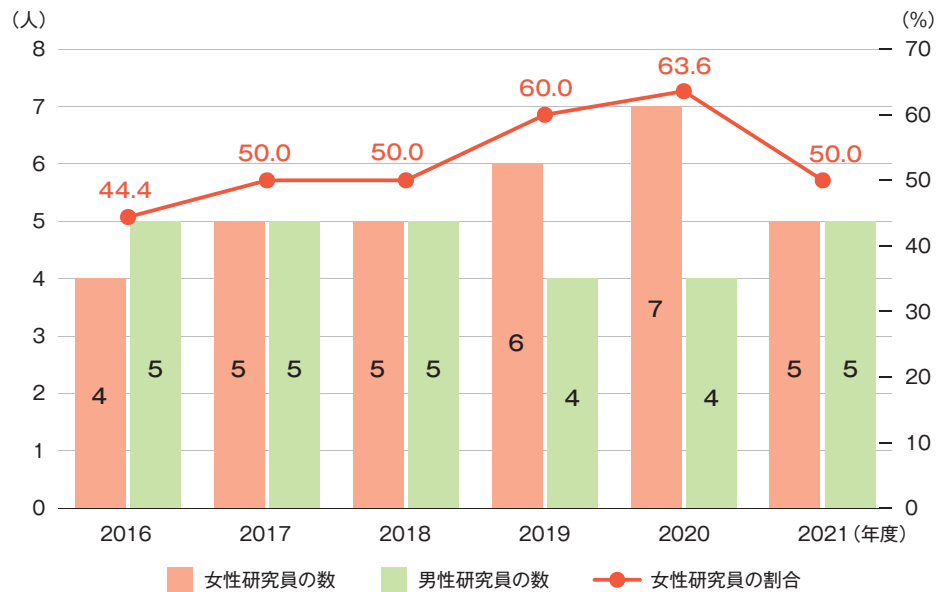
注1：非常勤研究員の数はその年度に在籍した研究員の総数。それ以外の教職員数は5月1日時点の在籍者数
 注2：非常勤研究員に該当するのは、機関研究員およびプロジェクト研究員

● 女性教員（常勤）の数と割合



注：各年度の5月1日時点の在籍者数（館長を含む）

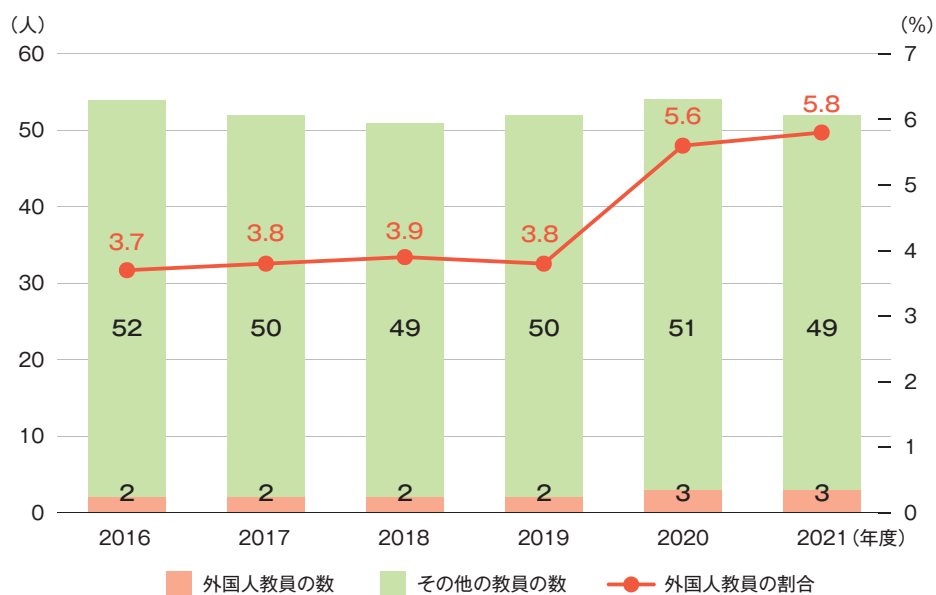
● 女性非常勤研究員の数と割合



注1：非常勤研究員に該当するのは、機関研究員およびプロジェクト研究員

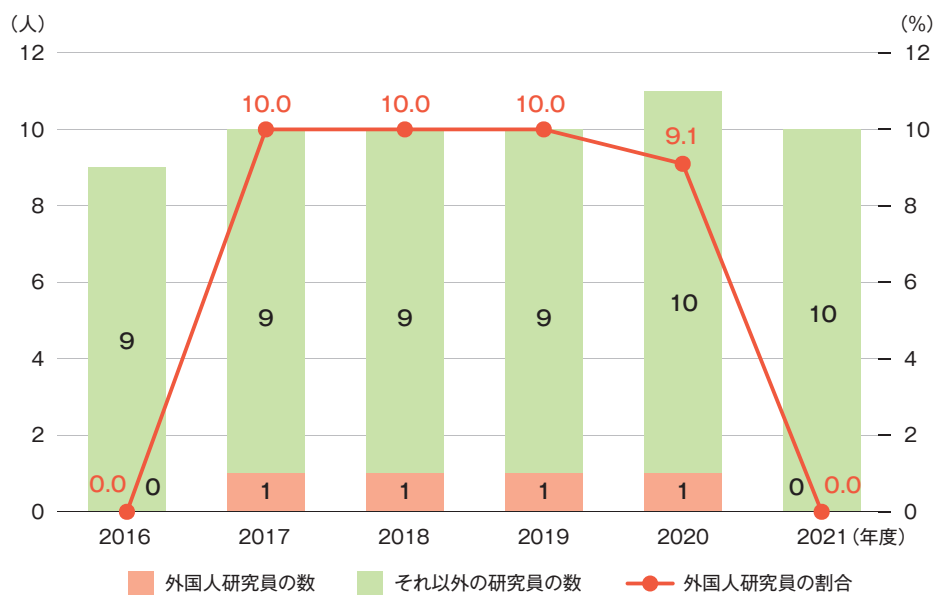
注2：非常勤研究員数は年度内に在籍した研究員の総数

● 外国人教員（常勤）の数と割合



注：各年度の5月1日時点の在籍者数（館長を含む）

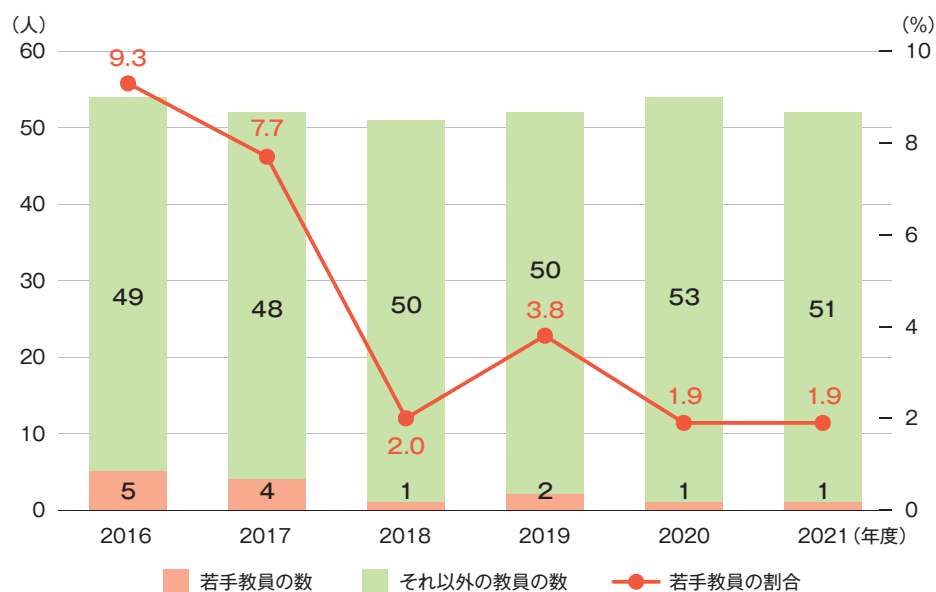
● 外国人非常勤研究員の数と割合



注1：非常勤研究員に該当するのは、機関研究員およびプロジェクト研究員

注2：非常勤研究員数は年度内に在籍した研究員の総数

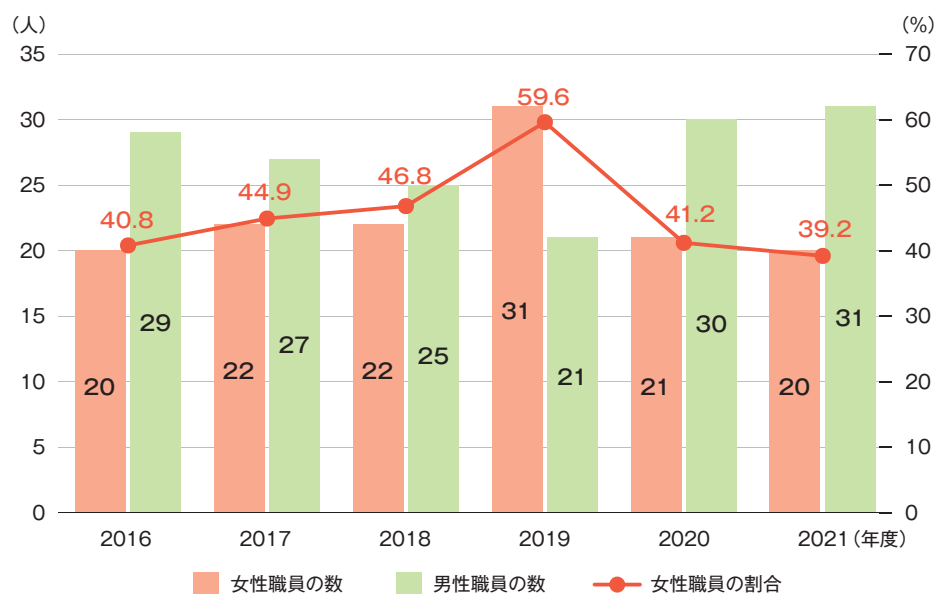
● 若手教員（常勤）の数と割合



注1：若手教員は39歳以下の常勤教員

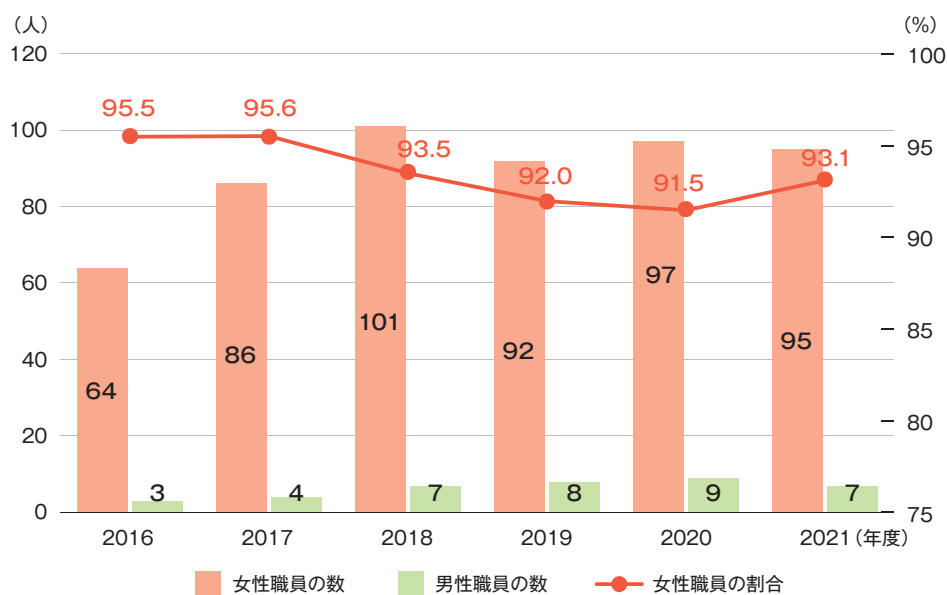
注2：各年度の5月1日時点の在籍者数（館長を含む）

● 女性職員の数と割合（常勤職員）



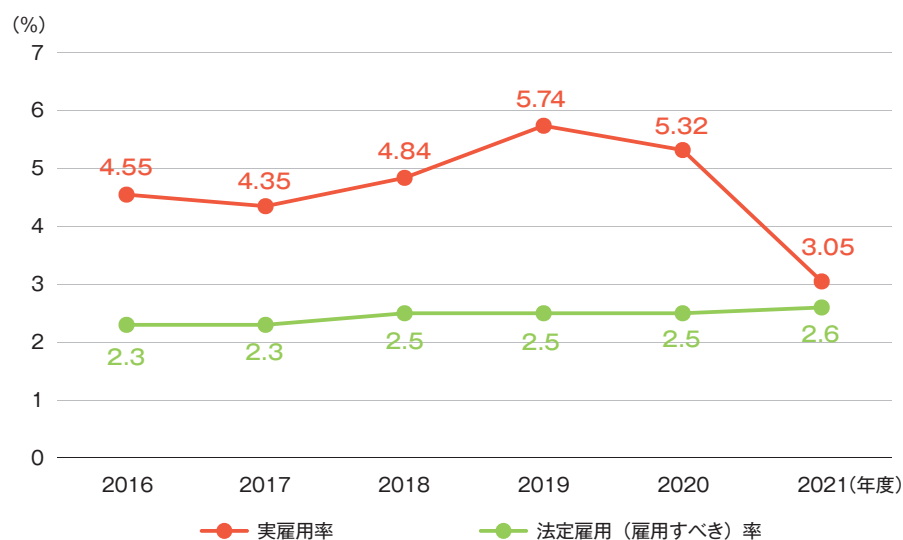
注：各年度の5月1日時点の在籍者数

● 女性職員の数と割合（非常勤職員）



注：各年度の5月1日時点の在籍者数

● 障がい者実雇用率



注1：雇用すべき障がい者の率は、法令によって年度ごとに定められている

注2：実雇用率は厚生労働省都道府県労働局『障害者雇用状況報告記入要領』の雇用障害者数のカウント方法によって計算されたもの

1-3 構成員の一覧

● 運営会議（令和3年4月1日現在）

館長の要請により、本館の管理運営に関する重要事項について審議する。

窪田幸子 芦屋大学長／神戸大学名誉教授	栗本英世 大阪大学大学院人間科学研究科教授	後藤 明 南山大学人文学部教授	佐野千絵 東京文化財研究所名誉研究員
出口 顕 島根大学法文学部教授	富沢壽勇 静岡県立大学副学長／静岡県立大学 国際関係学部特任教授	豊田由貴夫 立教大学名誉教授	松田素二 総合地球環境学研究所特任教授／京 都大学名誉教授
山梨俊夫 国立国際美術館前館長	宇田川妙子 超域フィールド科学研究部長	鈴木 紀 学術資源研究開発センター教授（総 合研究大学院大学文化科学研究科比 較文化学専攻長）	關 雄二 副館長（企画調整担当）・情報管理施 設長
園田直子 人類基礎理論研究部長	野林厚志 学術資源研究開発センター長	平井京之介 副館長（研究・国際交流・IR担当）・ 国際研究統括室長	福岡正太 人類文明誌研究部長
三尾 稔 グローバル現象研究部長			

● 外部評価委員会（令和3年4月1日現在）

館長の要請により、本館における研究教育活動等の状況に関する点検・評価について審議する。

安達 淳 国立情報学研究所副所長	市川光雄 京都大学名誉教授	岡崎淑子 聖心女子大学前学長／名誉教授	小坂 肇 公益財団法人りそなアジア・オセア ニア財団理事長
田中雅一 国際ファッション専門職大学副学長	堀井良殷 公益財団法人関西・大阪21世紀協 会顧問	牧野耕司 独立行政法人国際協力機構 JICA 緒 方研究所副所長	水沢 勉 神奈川県立近代美術館館長
山本真鳥 法政大学経済学部教授			

組
織

研
究

共
同
利
用

展
示

国
際
連
携

社
会
連
携

産
学
連
携

大
学
院
教
育

業
務
運
営

● 研究部教員の一覧（令和4年3月31日現在）

	館 長	吉田憲司		
	副館長（企画調整担当）	關 雄二		
	副館長（研究・国際交流・IR 担当）	平井京之介		
研究部	職名・研究部門	教 授	准教授	助 教
人類基礎理論研究部	研 究 部 長	園田直子		
	第 一 超 域	笹原亮二 日高真吾		末森 薫
	第 二 超 域	岡田恵美 川瀬 慈 吉岡 乾		
	第 三 超 域	菊澤律子	丸川雄三	平野智佳子
		※市野進一郎（10/1採用）		
超域フィールド科学研究部	研 究 部 長	宇田川妙子		
	第 一 超 域	檜永真佐夫 韓 敏	太田心平 奈良雅史	
	第 二 超 域	南 真木人	菅瀬晶子 松尾瑞穂	
	第 三 超 域	新免光比呂 林 勲男 ピーター・J・マシウス		
人類文明誌研究部	研 究 部 長	福岡正太		
	第 一 超 域	卯田宗平 齋藤玲子 藤本透子		
	第 二 超 域	池谷和信 山中由里子	上羽陽子	
	第 三 超 域	齋藤 晃 關 雄二（副館長）	伊藤敦規	
グローバル現象研究部	研 究 部 長	三尾 稔		
	第 一 超 域	信田敏宏 平井京之介（副館長）	諸 昭喜	
	第 二 超 域	西尾哲夫	相島葉月 鈴木英明	
	第 三 超 域	鈴木七美	中川 理 丹羽典生	八木百合子
学術資源研究開発センター	センター長	野林厚志		
	第 一 超 域	小野林太郎 島村一平 寺村裕史 廣瀬浩二郎		
	第 二 超 域	飯田 卓	三島禎子	
	第 三 超 域	(岸上伸啓) 鈴木 紀 森 明子		
	人文知コミュニケーター	※(神野知恵)		

注1：(岸上 伸啓) は併任教授、(神野 知恵) は併任特任助教（いずれも人間文化研究機構所属）
 注2：※は特任研究員を示す

● 人間文化研究機構研究員

南アジア地域研究拠点

茶谷智之 (9/30退職)
特任助教

北東アジア地域研究拠点

辛嶋博善
特任助教

現代中東地域研究拠点

黒田賢治
特任助教

人文知コミュニケーター

神野知恵
特任助教

● 外国人研究員

Ruan Yunxing
浙江大学教授

Nitzky, William David
カリフォルニア州立大学准教授

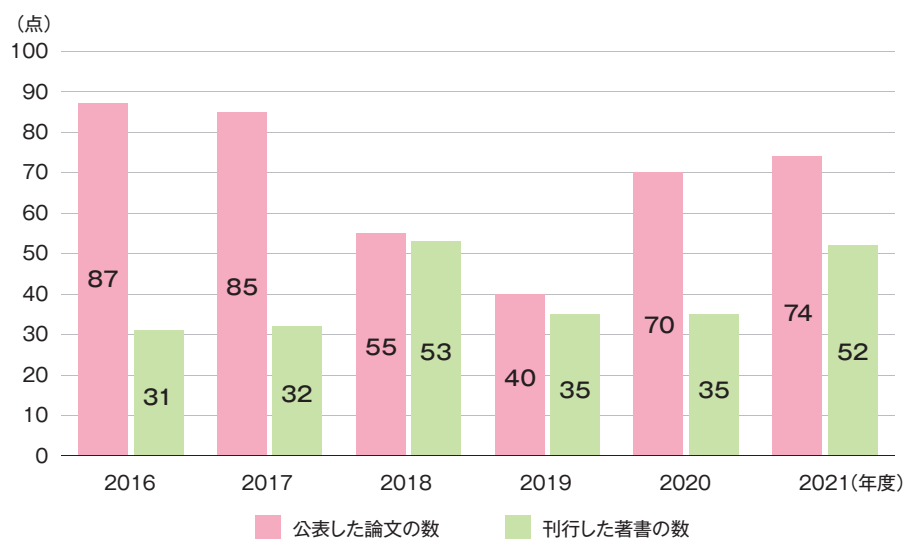
2 研究

2-1 令和3年度の研究業績

● 令和3年度の研究成果

著書	52 冊
論文	74 編（うち査読つき57編）

● 公表した論文と刊行した書籍の数の推移



● 令和3年度に開催した研究集会の数と参加者総数

研究集会の種類	開催回数（回）	参加者の総数（人）
国際シンポジウム	2	209
国内シンポジウム	1	23
講演会・セミナー（国内）	6	171
研究会・ワークショップ（国際）	6	213
研究会・ワークショップ（国内）	16	189
計	31	805

注：一般向けの講演会等は除く

● 令和3年度の受賞

No.	受賞者・組織	賞の名称	授与団体名	受賞年月	受賞対象となった研究課題名等
1	上羽陽子	第36回 大同生命地域研究奨励賞	(公財) 大同生命国際文化基金	R3.7	現代インドにおける染織文化の変容動態の研究
2	小野林太郎	第36回 大同生命地域研究奨励賞	(公財) 大同生命国際文化基金	R3.7	東南アジア海域における海産資源利用の人類・考古学的研究
3	川瀬 慈	第36回 大同生命地域研究奨励賞	(公財) 大同生命国際文化基金	R3.7	民族誌映画の革新的制作を通じたアフリカ地域研究の新分野開拓
4	関 雄二	令和3年度日本博物館協会 功労者表彰	(公財) 日本博物館協会	R3.11	博物館事業への顕著な功績
5	川瀬 慈	第43回 サントリー学芸賞 〔芸術・文学部門〕	(公財) サントリー文化財団	R3.12	『エチオピア高原の吟遊詩人——うたに生きる者たち』 (音楽之友社)
6	川瀬 慈	第11回梅棹忠夫・山と探検文学賞	梅棹忠夫・山と探検文学賞委員会	R4.3	『エチオピア高原の吟遊詩人——うたに生きる者たち』 (音楽之友社)
7	桑田知明・ 国立民族学博物館	日本タイポグラフィ年鑑2022	NPO 法人日本タイポグラフィ協会	R3.11	特別展「ユニバーサル・ミュージアム——さわる!“触”の大博覧会」
8	ウエマリコ オフィス・ 国立民族学博物館	2021年度ディスプレイ産業賞	一般社団法人 日本ディスプレイ 業団体連合会 (略称：NDF)	R3.11	特別展「復興を支える地域の文化——3.11から10年」

● 令和3年度の学会等の開催

学会名	開催日	延べ参加登録者数(人)
東洋音楽学会 第72回大会 (オンライン開催)	2021年10月30日 (土) ~2021年10月31日 (日)	174

2-2 みんなくで実施した研究プロジェクト

特別研究

● プロジェクト概要

「現代文明と人類の未来—環境・文化・人間」を統一テーマに、現代文明が直面する喫緊の諸課題に対して解決志向型のアプローチにより実施する国際共同研究。

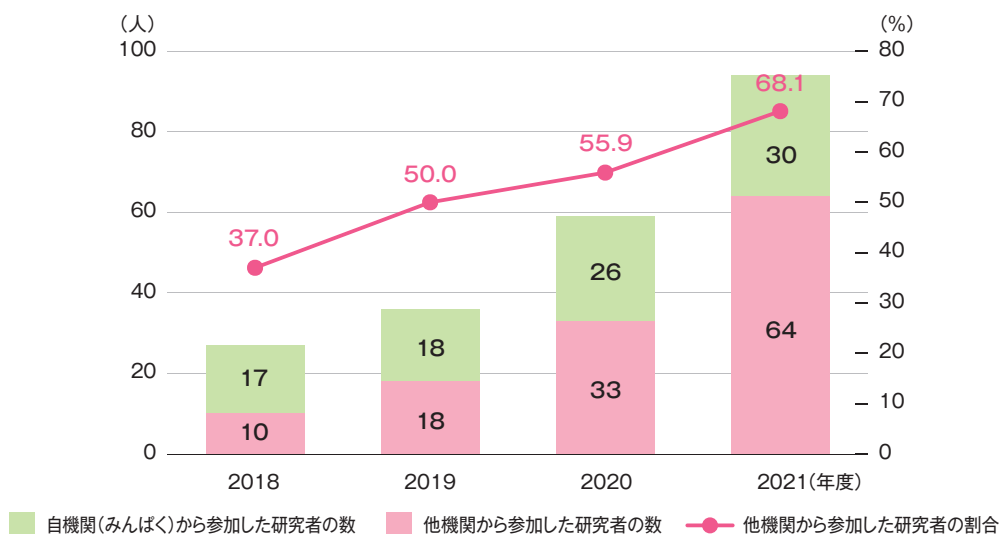
● ロードマップ

統一テーマ：現代文明と人類の未来—環境・文化・人間										
テーマ区分	研究プロジェクト名	研究代表者	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
環境問題と生物多様性	生物・文化的多様性の歴史生態学 —稀少動物・稀少植物の利用と保護を中心に—	池谷 和信 岸上 伸啓	H28.7.1		H31.3.31					
				H29.4.1		R2.3.31				
食料問題とエコシステム	食料生産システムの文明論	野林 厚志								
マイノリティと多民族共存	パフォーマンス・アーツと積極的共生	寺田 吉孝 福岡 正太			H30.4.1				R5.3.31	
文化遺産とコミュニティ	デジタル技術時代の文化遺産におけるヒューマニティとコミュニティ	飯田 卓				H31.4.1		R4.3.31		
文化衝突と多元的価値	グローバル地域研究と地球社会の認知地図 —わたしたちはいかに世界を共創するのか？	西尾 哲夫					R2.4.1		R5.3.31	
人口問題と家族・社会	不確実性の時代における家族の潜勢力 —モビリティ、テクノロジー、身体	森 明子							R3.4.1	R6.3.31
現代文明と感染症	コロナ禍に対するローカルな対処としての「文化の免疫系」に関する比較研究	島村 一平						R2.12.25		R6.3.31

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響による計画変更
・「マイノリティと多民族共存」に関するプロジェクトは、当初計画を変更し、研究期間を延長
・「現代文明と感染症」に関する緊急枠は、当初計画に追加し、令和2年度に新設

参加者数の推移

● 特別研究に参加した研究者の数と他機関から参加した研究者の割合

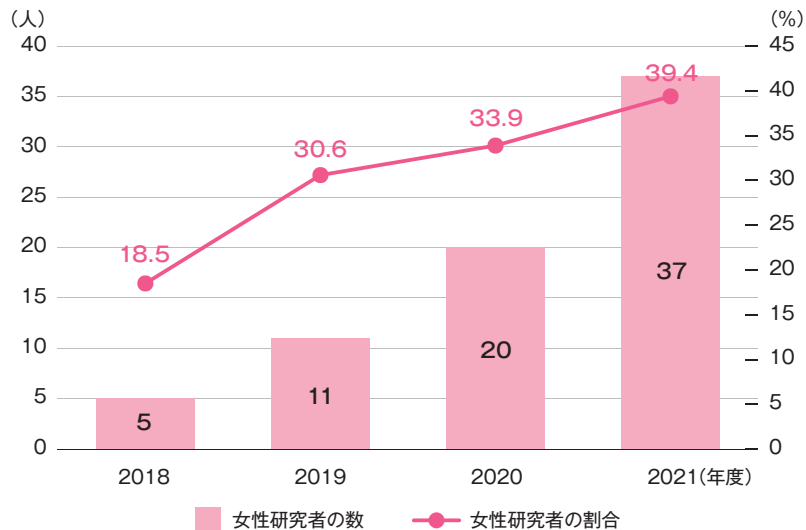


注1: 2016~2017年度にも特別研究を実施していたが、共同研究者の数は未集計

注2: 自機関(みんぱく)の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学(地域文化学専攻および比較文化学専攻)所属の大学院生等を含む

注3: 研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

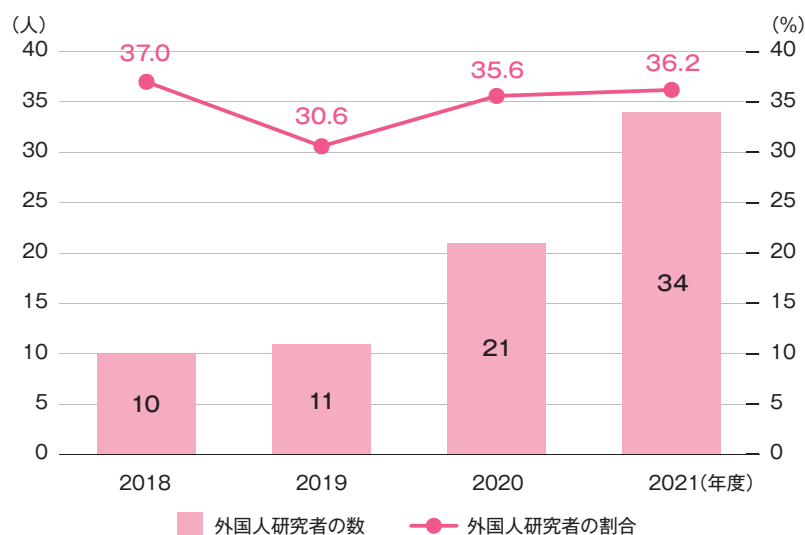
● 特別研究に参加した女性研究者の数と割合



注1: 2016~2017年度にも特別研究を実施していたが、共同研究者の数は未集計

注2: 研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 特別研究に参加した外国人研究者の数と割合



注1：2016～2017年度にも特別研究を実施していたが、共同研究者の数は未集計

注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

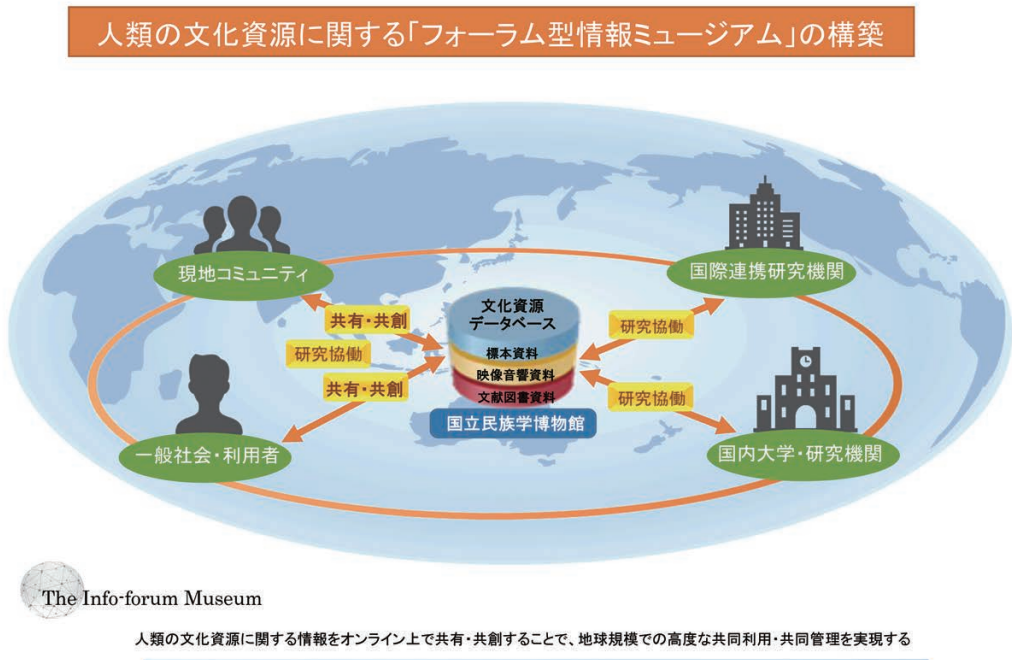
● 令和3年度の成果刊行書籍

著者／編者	著書	出版社
韓 敏	『記憶と象徴としての毛沢東——民衆のまなざしから』	臨川書店
Taku Iida	<i>Heritage Practices in Africa</i> (<i>Senri Ethnological Studies</i> 109)	National Museum of Ethnology

フォーラム型情報ミュージアム

● プロジェクト概要

本館が所蔵する様々な人類の文化資源をもとに国際共同研究を実施し、情報生成型で多方向的なマルチメディア・データベースの構築をおこなう研究プロジェクト。



● フォーラム型情報ミュージアムプロジェクトの一覧

区分	課題名	研究代表者	研究期間（年度）
開発型1	北米先住民製民族誌資料の文化人類学的ドキュメンテーションと共有 <i>Documenting and Sharing Information on Ethnological Materials: Working with Native American Tribes</i>	伊藤敦規	2014-2017
開発型2	台湾および周辺島嶼生態環境における物質文化の生態学的適応 <i>The Ecological Adaptation of Material Culture in Taiwan and Neighboring Islands</i>	野林厚志	2015-2018
開発型3	民博が所蔵するアイヌ民族資料の形成と記録の再検討 <i>Re-Examination and Documentation of the Ainu Collection at Minpaku</i>	斎藤玲子	2016-2019
開発型4	アフリカ資料の多言語双方向データベースの構築 <i>Building a Multilingual and Interactive Database for the Africa Collection</i>	飯田 卓	2017-2021
開発型5	中央・北アジアの物質文化に関する研究——民博収蔵の標本資料を中心に <i>Material Culture in Central and North Asia: Ethno-Cultural Objects at the National Museum of Ethnology</i>	寺村裕史	2018-2021
開発型6	海域アジアにおける人類の海洋適応と物質文化——東南アジア資料を中心に <i>Maritime Adaptation and Material Culture in Maritime Asia-Based on the Museum Materials from Southeast Asia</i>	小野林太郎	2019-2021
強化型1	「朝鮮半島の文化」に関するフォーラム型情報ミュージアムの基盤構築 <i>Building a Platform for the Info-Forum Museum Related to the Culture of the Korean Peninsula</i>	朝倉敏夫	2014-2015
強化型2	民博所蔵「ジョージ・ブラウン・コレクション」の総合的データベースの構築 <i>Building a Comprehensive Database for "The George Brown Collection" of the National Museum of Ethnology ("Minpaku")</i>	林 勲男	2014-2015

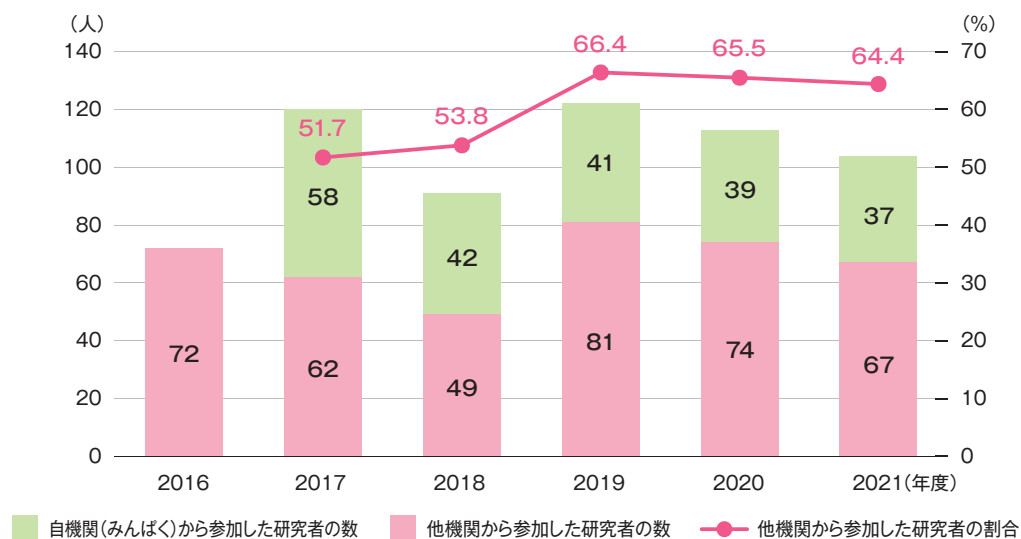
区分	課題名	研究代表者	研究期間（年度）
強化型3	徳之島の民俗芸能に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築 <i>Building an Info-Forum Museum for Folk Performing Arts in Tokunoshima</i>	福岡正太	2014-2015
強化型4	北米北方先住民の文化資源に関するデータベースの構築に関する研究——民博コレクションを中心に <i>A Study of Database Construction for the Cultural Resources of Indigenous Peoples in Northern North America, with a Focus on the Minpaku Collection</i>	岸上伸啓	2015-2017
強化型5	日本民族学会附属民族学博物館（保谷民博）資料の履歴に関する研究と成果公開 <i>Publication of Historical Trails of the Japanese Society for Ethnology's Collection</i>	飯田 卓	2016-2017
強化型6	中国地域の文化展示のフォーラム型情報ミュージアムの構築 <i>Building an Info-Forum Museum for Regional Cultures of China</i>	横山廣子	2016-2017
強化型7	楽器に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築 <i>Building an Info-Forum Museum for Musical Instruments</i>	福岡正太	2016-2017
強化型8	日本の文化展示場関連資料の情報公開プロジェクト <i>Information Disclosure Project for Documents Related to the Japanese Culture Exhibition at Minpaku</i>	日高真吾	2016-2017
強化型9	中東地域民衆文化資料コレクションを中心とするフォーラム型情報データベース <i>An Info-Forum Database for Popular Culture Collections from the Middle East</i>	西尾哲夫	2017-2018
強化型10	朝鮮半島関連の資料データベースの強化と国際的な接合に関する日米共同研究 <i>A Japan-US Joint Study to Enrich and Connect Korean Collections Databases</i>	太田心平	2017-2019
強化型11	中南米地域の文化資料のフォーラム型情報データベースの構築 <i>Building an Info-Forum Database for Cultural Collections of Central and South America</i>	八木百合子	2018-2021
強化型12	民博所蔵「朝枝利男コレクション」のデータベースの構築——オセアニア資料を中心に <i>Building an Info-Forum Database for the Asaeda Toshio Collection Focusing on His Oceania Ethnography</i>	丹羽典生	2018-2021
強化型13	ネパールのガンダルバ映像音響資料に関する情報共有型データベースの構築 <i>Building an Info-Forum Database for Audiovisual Records of the Gandharba Community, Nepal</i>	南 真木人	2018-2021
強化型14	時代玩具コレクションの公開プロジェクト <i>Information Disclosure Project for Jidai Gangu Collection</i>	日高真吾	2019-2020
強化型15	ミクロネシア文化資料のフォーラム型データベースの構築——20世紀前半収集資料を中心として <i>An Info-Forum Database for Minpaku Micronesia Collections; Focusing on Materials Collected in the Early 20th Century</i>	林 勲男	2019-2020
強化型16	津波の記憶を刻む文化遺産——寺社石碑データベースのフォーラム型情報ミュージアムへの改良 <i>Cultural Heritage Sites Possessing Memories of Tsunamis: Database of Temples/Shrines and Stone Monuments: Enhancing the Database for the Info-Forum Museum</i>	日高真吾	2020-2021
強化型17	セネガルにおける諸民族文化の映像記録を題材とする情報強化 <i>Information Reinforcement Based on Video Recordings of Various Ethnic Cultures in Senegal</i>	三島禎子	2020-2021
強化型18	データベース「焼畑の世界—佐々木高明のまなざし」の国際化と学際研究の展開 <i>Internationalization and the Development of Interdisciplinary Studies on Database of "Yakihata (Swidden Fields) - The SASAKI Komei Collection"</i>	池谷和信	2020-2021

●「人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築」 年次計画表

			2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
開発型	1	「米国南西部先住民資料」								
	2	「台湾・琉球関連資料」								
	3	「アイヌ資料」								
	4	「アフリカ関連資料」								期間延長
	5	「中央・北アジア資料」								
	6	「東南アジア資料」								
強化型	1	「韓国の現代生活資料」								
	2	「19世紀オセアニアの民族資料」								
	3	「日本南西諸島の芸能資料」								
	4	「北米北方先住民資料」								
	5	「澁澤コレクション資料」								
	6	「中国資料」								
	7	「世界の楽器資料」								
	8	「日本資料」								
	9	「中東資料」								
	10	「朝鮮半島関連資料」								
	11	「中南米資料」								期間延長
	12	「オセアニア資料」								期間延長
	13	「南アジア資料」								期間延長
	14	「日本の時代玩具資料」								
	15	「ミクロネシア資料」								
	16	「日本の津波石碑資料」								
	17	「セネガル民族映像資料」								
	18	「アジアの焼畑資料」								
多言語化対応										
システム開発										
		データベースシステム開発								
		横断検索機能開発								
高等教育活用プログラム開発										
国際発信プログラム										
		国際的成果発信のための出版 (年度毎に公募)					制度設計・運用			
		展示、国際研究集会等 (年度毎に公募)					制度設計	運用		
フォローアッププログラム							制度設計	運用		

参加者数の推移

● フォーラム型情報ミュージアムプロジェクトに参加した研究者の数と他機関から参加した研究者の割合

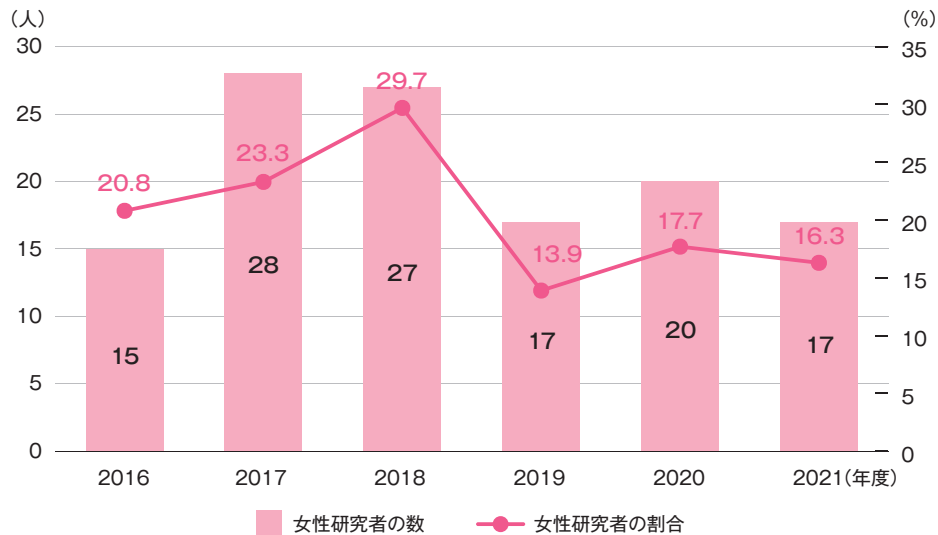


注1：2016年度に自機関（みんぱく）から参加した研究者の数は未集計

注2：自機関（みんぱく）の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻および比較文化学専攻）所属の大学院生等を含む

注3：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

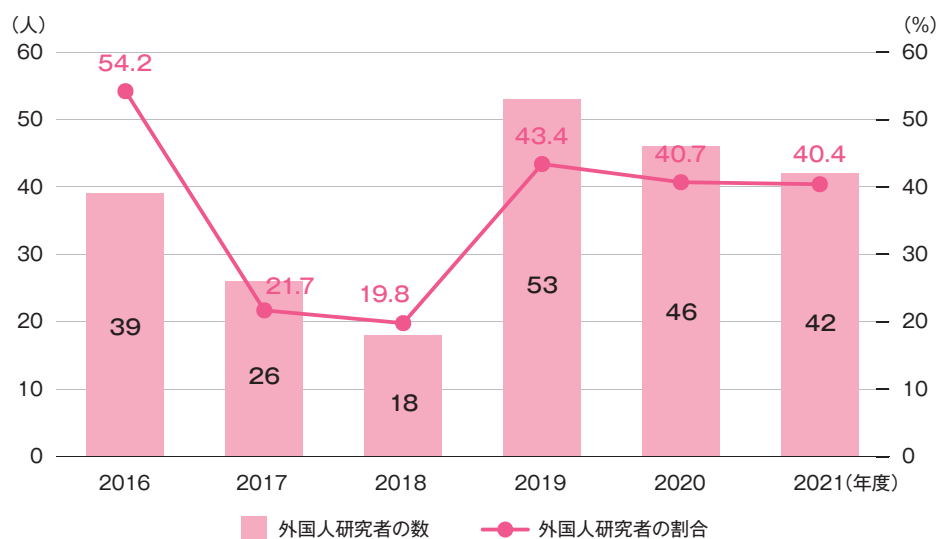
● フォーラム型情報ミュージアムプロジェクトに参加した女性研究者の数と割合



注1：2016年度に自機関（みんぱく）から参加した研究者の数は含まない

注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● フォーラム型情報ミュージアムプロジェクトに参加した外国人研究者の数と割合

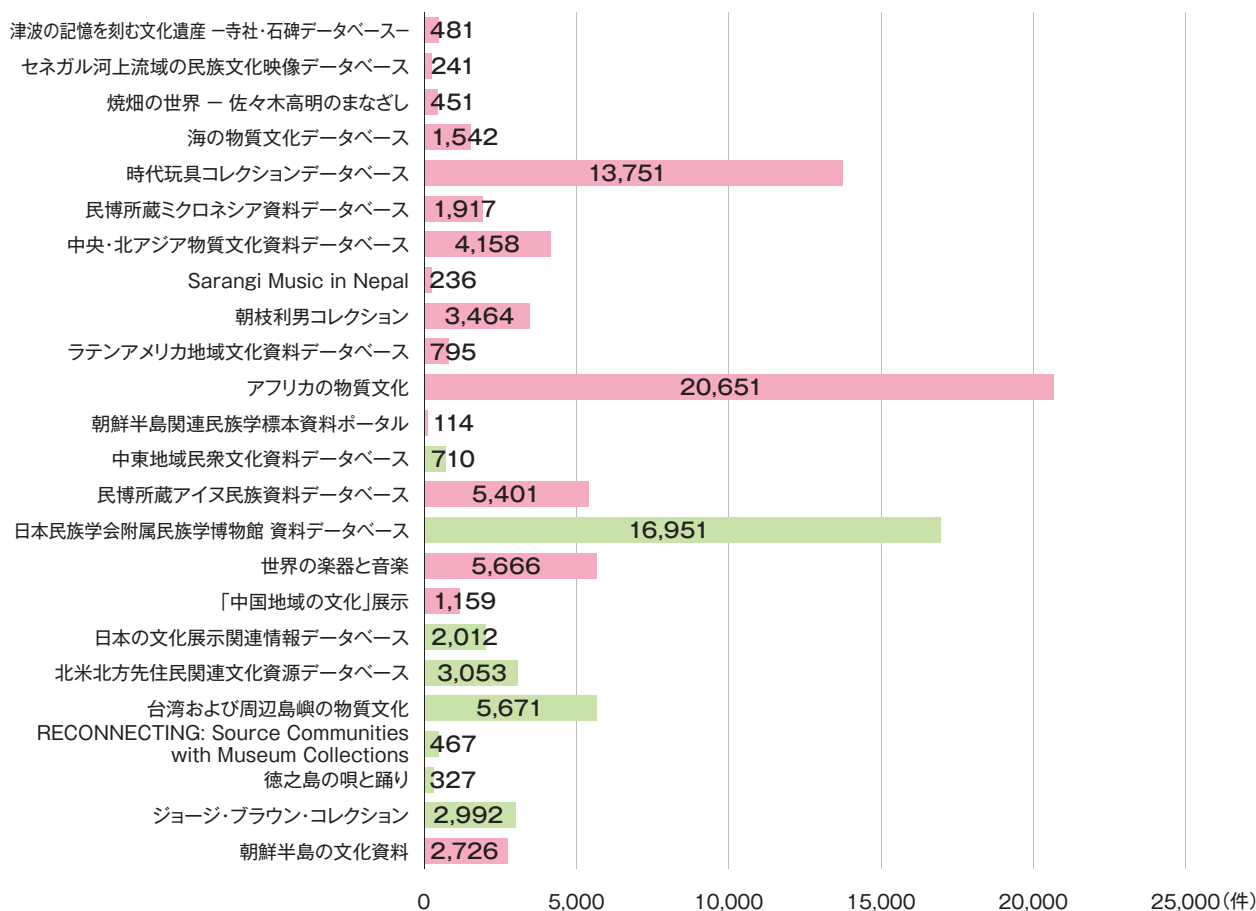


注1：2016年度に自機関（みんなく）から参加した研究者の数は含まない

注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

データベース構築・利用の推移

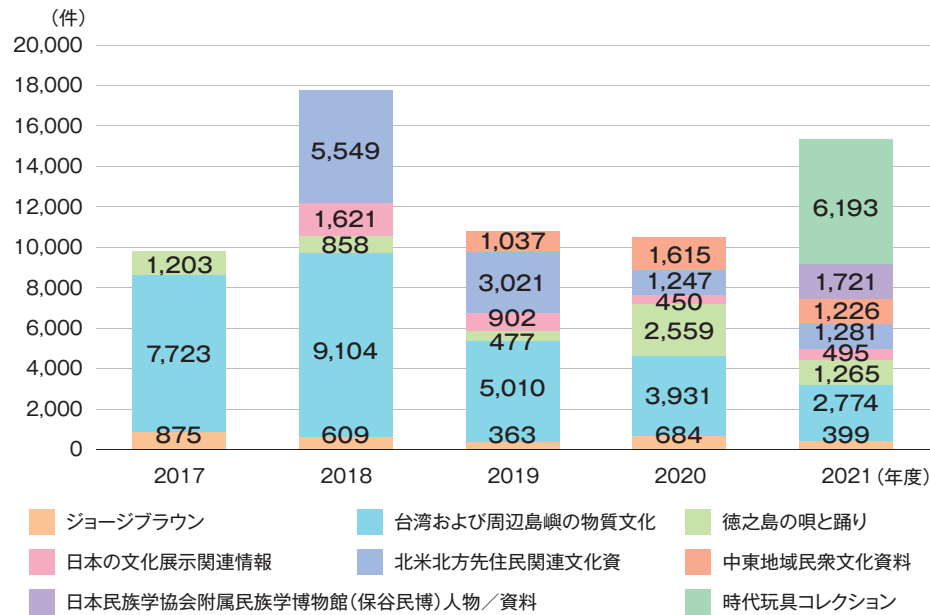
● フォーラム型情報ミュージアムプロジェクトで構築したデータベースの資料件数（2022年3月20日時点）



注1：一般公開中のデータベースは緑色で、非公開データベースはピンク色で示した

注2：「徳之島の唄と踊り」および「RECONNECTING: Source Communities with Museum Collections」は関係者のみの利用に限定

● 公開されているフォーラム型情報ミュージアム・データベースの利用件数



注1：利用件数は表示ページの合計ではなく、各データベースで最も重要なページ（標本資料詳細画面 / 動画再生画面 / 詳細画面等）の表示件数

注2：利用件数の調査は2017年から開始された

注3：「RECONNECTING: Source Communities with Museum Collections」は利用件数を未集計

● 令和3年度の成果刊行書籍

単著

著者	書籍名	出版社
韓 敏	記憶と象徴としての毛沢東——民衆のまなざしから	臨川書店

編著

編者	書籍名	出版社
Pei-Lin Yu, Kazunobu Ikeya, Meng Zhang (eds.)	<i>Advances in East Asian Agricultural Origins Studies: The Pleistocene to Holocene Transition</i>	MDPI Books
Atsunori Ito, Candice Lomahaftewa, Ramson Lomatewama, Kelley Hays-Gilpin, Henrietta Lidchi (eds.)	<i>Collections Reviews on 17 Silverworks Labeled "Hopi" in the History Colorado Center, a Silverwork in the Portland Art Museum, and a Silverwork Labeled "Hopi" in National Museums Scotland: Reconnecting Source Communities with Museum Collections 6, 7, 8 (National Museum of Ethnology Info-Forum Museum Resources 6)</i>	National Museum of Ethnology
Atsunori Ito, Candice Lomahaftewa, Merle Namoki, Kelley Hays-Gilpin, Takao Miyazato (eds.)	<i>Collections Review on 97 Items Labeled "Hopi" in the Little World Museum of Man: Reconnecting Source Communities with Museum Collections 9 (National Museum of Ethnology Info-Forum Museum Resources 7)</i>	National Museum of Ethnology
河村友佳子, 日高真吾 (編)	地域文化を映し出す	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館 日高真吾研究室
Min Han, Norio Niwa (eds.)	<i>Rethinking History: Perspectives on Recording Media, Practice, and Construction. (Senri Ethnological Studies 110)</i>	National Museum of Ethnology

編者	書籍名	出版社
西尾哲夫, 縄田浩志 (編)	片倉もところフィールド調査資料の研究 (国立民族学博物館調査報告 153)	国立民族学博物館

公募型共同研究

概要

文化人類学・民族学および関連分野の特定のテーマについて館内外の専門家が共同でおこなう研究。一般と若手のふたつの区分を設けており、共同研究（若手）は、若手研究者を育成・支援することを目的としている。

実施プロジェクト

令和3年度 共同研究課題一覧

■一般

課題1：新領域開拓型		※ 研究課題名をクリックすると詳細ページが開きます。	
No.	研究課題	研究代表者	研究期間
1	人類学／民俗学の学知と国民国家の関係——20世紀前半のナショナリズムとインテリジェンス	中生勝美	2017.10-2023.3
2	ネオリベリズムのモラルティ	田沼幸子	2017.10-2023.3
3	オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究	風間計博	2018.10-2023.3
4	伝統染織品の生産と消費——文化遺産化・観光化によるローカルな意味の変容をめぐって	中谷文美	2018.10-2023.3
5	心配と係り合いについての人類学的探求	西 真如	2018.10-2023.3
6	統治のフロンティア空間をめぐる人類学——国家・資本・住民の関係を考察する	佐川 徹	2018.10-2023.3
7	グローバル時代における「寛容性／非寛容性」をめぐるナラティブ・ポリティクス	山 泰幸	2018.10-2023.3
8	カネとチカラの民族誌——公共性の生態学にむけて	内藤直樹	2018.10-2023.3
9	グローバル化時代における「観光化／脱観光化」のダイナミズムに関する研究	東 賢太郎	2019.10-2023.3
10	食生活から考える持続可能な社会——「主食」の形成と展開	野林厚志	2019.10-2023.3
11	社会・文化人類学における中国研究の理論的定位——12のテーマをめぐる再検討と再評価	河合洋尚	2019.10-2023.3
12	人類史における移動概念の再構築——「自由」と「不自由」の相克に注目して	鈴木英明	2019.10-2023.3
13	島世界における葬送の人類学——東南アジア・東アジア・オセアニアの時空間比較	小野林太郎	2019.10-2023.3
14	海外フィールド経験のフィードバックによる新たな人類学的日本文化研究の試み	片岡 樹	2020.10-2023.3
15	「描かれた動物」の人類学——動物×ヒトの生成変化に着目して	山口未花子	2020.10-2023.3
16	月経をめぐる国際開発の影響の比較研究——ジェンダーおよび医療化の視点から	新本万里子	2020.10-2023.3
17	環北太平洋地域の先住民社会の変化、現状、未来に関する学際的比較研究——人類史的視点から	岸上伸啓	2020.10-2023.3
18	不確実性のなかでオルタナティブなコミュニティを問う——モノ、制度、身体のかみあい	森 明子	2020.10-2023.3

19	戦争・帝国主義と食の変容——食と国家の関係を再考する	宇田川妙子	2020.10-2023.3
20	日本列島の鵜飼文化に関するT字型学際共同アプローチ——野生性と権力をめぐって	卯田宗平	2020.10-2023.3
21	現代アジアにおける生殖テクノロジーと養育——ジェンダーとリプロダクションの学際的比較研究	白井千晶	2021.10-2024.3
22	観光における不確実性の再定位	土井清美	2021.10-2024.3
23	被傷性の人類学／人間学	竹沢尚一郎	2021.10-2024.3

課題2：学術資料共同利用型

※ 研究課題名をクリックすると詳細ページが開きます。

	研究課題	研究代表者	研究期間
1	博物館における持続可能な資料管理および環境整備——保存科学の視点から	園田直子	2017.10-2023.3
2	沙流川調査を中心とする泉靖——資料の再検討	大西秀之	2019.10-2023.3
3	民博所蔵東洋音楽学会資料に基づく日本民俗音楽の再構成と再活性化	植村幸生	2021.10-2024.3
4	日本人による太平洋の民族誌的コレクション形成と活用に関する研究——国立民族学博物館所蔵朝枝利男コレクションを中心に	丹羽典生	2021.10-2024.3

■ 若手

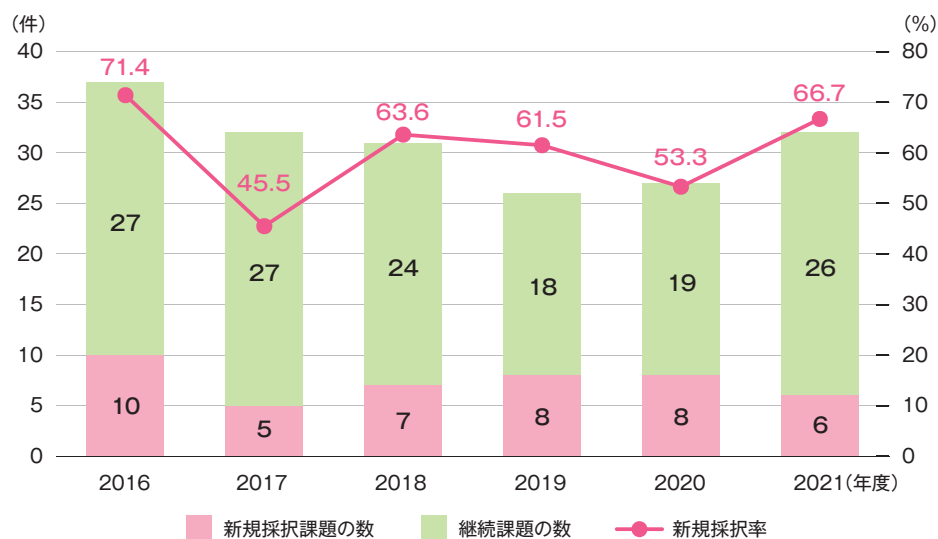
課題1：新領域開拓型

※ 研究課題名をクリックすると詳細ページが開きます。

	研究課題	研究代表者	研究期間
1	拡張された場における映像実験プロジェクト	藤田瑞穂	2018.10-2022.3
2	感性と制度のつながり——芸術をめぐる「喚起」と「評価」のプロセスから考える	緒方しらべ	2019.10-2023.3
3	モビリティと物質性の人類学	古川不可知	2019.10-2023.3
4	先住民と情報化する社会の関わり	近藤祉秋	2020.10-2023.3
5	伝承のかたち「触れる」プロジェクト——「3D プリント×伝統素材・技法」のアプローチから	宮坂慎司	2021.10-2024.3

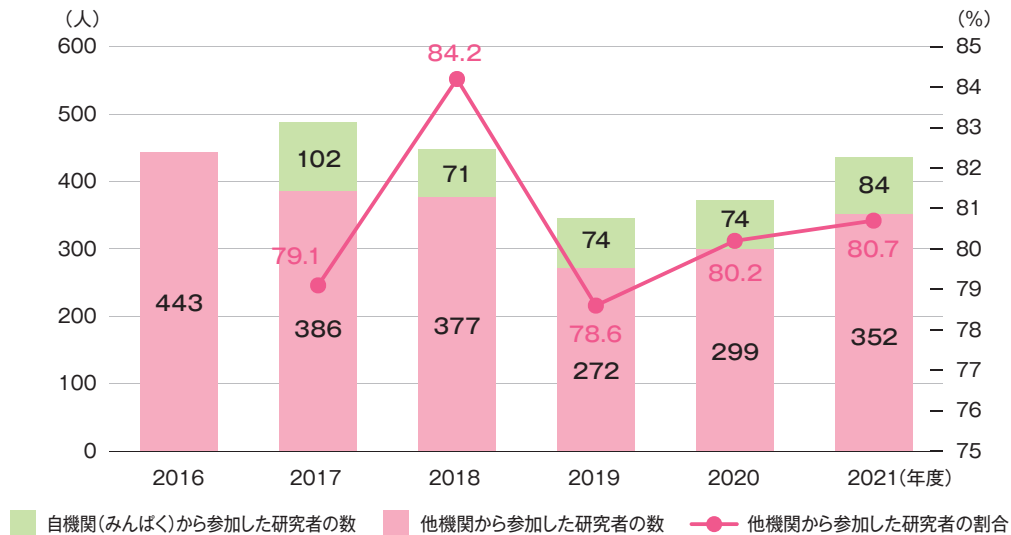
応募・採択状況

● 公募型共同研究の実施研究課題（新規および継続）の数および新規採択率の推移



参加者数の推移

● 公募型共同研究に参加した研究者の数とみんぱく研究者の割合

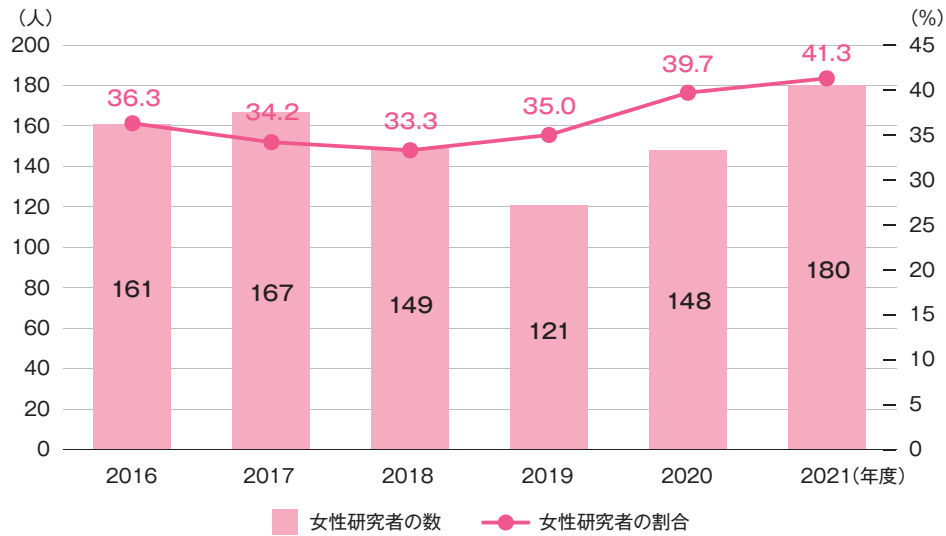


注1：2016年度に自機関（みんぱく）から参加した研究者の数は未集計

注2：自機関（みんぱく）の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻および比較文化学専攻）所属の大学院生等を含む

注3：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

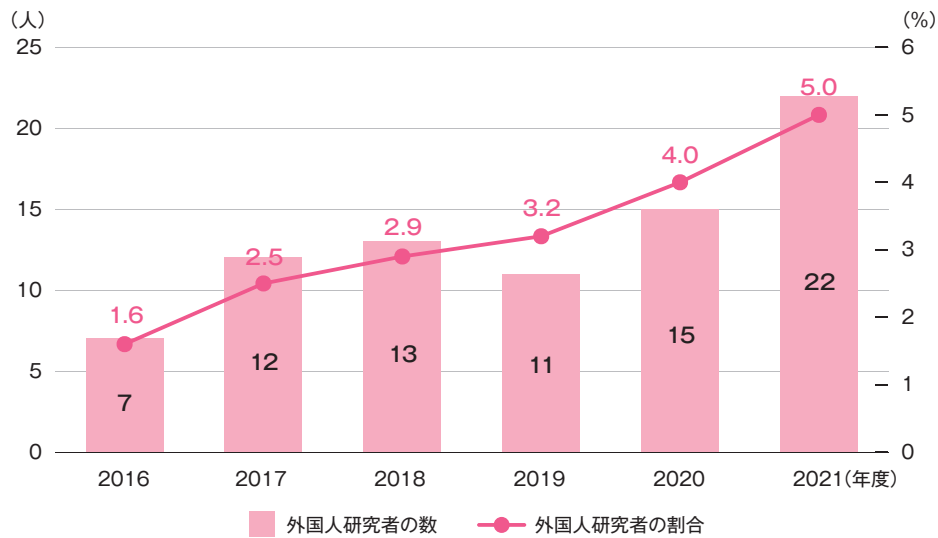
● 公募型共同研究に参加した女性研究者の数と割合



注1：2016年度に自機関（みんぱく）から参加した研究者の数は含まない

注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

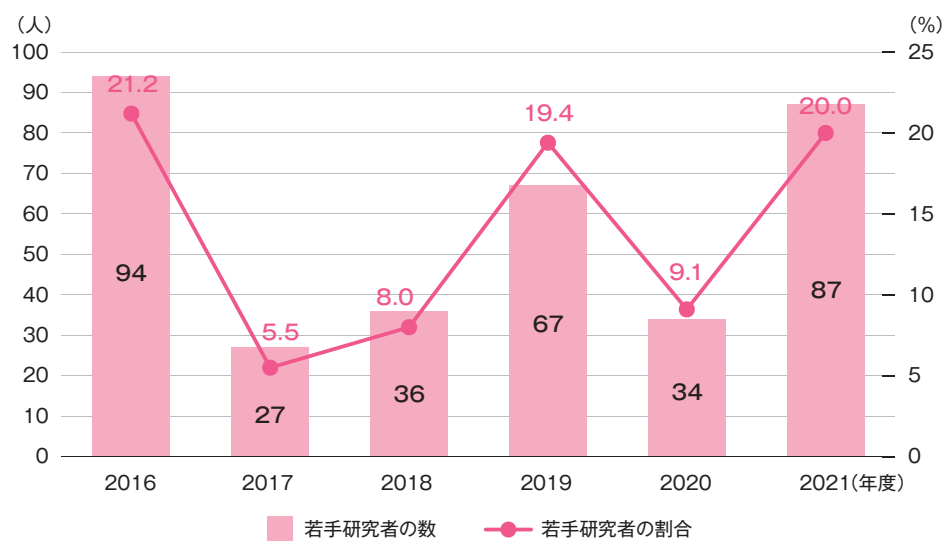
● 公募型共同研究に参加した外国人研究者の数と割合



注1：2016年度に自機関（みんぱく）から参加した研究者の数は含まない

注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 公募型共同研究に参加した若手研究者（39歳以下）の数と割合



注1：2016年度に自機関（みんぱく）から参加した研究者の数は含まない
 注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 令和3年度に進行中の公募型共同研究の成果刊行書籍

単著		
著者	書籍名	出版社
卯田宗平	鵜と人間——日本と中国、北マケドニアの鵜飼をめぐる鳥類民俗学	東京大学出版会
卯田宗平	外来種と淡水漁撈の民俗学——琵琶湖の漁師にみる「生業の論理」	昭和堂
川瀬 慈	私の中の野生	本屋 B&B
韓 敏	記憶と象徴としての毛沢東——民衆のまなざしから	臨川書店
Yutaka Sakuma	<i>Index de Présence Africaine par auteur (1947-2016)</i>	Présence Africaine Editions
風間計博	強制移住と怒りの民族誌——バナバ人の歴史記憶・政治闘争・エスニシティ	明石書店
藤井真一	生成される平和の民族誌——ソロモン諸島における「民族紛争」と日常性	大阪大学出版会
岡野英之	西アフリカ・エボラ危機2013-2016——最貧国シエラレオネの経験	ナカニシヤ出版
清水拓野	中国伝統芸能の俳優教育——陝西省演劇学校のエスノグラフィー	風響社
小林和夫	奴隷貿易をこえて——西アフリカ・インド綿布・世界経済	名古屋大学出版会
松村圭一郎	くらしのアナキズム	ミシマ社
松村圭一郎	働くことの人類学【活字版】	黒鳥社
盛口 満	魚毒植物	南方新社
管 啓次郎	Paradise Temple	Tombac

編者	書籍名	出版社
Atsunori Ito, Candice Lomahaftewa, Ramson Lomatewama, Kelley Hays-Gilpin, Henrietta Lidchi (eds.)	<i>Collections Reviews on 17 Silverworks Labeled "Hopi" in the History Colorado Center, a Silverwork in the Portland Art Museum, and a Silverwork Labeled "Hopi" in National Museums Scotland: Reconnecting Source Communities with Museum Collections 6, 7, 8 (National Museum of Ethnology Info-Forum Museum Resources 6)</i>	National Museum of Ethnology
Atsunori Ito, Candice Lomahaftewa, Merle Namoki, Kelley Hays-Gilpin, Takao Miyazato (eds.)	<i>Collections Review on 97 Items Labeled "Hopi" in the Little World Museum of Man: Reconnecting Source Communities with Museum Collections 9 (National Museum of Ethnology Info-Forum Museum Resources 7)</i>	National Museum of Ethnology
上羽陽子, 金谷美和 (編)	躍動するインド世界の布	昭和堂
卯田宗平 (編)	野生性と人類の論理——ポスト・ドメスティケーションを捉える4つの思考	東京大学出版会
野澤豊一, 川瀬 慈 (編)	音楽の未明からの思考——ミュージッキングを超えて	アルテスパブリッシング
Min Han, Norio Niwa (eds.)	<i>Rethinking History: Perspectives on Recording Media, Practice, and Construction (Senri Ethnological Studies 110)</i>	National Museum of Ethnology
西尾哲夫, 縄田浩志 (編)	片倉もところフィールド調査資料の研究 (国立民族学博物館調査報告 153)	国立民族学博物館
橋本沙知, 日高真吾 (編)	被災文化財を通じた地域文化の継承モデル——博物館の視点から	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館 日高真吾研究室
泉水英計 (編)	近代国家と植民地性——アジア太平洋地域の歴史的展開	御茶の水書房
Takayuki Nakamura, Yutaka Sakuma, Aggée Célestin, Lomo Myazhiom (eds.)	<i>Présence africaine : Vers de nouvelles perspectives politiques et culturelles : Identités, mémoires, résistances entre l'Afrique, l'Europe et les Amériques de la colonisation à la post-colonie</i>	Histoire & Anthropologie
西本陽一, 田村うらら, 木戸七彩 (編)	石川県金沢市二俣町——再訪	金沢大学文化人類学研究室
Willemijn de Jong, Eriko Aoki, John Clammer (eds.)	<i>Arts in the Margins of World Encounters</i>	Vernon Press
青木恵理子 (編)	アートの根っこ——想像・妄想・創造・捏造を社会へ放つ	晃洋書房
石井美保, 岩谷彩子, 金谷美和, 河西瑛里子 (編)	官能の人類学——感覚論的転回を超えて	ナカニシヤ出版
蘆田裕史, 藤嶋陽子, 宮脇千絵 (編)	クリティカル・ワード ファッションスタディーズ——私と社会と衣服の関係	フィルムアート社
佐藤史郎, 石坂晋哉 (編)	現代アジアをつかむ——社会・経済・政治・文化 35の 이슈	明石書店
栗本英世, モハーチ ゲルゲイ, 山田一憲 (編)	『争う』シリーズ人間科学7	大阪大学出版会
Mayu Ikemi, Neni Sintawardani, Ken Ushijima, Taro Yamauchi (eds.)	<i>15 Years of Sanitation in Kiaracondong, Bandung</i>	Research Institute for Humanity and Nature

編者	書籍名	出版社
Shinichi Takeuchi (ed.)	<i>African Land Reform Under Economic Liberalisation : States, Chiefs, and Rural Communities</i>	Springer
武内進一, 中山智香子 (編)	ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ——アメリカからグローバル世界へ	東京外国語大学出版会
後藤 明 (監修), 大西秀之 (編)	モノ・コト・コトバの人類史——総合人類学の探求 (後藤明先生退職記念論集)	雄山閣
市野澤潤平, 碓 陽子, 東賢太郎 (編)	観光人類学のフィールドワーク——ツーリズム現場の質的調査入門	ミネルヴァ書房
宮脇幸生, 戸田真紀子, 中村香子, 宮地歌織 (編)	グローバル・ディスコースと女性の身体——アフリカの女性器切除とローカル社会の多様性	晃洋書房
松井広志, 岡本 健 (編)	ソーシャルメディア・スタディーズ	北樹出版
岡本 健, 松井広志, 松本健太郎 (編)	ゆるレポ——卒論・レポートに役立つ「現代社会」と「メディア・コンテンツ」に関する40の研究	人文書院
飯島典子, 河合洋尚, 小林宏至 (著), 周俊宇 (訳)	客家——歴史・文化・印象	南天書局 (台北)
簡美玲, 河合洋尚 (編)	百年往返——台灣與日本客家研究之對話	客家文化發展中心 (竹北)
江戸川大学現代社会学科 (監修), 土屋 薫, 阿南 透, 大塚良治, 川瀬由高, 佐藤秀樹 (編)	現場に立つから、おもしろい——世界をつなぐ、ひと・モノ・しくみ	春風社
가미즈루 히사히코, 오타 심페이, 오자키 다카히로, 가와구치 유키히로 (역음), 박지환 (옮김) (上水流久彦, 太田心平, 尾崎孝宏, 川口幸大 (編), 朴志煥 (訳))	문화인류학으로 보는 동아시아 (東アジアで学ぶ文化人類学)	도서출판 놀민 (ヌルミン出版、ソウル)
小林 功, 馬場多聞 (編)	地中海世界の中世史	ミネルヴァ書房
中西嘉宏, 片岡 樹 (編)	初学者のための東南アジア研究	京都大学東南アジア研究所
Doug Slaymaker (ed.), Keijiro Suga (reader)	<i>Wild Lines and Poetic Travels</i>	Lexington Books
清水貴夫, 牛島 健, 池見真由, 林 耕次 (編)	講座 サニテーション学 5 サニテーションのしくみと共創	北海道大学出版会
西尾美也 (監修), 西尾咲子 (編)	超教育学としてのアートプロジェクト (奈良県立大学「実践型アートマネジメント人材育成プログラム CHISOU」2021年度 記録集)	奈良県立大学
藤田瑞穂 (編)	京芸 transmit program 2021	京都市立芸術大学ギャラリー @ KCUA
村橋 勲, 伊東未来, 中川理 (編)	かかわりあいの人類学	大阪大学出版会
栗本英世, 藤井真一, 川口博子, 村橋 勲 (編)	サバンナの彼方——栗本英世教授退職記念文集	能登出版印刷部
白井千晶 (編)	アジアの出産とテクノロジー——リプロダクションの最前線	勉誠出版

文化資源プロジェクト

● プロジェクト概要

みんぱく専任教員の提案に基づき、みんぱくあるいは大学等関連諸機関が所有する学術資源の体系化をすすめ、共同利用を促進し、学術的価値を高めるために実施する研究プロジェクト。

実施プロジェクト

● 令和3年度 文化資源プロジェクト一覧

1 調査・収集分野（0件）			
プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間	
該当なし			
2 資料管理分野（0件）			
プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間	
該当なし			
3 展示分野（15件）			
プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間	
特別展 「復興を支える地域の文化——3.11から10年」	日高真吾	2年計画の2年目	
特別展 「ユニバーサル・ミュージアム——さわる！“触”の大博覧会」	廣瀬浩二郎	3年計画の3年目	
特別展 「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」（仮称）	島村一平	3年計画の2年目	
企画展 「躍動する布——布がひらくインド世界」（仮称）	上羽陽子	2年計画の2年目	
企画展 「佐々木高明の見た焼畑——五木村から世界へ」	池谷和信	2年計画の1年目	
巡回展 「子ども／おもちゃの博覧会」（島根県立古代出雲歴史博物館）	笹原亮二	2年計画の2年目	
巡回展 「ピース——つなぐ・かざる・みせる」（国立アイヌ民族博物館）	池谷和信	2年計画の2年目	
巡回展 「驚異と怪異——想像界の生きものたち」（仮）（高知県立歴史民俗資料館）	山中由里子	2年計画の1年目	
巡回展 「驚異と怪異——想像界の生きものたち」（仮）（福岡市博物館）	山中由里子	3年計画の1年目	
巡回展 「復興を支える地域の文化——3.11から10年」	日高真吾	単年度	
特別展示 「homō loquēns「しゃべるヒト」～ことばの不思議を科学する～」開催準備	菊澤律子	3年計画の2年目	
特別展 「ラテンアメリカの想像力」（仮題）の予備調査	鈴木 紀	3年計画の1年目	
特別展示 「ヒンドゥー神像の世界」（仮題）の予備調査	三尾 稔	3年計画の1年目	
企画展 「海と人類——海域アジア・オセアニアの漁具～儀礼具まで」（仮称）開催準備	小野林太郎	2年計画の1年目	
特別展 「吟遊詩人の世界」（仮題）の予備調査	川瀬 慈	4年計画の1年目	
4 博物館社会連携分野（2件）			
プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間	
知的障害者の博物館活用に関する実践的研究	信田敏宏	単年度	
博物館社会連携事業強化プロジェクト	吉岡 乾	単年度	

情報プロジェクト

プロジェクト概要

みんぱく専任教員の提案に基づき、みんぱくあるいは大学等関連諸機関が所有する学術資源の情報化をすすめ、共同利用を促進し、学術的価値を高めるために実施する研究プロジェクト。

実施プロジェクト

令和3年度 情報プロジェクト一覧

1 取材・収集分野（3件）

プロジェクト名	提案者	プロジェクト期間
みんぱく映像民族誌 「米国先住民ホピの服飾作家による季節の踊りの盛装解説」（仮題）の制作	伊藤敦規	2年計画の1年目
みんぱく映像民族誌 「コロナ状況下の 伊勢大神楽——山本源太夫社中の活動記録」（仮題）制作	山中由里子	単年度
（延長プロジェクト） 伊勢大神楽の映像音響資料収集	山中由里子	単年度計画の延長 （2年目）

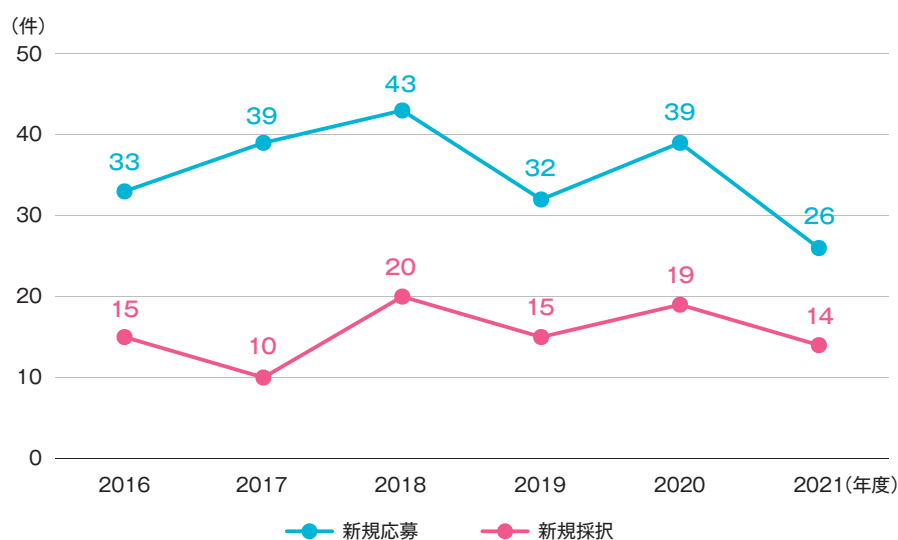
2 情報化分野（1件）

プロジェクト名	提案者	プロジェクト期間
毛沢東バッジのデータベースの作成	韓 敏	単年度

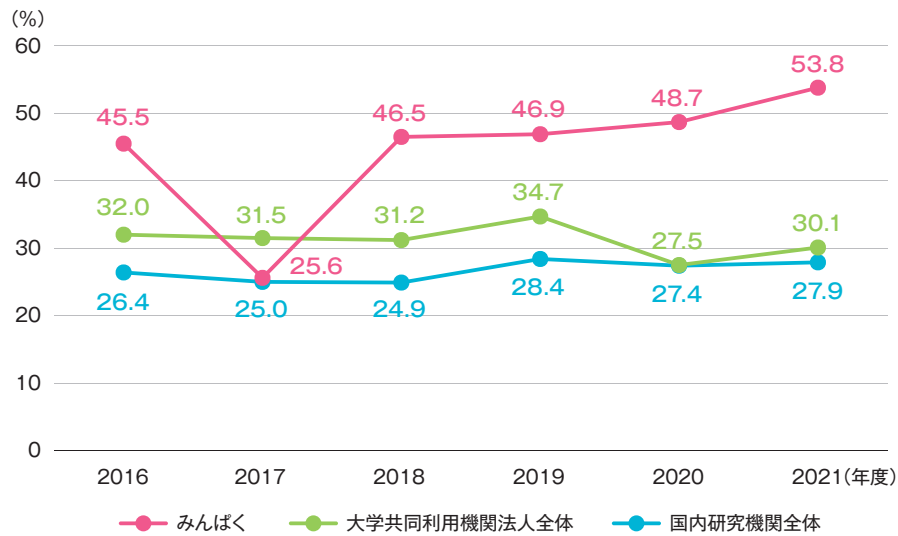
2-3 外部資金による研究

科研費による研究プロジェクト

新規応募件数と新規採択件数

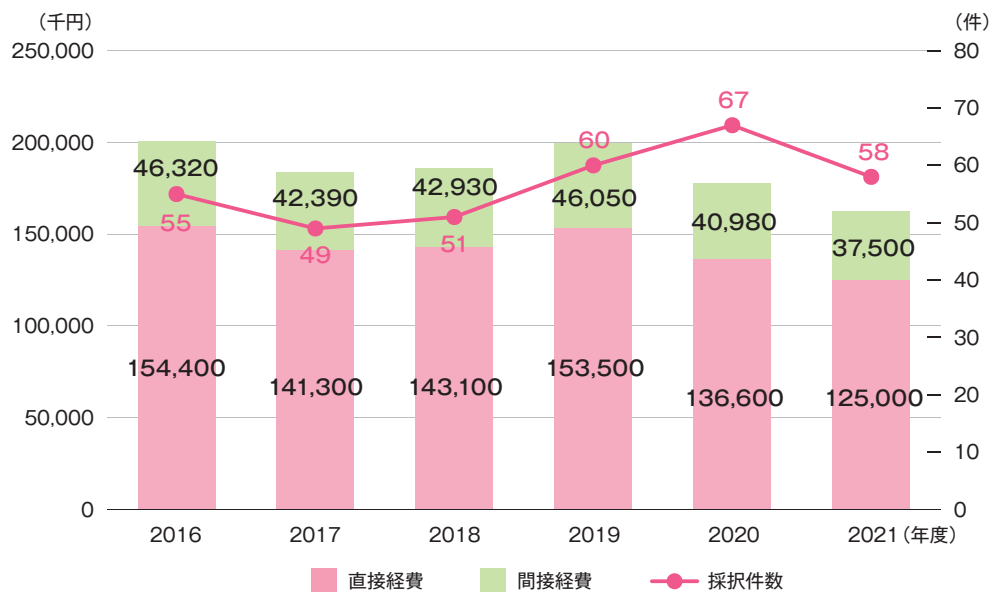


● 新規採択率の比較



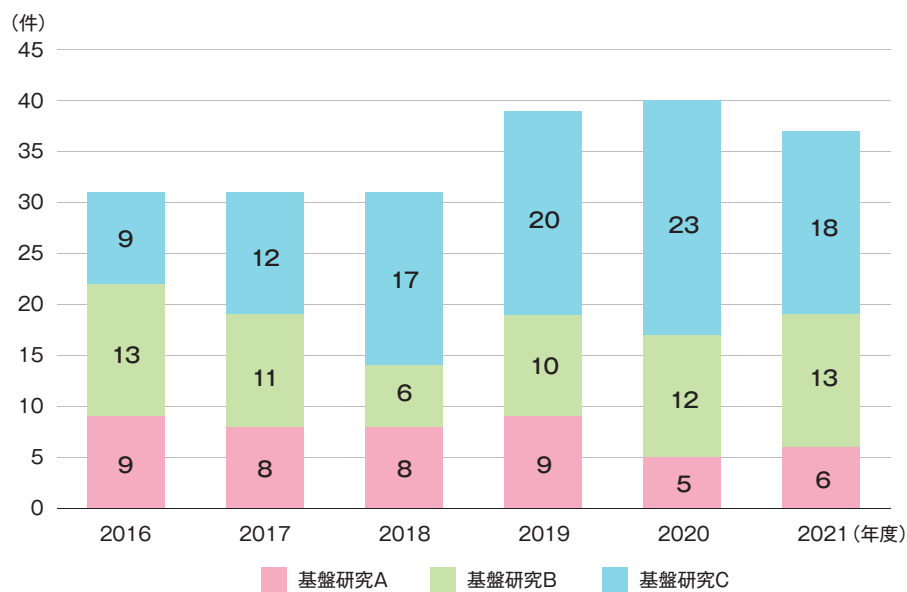
【出典】日本学術振興会・科研費データ

● 採択件数（新規＋継続）と配分額



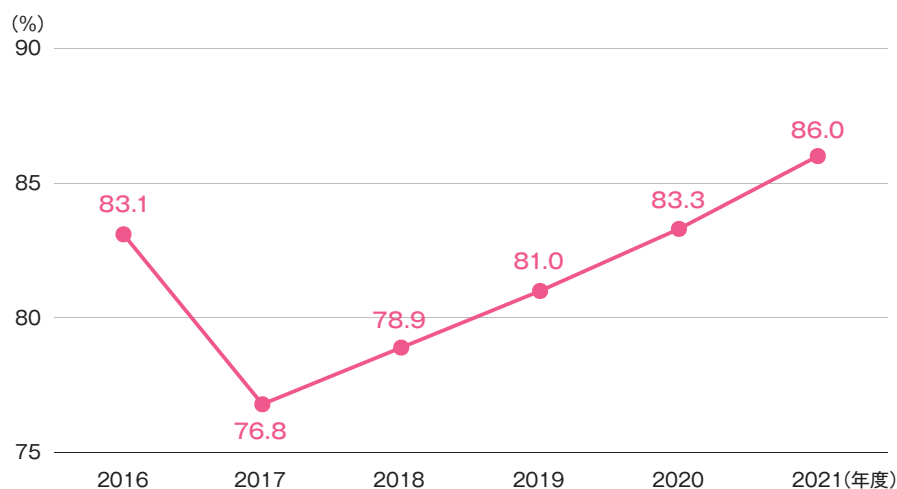
【出典】日本学術振興会・科研費データ

● 基盤研究（A・B・C）の採択件数（新規＋継続）



【出典】日本学術振興会・科研費データ

● 科研費参加率



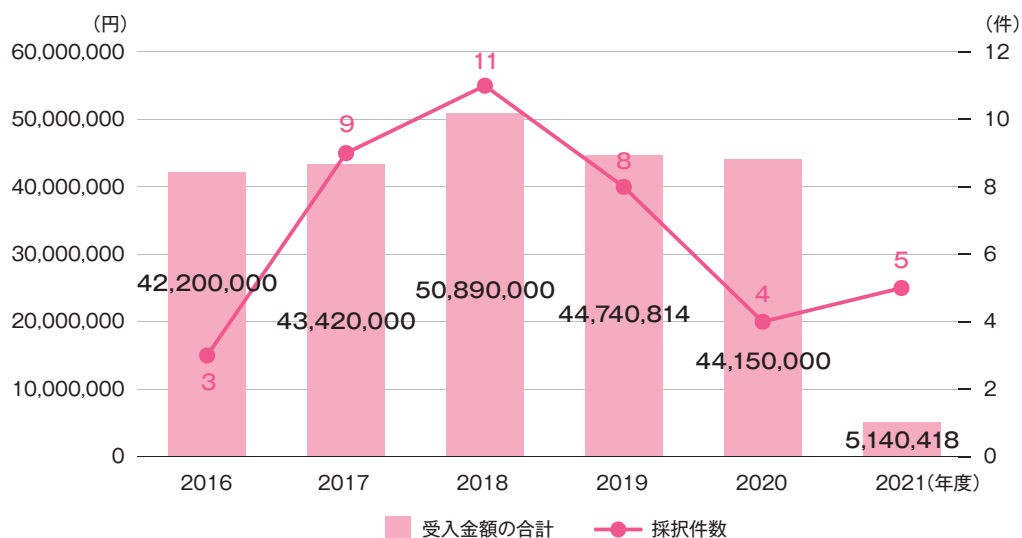
注1：参加率は、当該年度に科研費の研究代表者もしくは研究分担者になっている常勤研究者の割合（基準日：9月30日）

注2：対象は常勤教員（館長と特任教員を含む）および、みんばくで研究活動をおこなう人間文化研究機構研究員

民間助成などによる研究プロジェクト

採択件数／配分額の推移

● 民間助成などによる研究プロジェクトの獲得件数と受入金額



注：採択年度ではなく、入金があった年度での集計

● 助成機関の一覧（2016～2021年度）

住友生命（未来を強くする子育てプロジェクト）
 公益信託 澁澤民族学振興基金
 公益財団法人 日本財団
 公益財団法人 りそなアジア・オセアニア財団
 公益財団法人 高梨学術奨励基金
 公益財団法人 たばこ総合研究センター
 公益財団法人 松下幸之助記念財団
 公益社団法人 日本地理学会
 公益財団法人 三島海雲記念財団
 公益財団法人 ロッテ財団
 公益財団法人 鹿島美術財団
 公益財団法人 アイヌ民族文化財団
 公益財団法人 味の素の文化センター
 公益財団法人 平和中島財団
 公益財団法人 日本科学協会
 一般社団法人 日本文化人類学会
 日本カナダ学会
 順益台湾原住民博物館
 Australian Research Council
 韓国学中央研究院

2-4 研究出版活動

館内の出版物

令和3年度 研究出版活動

国立民族学博物館研究報告	46巻1号、46巻2号、46巻3号、46巻4号
Senri Ethnological Studies (SES)	no. 107、no. 108、no. 109、no. 110
Senri Ethnological Reports (SER)	153号、154号
TRAJECTORIA	Vol. 3

本館助成による館外出版物

1. 卯田宗平編『野生性と人類の論理——ポスト・ドメスティケーションを捉える4つの思考』東京大学出版会
2. 野澤豊一・川瀬 慈編著『音楽の未明からの思考——ミュージッキングを超えて』アルテスパブリッシング
3. 卯田宗平著『鵜と人間——日本と中国、北マケドニアの鵜飼をめぐる鳥類民俗学』東京大学出版会

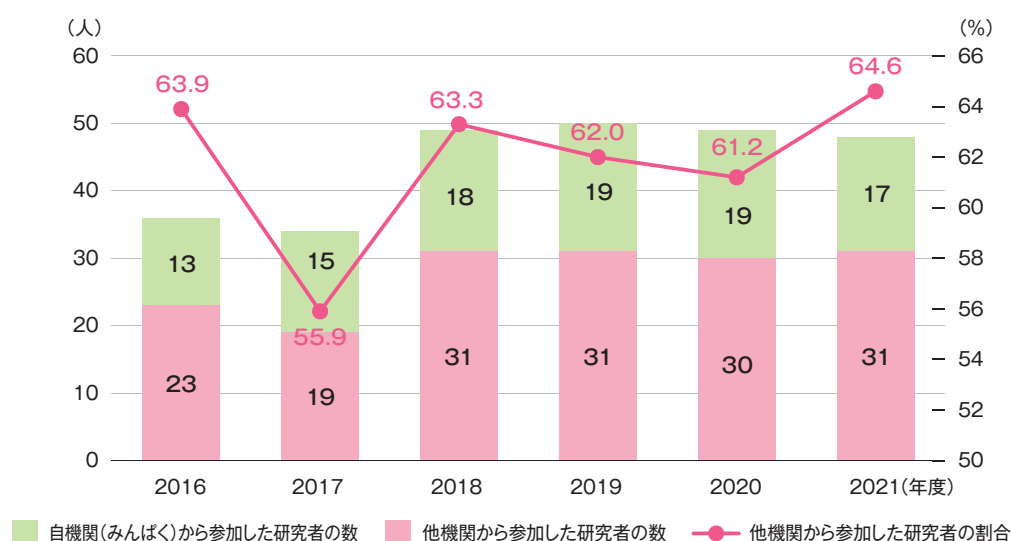
2-5 人間文化研究機構 機構連携プロジェクト

人間文化研究機構が国内外の大学等研究機関や地域社会等と組織的に連携し、現代的諸課題の解明に資するプロジェクト。

広領域連携型 基幹研究プロジェクト

参加者数の推移

● みんぱくの広域連携型基幹研究プロジェクトに参加した研究者の数と他機関から参加した研究者の割合



注1：自機関(みんぱく)の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学(地域文化学専攻および比較文化学専攻)所属の大学院生等を含む

注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 令和3年度の成果刊行書籍

単著

著者	書籍名	出版社
朝倉敏夫	食の人文学ノート	花乱社
加藤幸治	民俗学 ヴァナキュラー編	武蔵野美術大学出版局
是澤博昭	六義園・柳沢家の雛祭——『宴遊日記』にみる江戸の人形文化	ミネルヴァ書房

共著・編著

著者／編者	書籍名	出版社
和高智美, 日高真吾（編）	地域文化から考える復興の姿	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館 日高真吾研究室
河村友佳子, 日高真吾（編）	地域文化を映し出す	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館 日高真吾研究室
橋本沙知, 日高真吾（編）	被災文化財を通じた地域文化の継承モデル——博物館の視点から	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館 日高真吾研究室
飯沼賢司, 山本晴樹	別府大学開学ものがたり	別府大学
山本さくら, 飯沼賢司	田染荘のトンボと生き物たち——世界農業遺産の里「田染荘」の自然環境について	荘園の里推進委員会（大分県豊後高田市）
小林忠雄, 山崎達文, 加藤謙一ほか	石川ふるさと遺産	北國新聞社
天野真志, 後藤 真（編）	地域歴史文化継承ガイドブック	文学通信
川村清志, 高科真紀（編）	七浦から世界へ——調査・研究・活用の拠点としてのフィールド	国立歴史民俗博物館
北川フラム, 南条嘉毅, 川村清志	スズ・シアター・ミュージアム「光の方舟」	現代企画室
渋谷 拓, 在田有里子, 日高真吾（編）	高等教育映像シリーズ 平成の百工比照	金沢美術工芸大学・国立民族学博物館

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

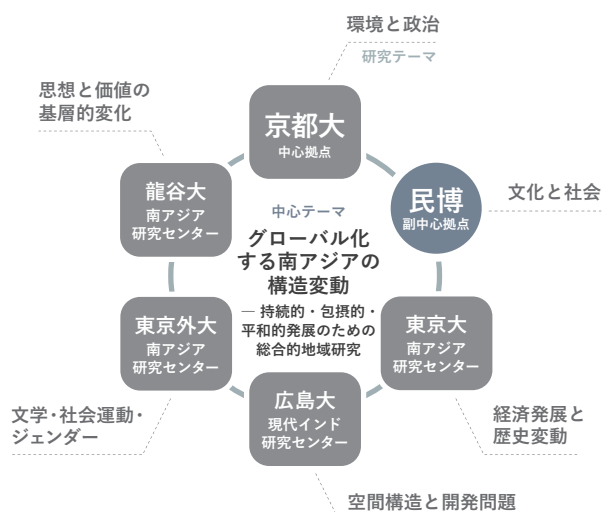
大学院教育

業務運営

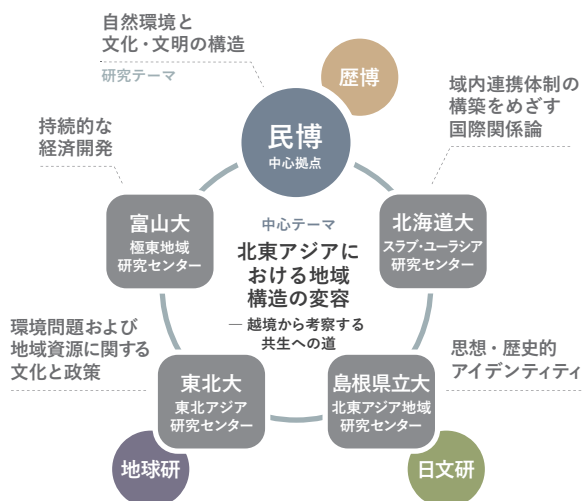
ネットワーク型 基幹研究プロジェクト

● みんなの参画プロジェクト

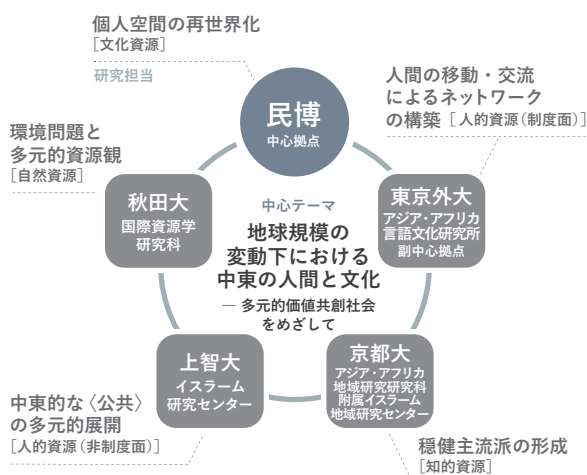
● 南アジア地域研究



● 北東アジア地域研究

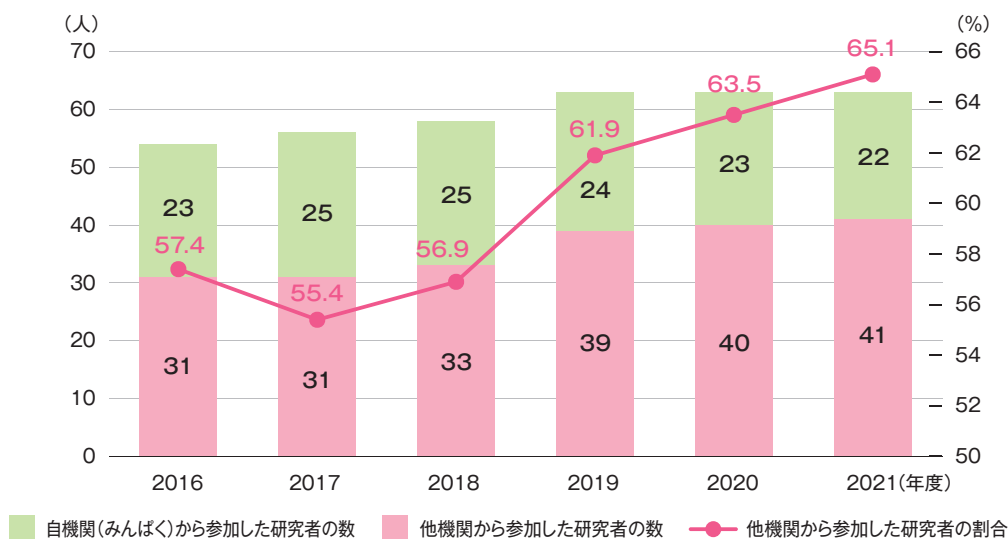


● 現代中東地域研究



参加者数の推移

● みんなくのネットワーク型基幹研究プロジェクトに参加した研究者の数と他機関から参加した研究者の割合



注1：自機関（みんなく）の研究者には、みんなくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻および比較文化学専攻）所属の大学院生等を含む

注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 令和3年度の成果刊行書籍

単著

著者	書籍名	出版社
池谷和信	トナカイの大地、クジラの海の民族誌——ツンドラに生きるロシアの先住民チュクチ	明石書店
韓 敏	記憶と象徴としての毛沢東——民衆のまなざしから	臨川書店

共著・編著

著者／編者	書籍名	出版社
Pei-Lin Yu, Kazunobu Ikeya, Meng Zhang (eds.)	<i>Advances in East Asian Agricultural Origins Studies: The Pleistocene to Holocene Transition</i>	MDPI Books
Min Han, Norio Niwa (eds.)	<i>Rethinking History: Perspectives on Recording Media, Practice, and Construction (Senri Ethnological Studies 110)</i>	National Museum of Ethnology
西尾哲夫, 東長 靖 (編)	中東・イスラーム世界への30の扉	ミネルヴァ書房
西尾哲夫, 縄田浩志 (編)	片倉もところフィールド調査資料の研究 (国立民族学博物館調査報告 153)	国立民族学博物館
Tetsuo Nishio, Okamoto Naoko, Jun'ichi Oda, Margaret Sironval, Marion Chesnais, Yo Kaji	<i>Catalogue du fonds Josephe-Charles Mardrus, traducteur des Mille Nuits et Une Nuit</i>	Édition Abencerage, A. Ghozzi
Tetsuo Nishio, Okamoto Naoko (eds.)	<i>Histoire arabe de Sindabad Le Marin par François Pétis de La Croix : édition critique des manuscrits conservés à la Bibliothèque d'État de Bavière de Munich et à la Bibliothèque publique de Cleveland</i>	Center for Modern Middle East Studies, National Museum of Ethnology
Kaname Takami, Kaoru Suemori, Tetsuo Nishio, Kenji Kuroda (eds.)	<i>Research Source Guide for Museums in the Middle East IV: Arab Countries</i>	Center for Modern Middle East Studies, National Museum of Ethnology

3 共同利用

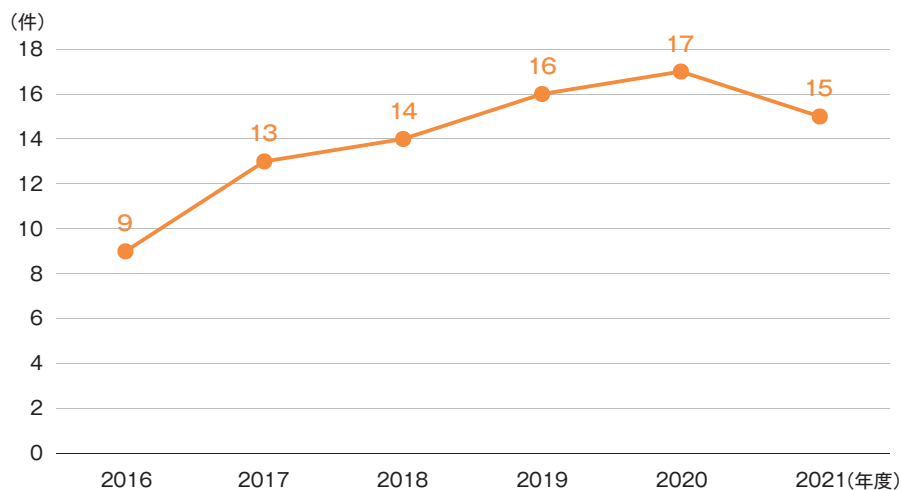
3-1 国内における研究連携

国内研究機関等との研究連携

令和3年度 国内学術協定一覧

No.	締結日	相手機関名	協定の概要
1	H20.2.27	日本文化人類学会	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用を促進し、もって人類社会における学術の発展と普及に寄与する。
2	H26.3.23	国立大学法人 金沢大学	金沢大学と国立民族学博物館とのこれまで長年にわたり培ってきた信頼関係と連携・協力の実績を基盤に、より緊密かつ組織的に行う体制強化を図る。
3	H26.4.10	立命館大学	食に関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
4	H27.3.23	大阪工業大学	情報メディア・デジタルコンテンツに関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
5	H27.11.19	株式会社 海遊館	産学連携の推進、学術研究の振興、研究成果による社会貢献、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
6	H27.11.25	国立大学法人 東京外国語大学 (アジア・アフリカ言語文化研究所)	世界諸地域の言語と文化に関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
7	H28.7.15	国立大学法人 神戸大学 (大学院人文学研究科)	研究教育職員の交流、共同研究及び教育協力等の実施、資料の保存、活用及び展示に関する相互協力等を行う。
8	H30.2.16	国立大学法人 山形大学	研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
9	H30.3.17	国立大学法人 大阪大学	学術研究、教育、社会貢献及びその他諸活動の発展に資する。
10	H30.3.19	京都芸術大学 (R2.4.1～) (旧 京都造形芸術大学)	研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
11	H30.11.19	一般社団法人 文化財保存修復学会	文化財保存のための基礎研究を行う研究者、実際に文化財の修復を行う修復家、美術館・博物館の学芸員、将来の専門家を育成する教育機関の関係者、専門家を志す学生などさまざまな立場の会員が集まり、文化財の保存に関わる科学・技術の発展と普及を図る。
12	H30.11.26	日本展示学会	両機関が行う研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
13	R1.11.3	一般社団法人 東洋音楽学会	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用を促進し、もって音楽文化の持続可能な発展と、音楽文化研究の深化に寄与する。
14	R2.3.26	神奈川大学日本常民文化研究所	両機関が行う研究活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究の一層の進展と日本の文化人類学・民俗学等の発展に資する。
15	R3.3.22	公立大学法人 金沢美術工芸大学	相互に連携を図り、平成の百工比照コレクションデータベース（以下「データベース」という。）を基に、高等教育におけるデータベースの在り方及び活用手法について検証するとともに、社会連携事業と連動させることにより、高等教育教材の実用化を目的とする。

● 国内学術協定締結数の推移



共同利用型科学分析室

民族資料や文化財、博物館資料を対象に、非破壊分析や材質分析をおこなう分析装置システムを所有している。

● 主な所有機器

(1) 文化資源非破壊・材質分析システム：成分分析システムー成分分析計

(2) X線透視CTスキャン装置



(3) 文化資源非破壊・材質分析システム：成分分析システムー赤外分光光度計

(4) エネルギー分散型蛍光X線分析装置

(5) 文化資源非破壊・材質分析システム：
成分分析システムー蛍光X線分析装置



(6) 文化資源非破壊・材質分析システム：パイロライザーガスクロマトグラフ質量分析システム

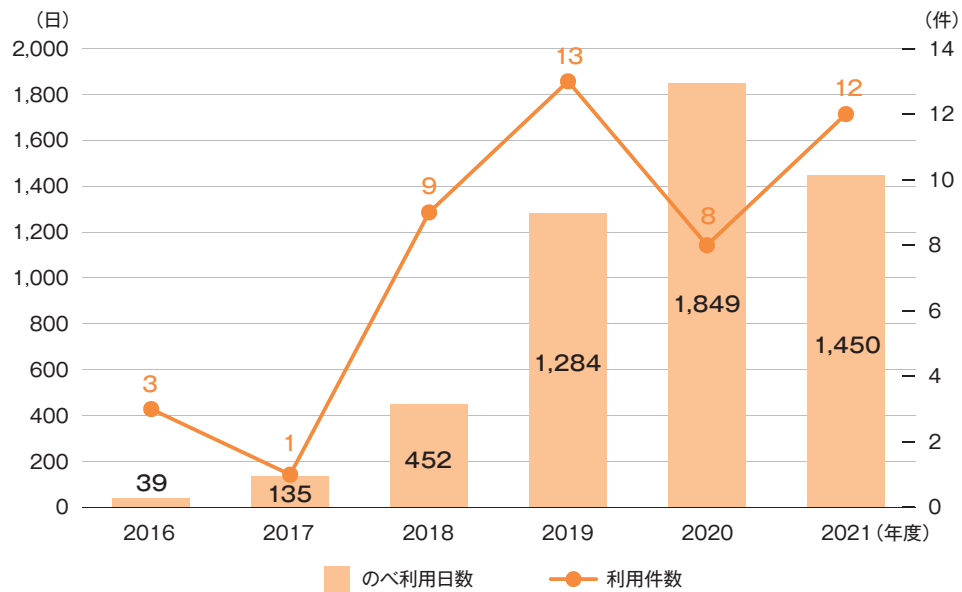
(7) 文化資源非破壊・材質分析システム：低湿度型恒温恒湿器

(8) 文化資源非破壊・材質分析システム：デジタルマイクロスコープ

(9) 三次元積層造形機（3D プリンター）

(10) 三次元形状計測装置

● 共同利用型科学分析室の利用実績



注1：2017年12月設置。それ以前は準備室としての実績
 注2：利用申請にもとづく日数のため、実際に科学分析室を利用した日数とは異なる場合がある

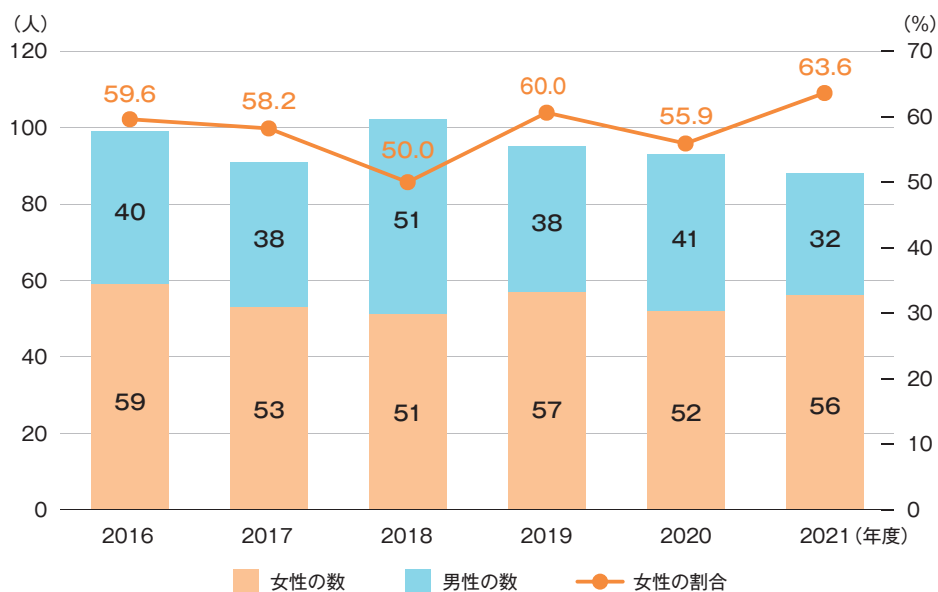
3-2 研究員制度

外来研究員／特別共同利用研究員

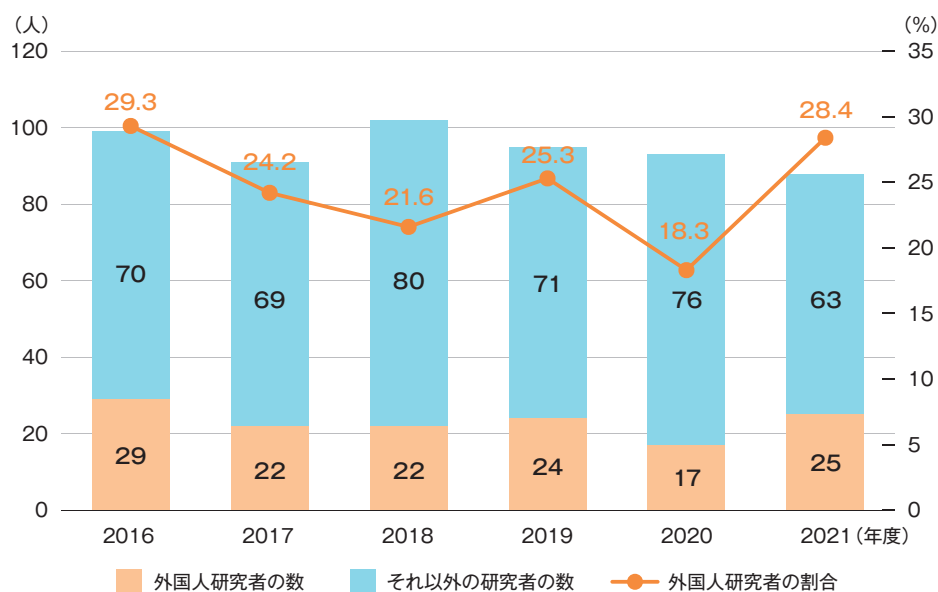
外来研究員

国内外の研究者を外来研究員として受け入れている。

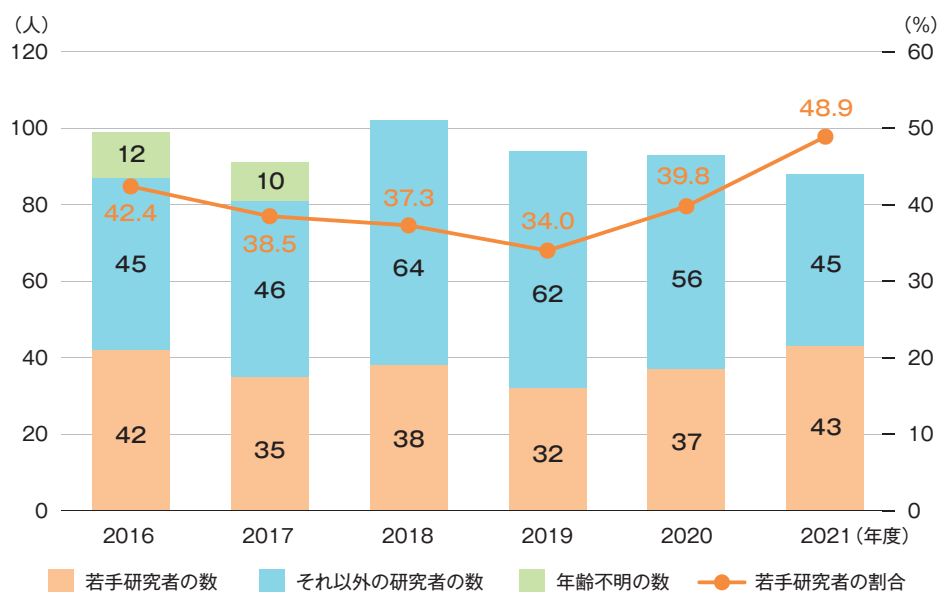
● 外来研究員の数（男女別）と女性の割合



● 外来研究員のうち外国人研究者の数と割合



● 外来研究員のうち若手研究者（39歳以下）の数と割合

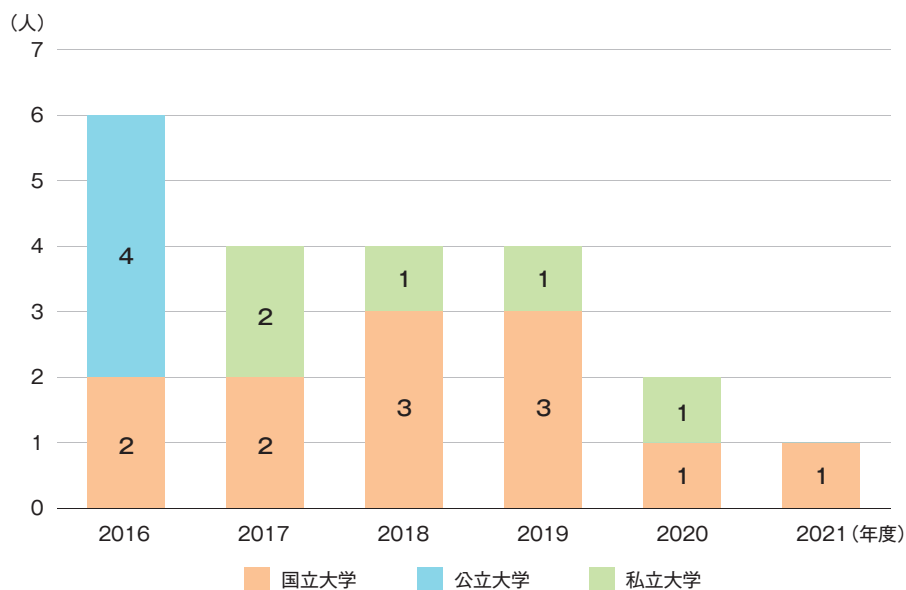


注：同じ年度内に同一人物を複数回受け入れた場合は1名としてカウント

特別共同利用研究員

全国の大学の博士後期課程に在籍する学生を、当該学生の所属する大学院研究科からの委託をうけて特別共同利用研究員として受け入れている。

● 特別共同利用研究員の数

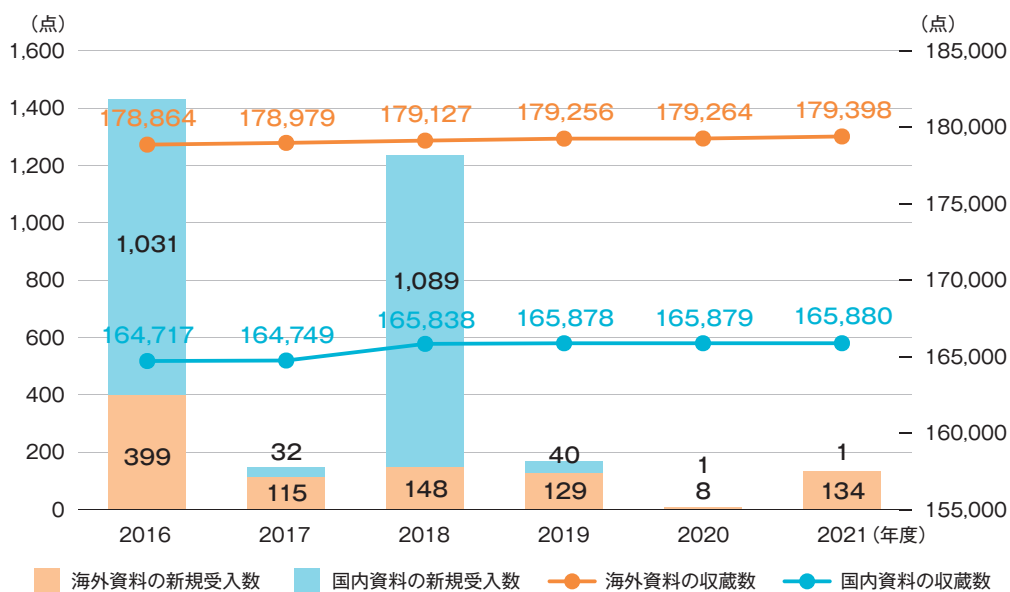


3-3 資料の収集と利用

| 標本資料および映像・画像・音響資料

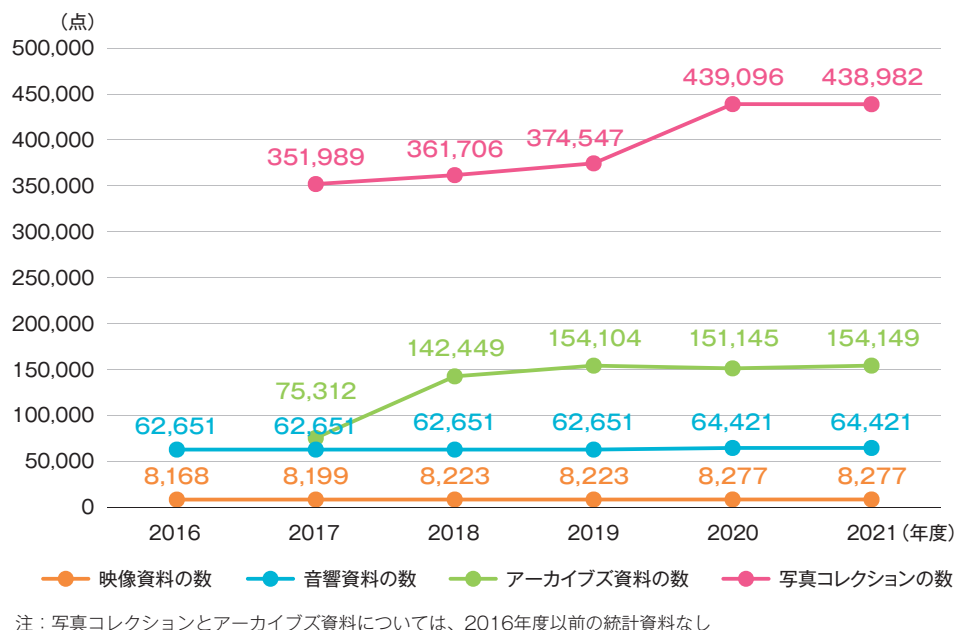
収蔵資料数の推移

● 標本資料の新規受入数と収蔵数の推移



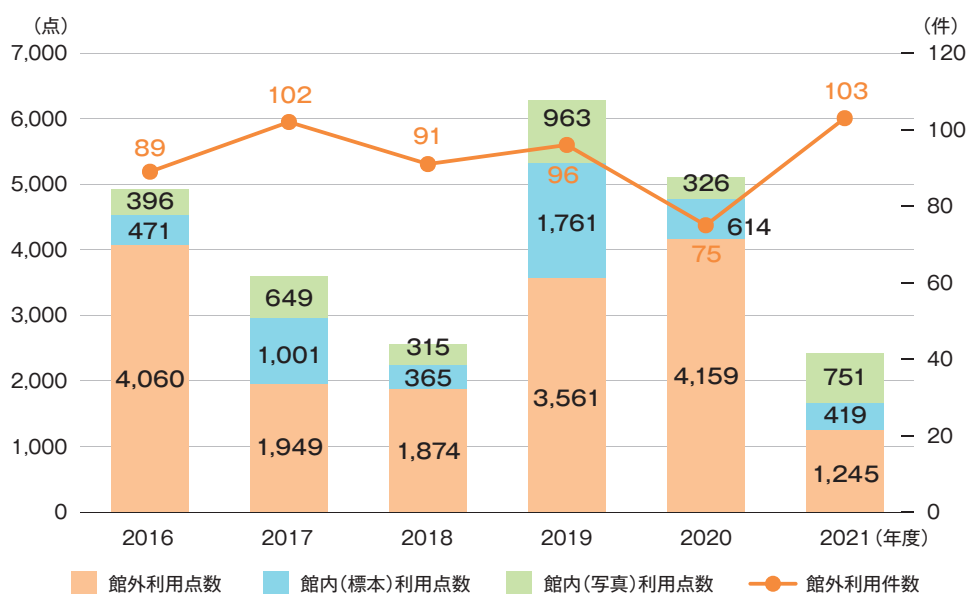
注：標本資料の数には未登録資料の数を含む

● 映像音響関連資料の数の推移

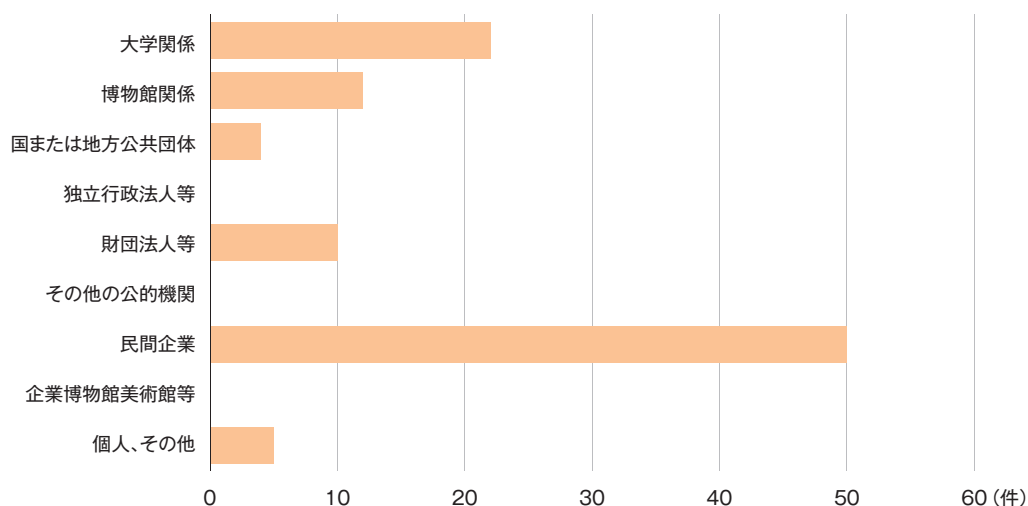


利用件数の推移

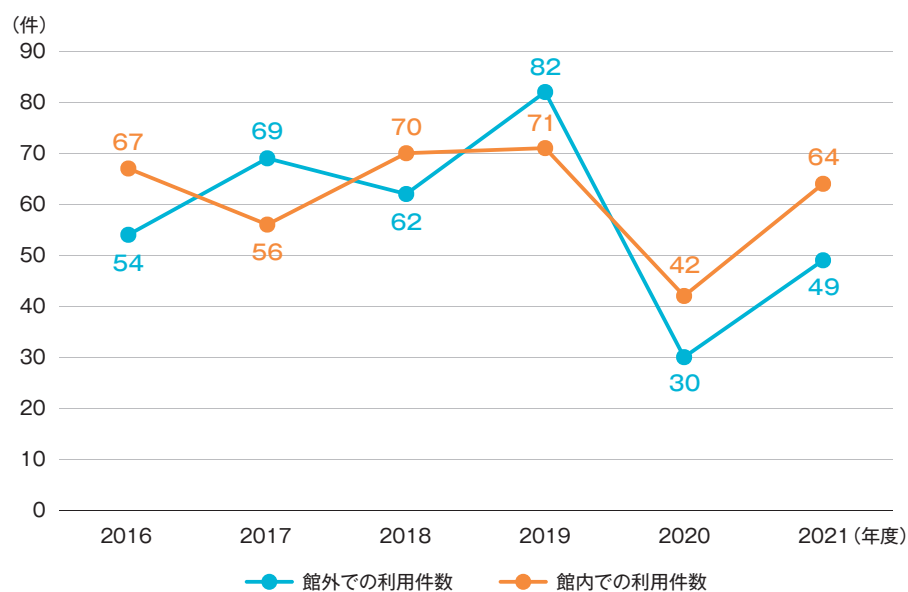
● 標本資料の利用点数と館外利用された件数



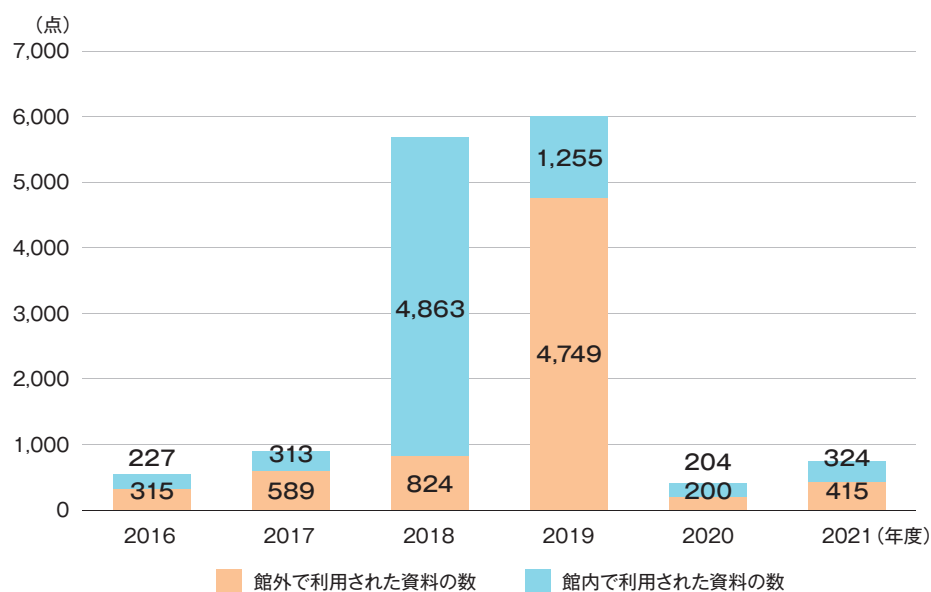
● 令和3年度 標本資料の館外利用者区別の利用件数



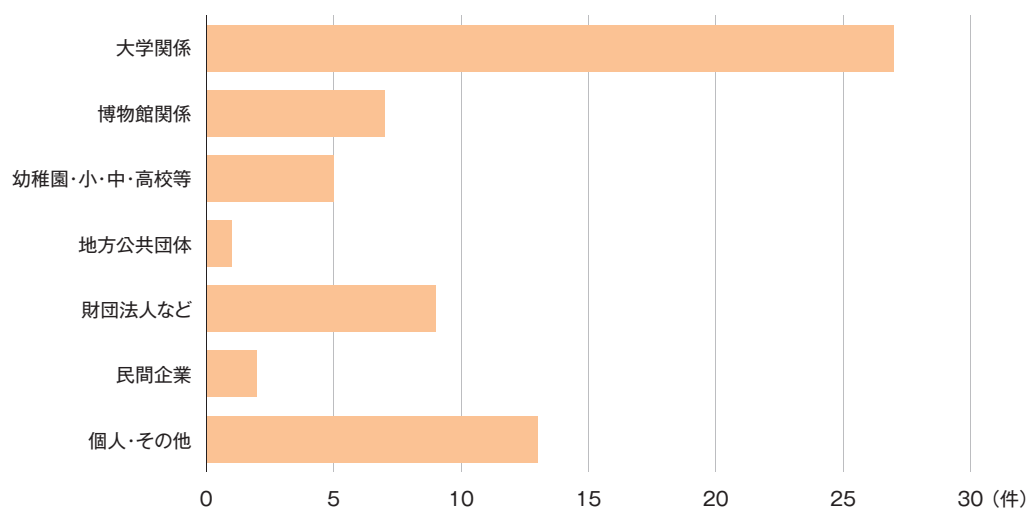
● 映像音響関連資料の利用件数の推移



● 映像音響関連資料の利用資料数



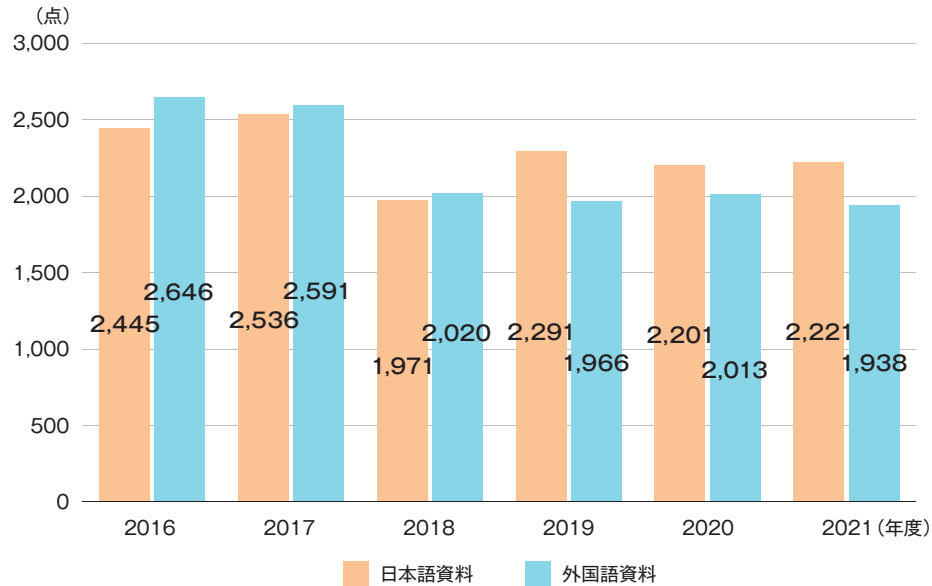
● 令和3年度 映像音響関連資料の館外利用者区分別の利用件数



文献図書資料

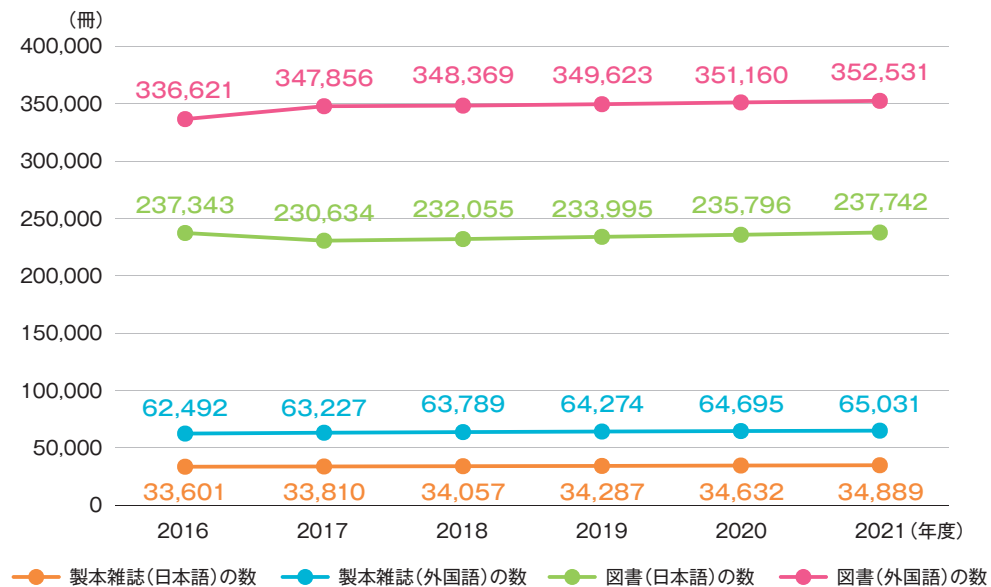
蔵書数・受入数の推移

文献図書資料の受入数



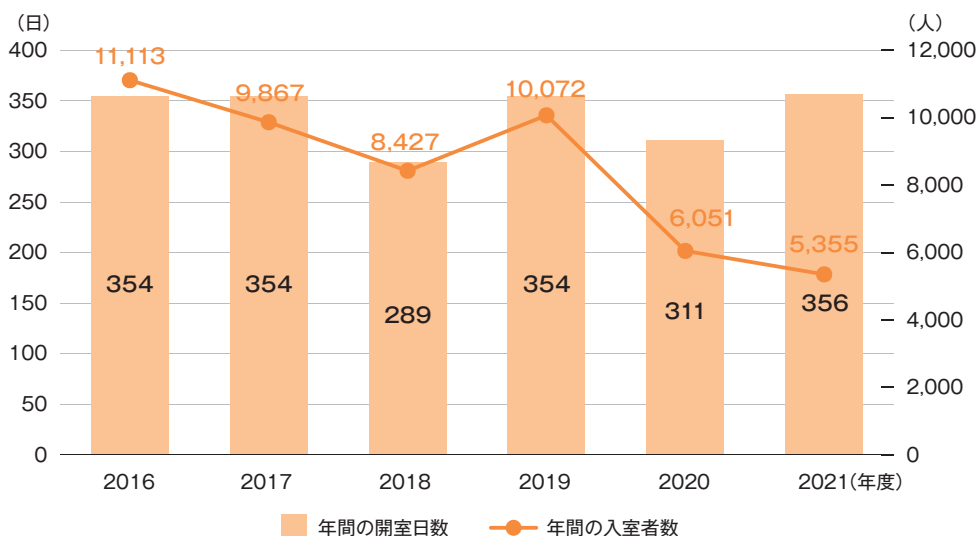
注：文献図書資料には図書、マイクロ資料、AV資料、製本雑誌が含まれる

図書室の蔵書数の推移



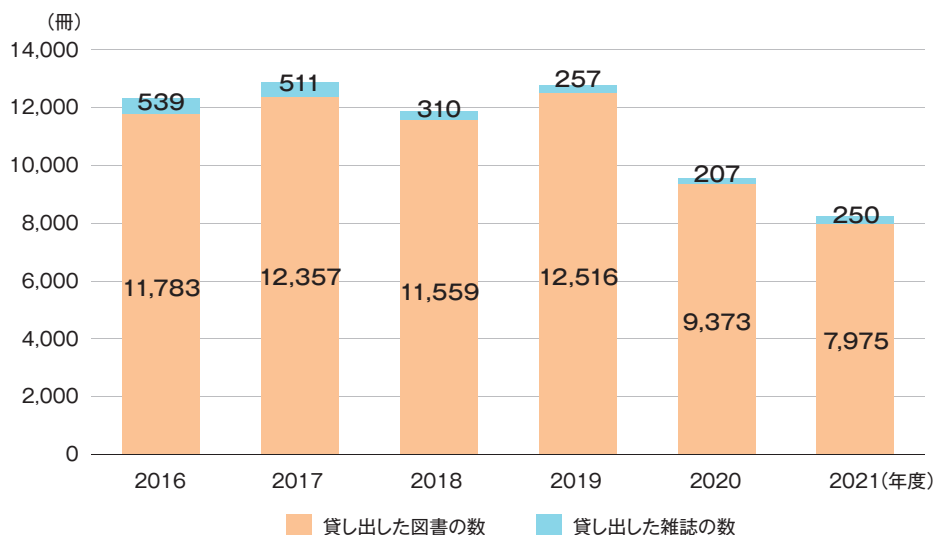
文献図書資料の利用状況の推移

● 図書室の開室日数と入室者数の推移



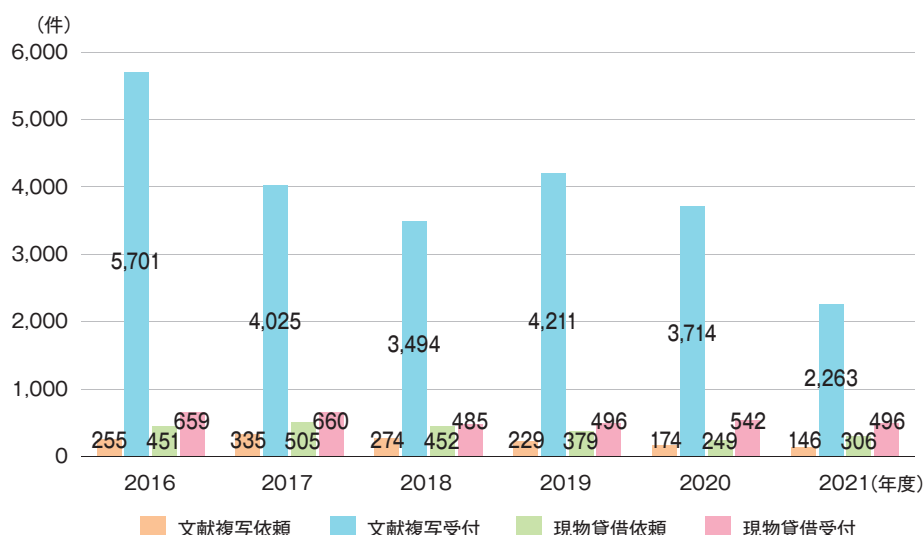
注：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時閉室
 令和2年2月28日～令和2年7月8日
 令和3年1月15日～令和3年3月3日
 令和3年4月25日～令和4年10月1日

● 図書室の年間貸出数



注：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時閉室
 令和2年2月28日～令和2年7月8日
 令和3年1月15日～令和3年3月3日
 令和3年4月25日～令和4年10月1日

● 図書室での相互利用（ILL）サービスの利用件数



注：相互利用（ILL）サービスは、国内外の図書館間で所蔵していない資料の文献複写や現物を取り寄せることができるサービス

データベース

● 令和3年度 データベース一覧

〈一般公開：32件〉

構築年度	データベース名	収録件数	(件)
H10	図書・雑誌目録（OPAC）	図書資料：639,661 雑誌タイトル数：17,302	
H16	標本資料目録データベース	286,510	
H16	韓国生活財データベース	7,827	
H16	中西コレクションデータベースー世界の文字資料ー	2,729	
H16	吉川「シュメール語辞書」データベース	キーワード：33,450 40,596頁	
H18	標本資料詳細情報データベース	84,408	
H18	ネパール写真データベース [日本語版・英語版]	3,879	
H19	ビデオテークデータベース	837	
H19	松尾三憲旧蔵絵葉書コレクション	170	
H19	衣服・アクセサリデータベース	32,446	
H19	身装文献データベース	185,494	
H21	映像資料目録データベース	8,277	
H21	音響資料目録データベース	64,421	
H21	音響資料曲目データベース	351,802	
H21	Talking Dictionary of Khinina-ang Bontok (ボントック語音声画像辞書)	12,116	
H21	近代日本の身装電子年表	14,514	
H22	標本資料記事索引データベース	80,552	
H22	ジョージ・ブラウン・コレクション [日本語版・英語版]	2,992	
H23	音楽・芸能の映像データベース	849	
H23	日本昔話資料データベース (稲田浩二コレクション)	3,696	
H24	梅棹忠夫著作目録 (1934～) データベース	6,985	
H25	rGyalrongic Languages (ギャロン系諸語) データベース [英語、中国語]	語彙：41,078 文例：15,706	
H27	国立民族学博物館所蔵 京都大学学術調査隊写真コレクション	22,361	
H28	西太平洋およびインド洋を中心とする海洋民族写真資料ー大島襄二写真コレクション	7,889	

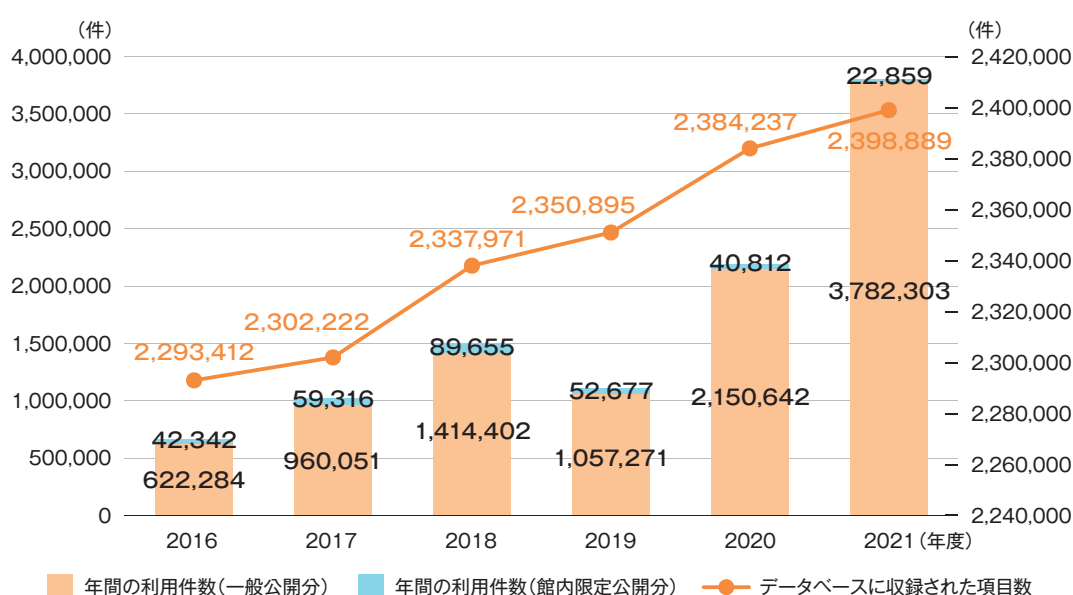
構築年度	データベース名	収録件数	(件)
H28	アフリカ カメルーン民族誌写真集—端信行コレクション	6,530	
H28	沖守弘インド写真データベース [日本語版・英語版]	21,971	
H28	身装画像データベース—近代日本の身装文化	6,764	
H29	3次元 CG で見せる建築—東南アジア島嶼部の木造民家	38地点 61棟	
H29	津波の記憶を刻む文化遺産—寺社・石碑データベース	482	
R1	焼畑の世界—佐々木高明のまなざし	451	
R1	平成の百工比照コレクションデータベース	579	
R2	チベット宗教図像 (白描画) データベース	1,439	

〈館内限定公開：14件〉

構築年度	データベース名	収録件数	(件)
H13	朝枝利男コレクション	3,966	
H13	国内資料調査報告集データベース	21,373	
H18	標本資料詳細情報データベース (館内限定)	286,552	
H20	日本昔話資料データベース (稲田浩二コレクション) (館内限定)	3,696	
H21	タイ民族誌映像データベース—精霊ダンス	写真：10,082 調査報告：41	
H22	オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真データベース	7,999	
H22	東南アジア稲作民族文化総合調査団写真データベース	4,393	
H23	カナダ先住民版画データベース	158	
H23	音楽・芸能の映像データベース (館内限定)	849	
H23	国立民族学博物館所蔵 京都大学学術調査隊写真コレクション	42,195	
H23	梅棹忠夫写真コレクション	35,481	
H23	西北ネパール及びマナスル写真データベース	620	
H27	沖守弘インド写真データベース [日本語版]	22,120	
H28	西太平洋およびインド洋を中心とする海洋民族写真資料—大島襄二写真コレクション	8,842	

データベースの作成・利用状況の推移

● データベースに収録された件数の推移と年間に利用された件数



注1：利用件数は基本的に詳細画面表示された件数

注2：『古川「シュメール語辞書」データベース』ではキーワード数、『Talking Dictionary of Khinina-ang Bontok (ボントック語音声画像辞書)』では見出し語の数、『rGyalrongic Languages (ギャロン系諸語) [英語、中国語]』では登録語彙数、『タイ民族誌映像データベース—精霊ダンス』では写真と調査報告の数を合わせたもの、『3次元 CG で見せる建築データベース—東南アジア島嶼部の木造民家』では民家の数を用いた

民族学研究アーカイブズ

創設以来、本館が集積してきた資料や情報（民族学者の研究ノートや原稿、フィールドワークで生成、収集された映像・録音記録など）を公開している。

令和3年度 民族学研究アーカイブズ一覧

No.	アーカイブ名	公開年度	資料件数（件）
1	青木 文教（あおき ぶんぎょう）アーカイブ	平成20年度～	889
2	石毛 直道（いしげ なおみち）アーカイブ	令和元年度～	2,786
3	泉 靖一（いずみ せいいち）アーカイブ	平成27年度～	1,164
4	岩本 公夫（いわもと きみお）アーカイブ	平成27年度～	6,236
5	内田 勲（うちだ いさお）アーカイブ	平成30年度～	131
6	梅棹 忠夫（うめさお ただお）アーカイブズ	平成26年度～	約60,000
7	江口 一久（えぐち かずひさ）・アフリカ-アジアの言語アーカイブ	平成30年度～	2,246
8	大内 青琥（おおうち せいこ）アーカイブ	平成22年度～	62
9	沖 守弘（おき もりひろ）・インド民族文化資料アーカイブ	平成28年度～	459
10	桂 米之助（かつら よねのすけ）アーカイブ	平成21年度～	1,036
11	鹿野 忠雄（かの ただお）アーカイブ	平成23年度～	1,582
12	木内 信敬（きうち のぶゆき）「ジブシー（ロマ）研究」アーカイブ	令和元年度～	949
13	菊沢 季生（きくざわ すえお）アーカイブ	平成19年度～	922
14	栗田靖之-別府春海（くりた やすゆき-べふ はるみ）・日本人の贈答アーカイブ	平成30年度～	4,059
15	小林 保祥（こばやし やすよし）-台湾南部原住民族アーカイブ	平成30年度～	1,094
16	篠田 統（しのだ おさむ）アーカイブ	平成30年度～	5,752
17	杉浦 健一（すぎうら けんいち）アーカイブ	平成23年度～	1,151
18	西北ネパール学術探検隊1958年データカードアーカイブ	令和元年度～	6,584
19	土方 久功（ひじかた ひさかつ）アーカイブ	平成19年度～	288
20	馬淵 東一（まぶち とういち）アーカイブ	平成19年度～	270
21	丸谷 彰（まるたに あきら）・朽木村針畑生活資料アーカイブ	平成30年度～	54
22	「日本文化の地域類型研究会」アーカイブ	平成19年度～	977

注：資料件数は、各アーカイブ資料ごとの目録件数

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

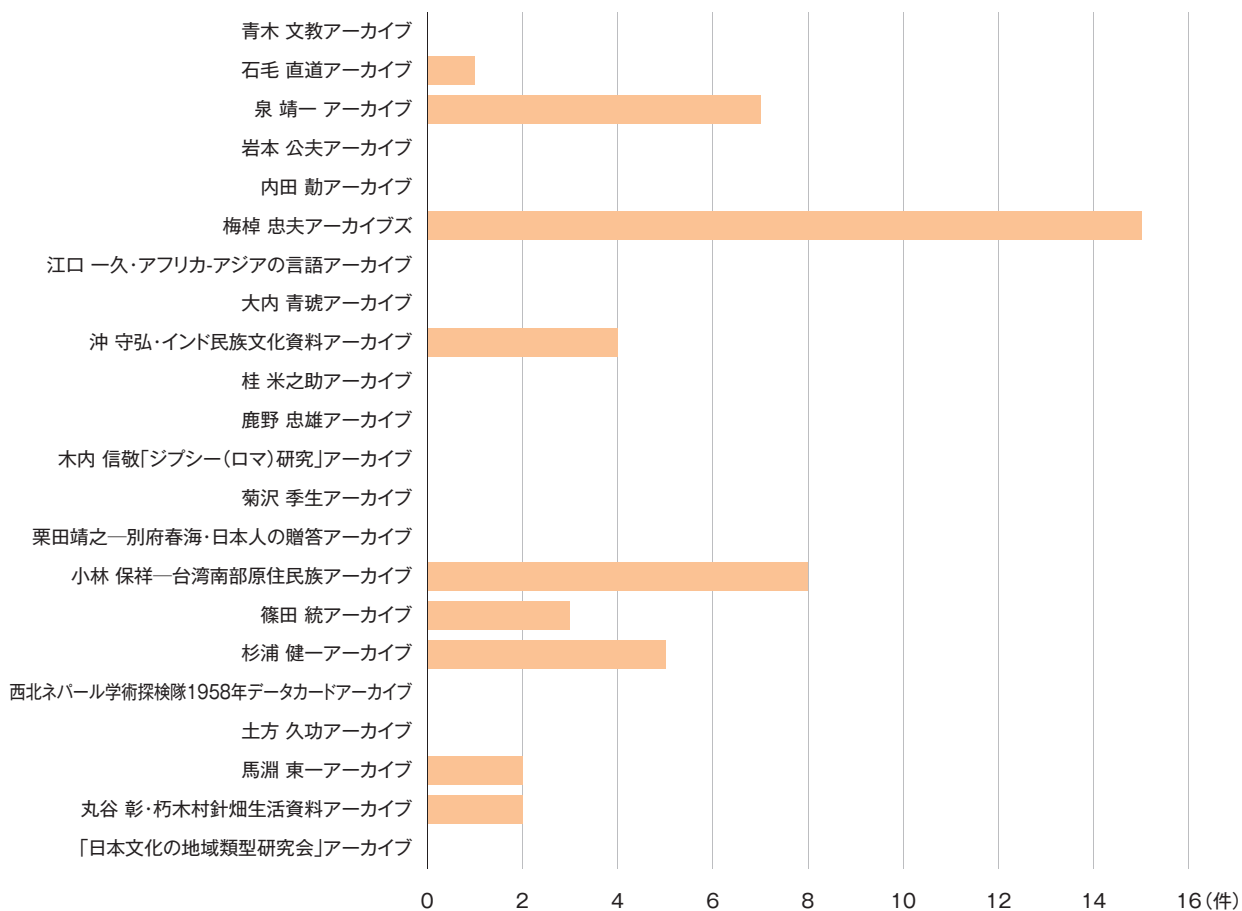
社会連携

産学連携

大学院教育

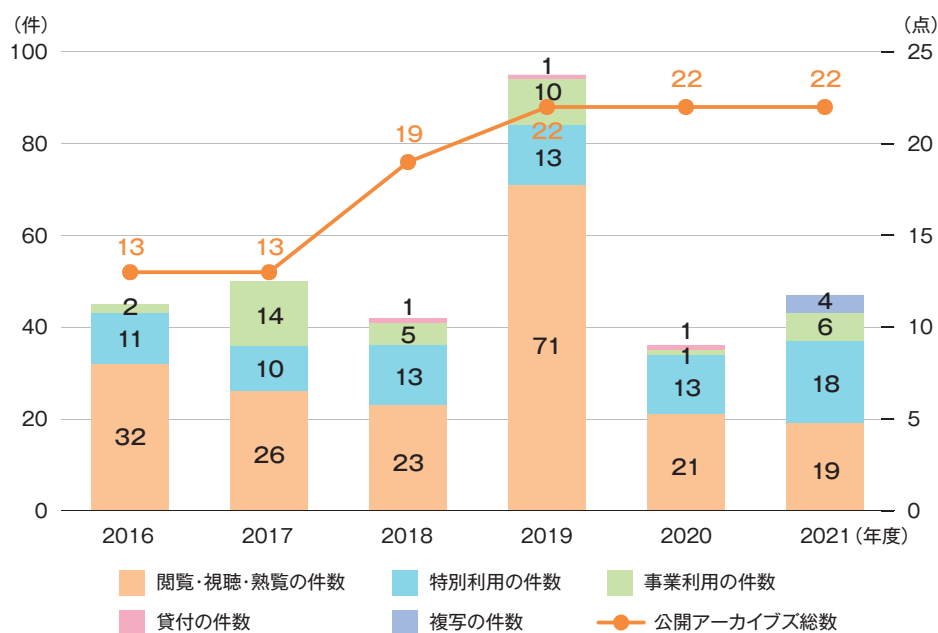
業務運営

● 令和3年度 民族学研究アーカイブズのアーカイブ別の利用件数



アーカイブズ構築／利用件数の推移

● 民族学研究アーカイブズの利用区分別の利用件数と公開アーカイブズ総数の推移

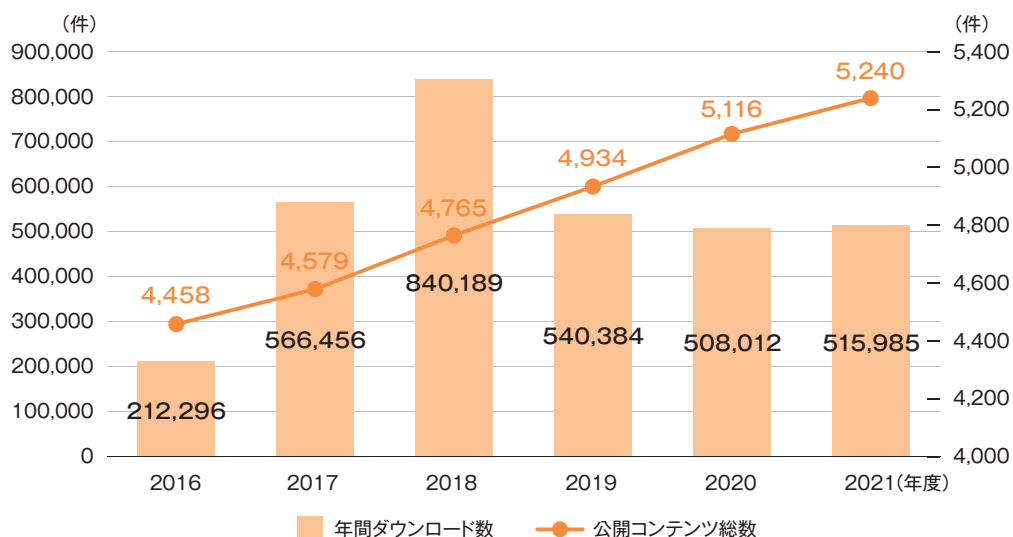


学術情報リポジトリ

国立情報学研究所の JAIRO Cloud (共用リポジトリサービス) を利用して、館内出版物および、外部で出版されたものうち利用許諾が得られた論文等を公開している。

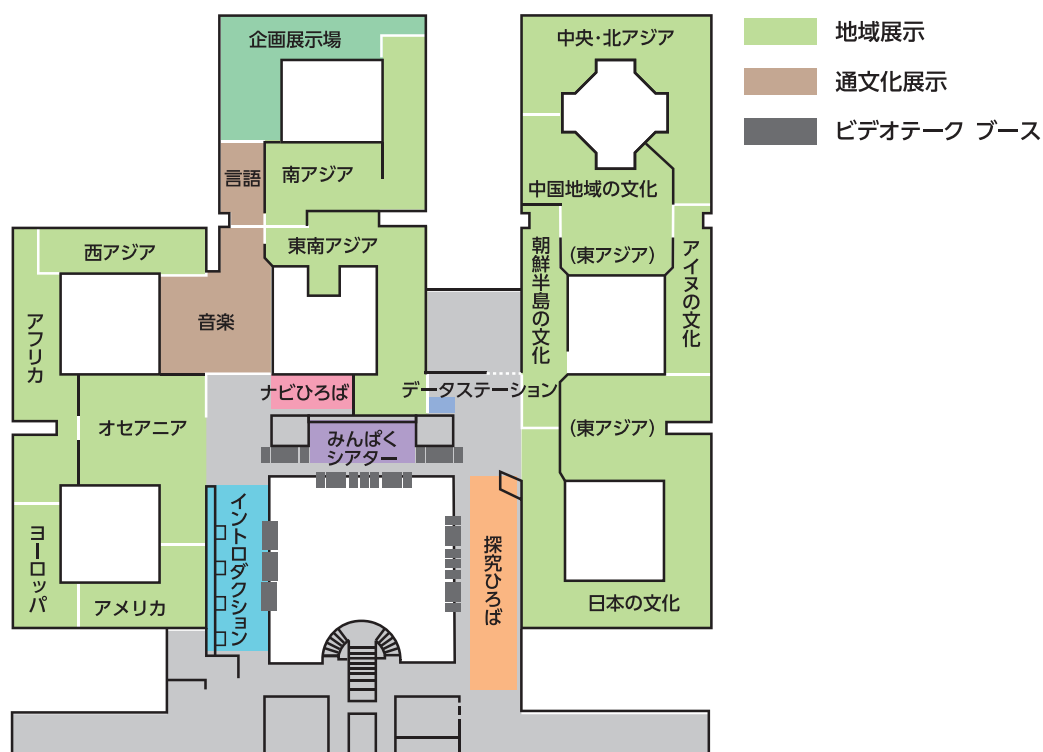
みんぱく学術情報リポジトリでの公開・利用状況

● みんぱく学術情報リポジトリの公開コンテンツ総数と年間ダウンロード数



4 展示

4-1 本館展示



地域展示：世界を大きくオセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、西アジア、東南アジア、中央・北アジア、東アジアの9地域に分けて展示

通文化展示：特定のジャンル（現在は、言語と音楽）を取り上げて広く世界の民族文化を通覧する

● 本館展示場



令和3年度に新たに設置された映像音響システム



みんなくシアター

世界の人びとの生活や儀礼、芸能、技術等を記録した番組を上映する

(2022年3月31日(木)公開)

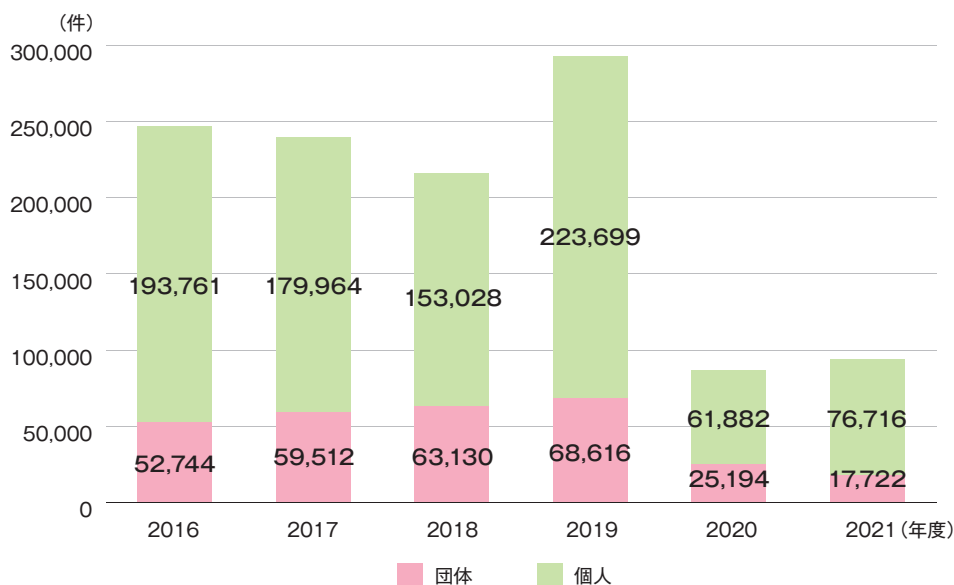
データステーション

過去の展示をパノラマムービーで撮影した館内限定のバーチャルミュージアムや収蔵標本資料などのデータベースを利用できる

(2022年3月31日(木)公開)

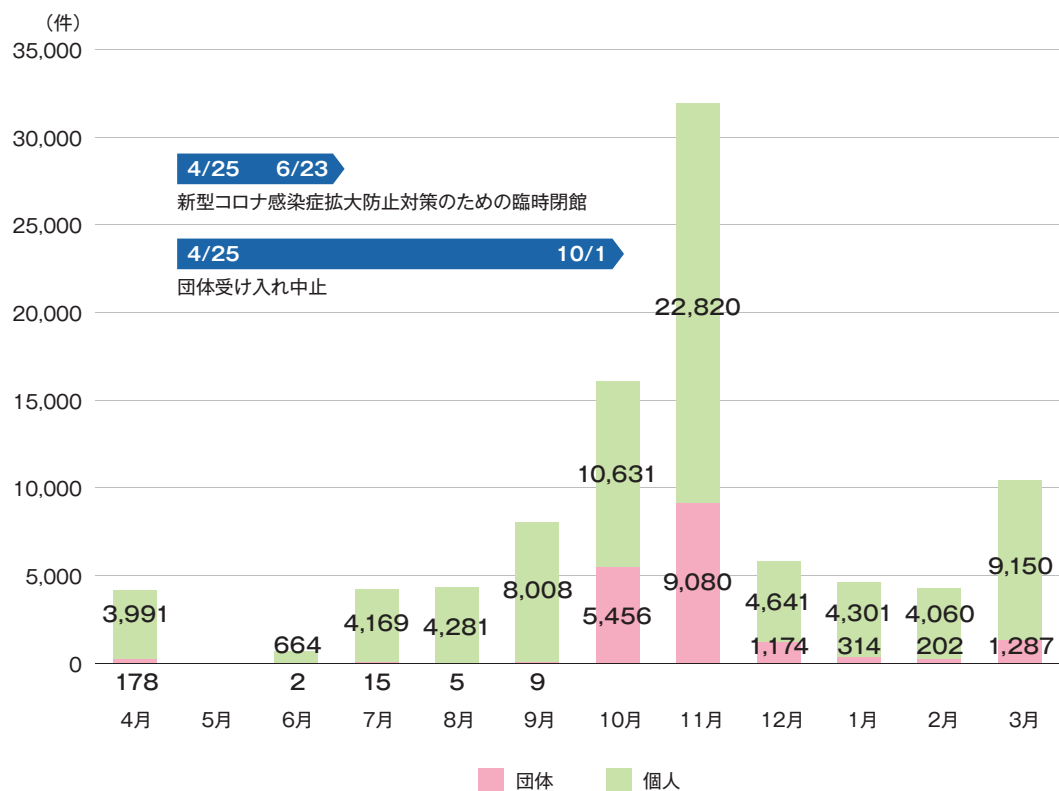


● 入館者数の推移



注：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館
 令和2年2月28日～令和2年6月17日
 令和3年4月25日～令和3年6月23日

● 令和3年度の開館状況と月別入館者数



4-2 本館展示以外の展示

特別展示：特定のテーマや内容で研究の成果を総合的および体系的に紹介するストーリー性をもった展示で、特別展示館で開催
企画展示：研究や収集活動の成果を特定のテーマで紹介し、本館企画展示場で開催する展示
巡回展示：本館で開催した特別展示、企画展示等を国内外の博物館、美術館等に巡回して開催する展示

令和3年度 特別展・企画展等一覧

種別	タイトル	会期	入館者数（人）
特別展	復興を支える地域の文化——3.11から10年	2021年3月4日～5月18日※ ¹	3,578
特別展	ユニバーサル・ミュージアム——さわる！“触”の大博覧会	2021年9月2日～11月30日	26,613
特別展	邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今	2022年3月17日～5月31日	22,064
企画展	躍動するインド世界の布	2021年10月28日～2022年1月25日	28,073
企画展	焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ	2022年3月10日～6月7日	34,939
巡回展	子ども／おもちゃの博覧会 (鳥根県立古代出雲歴史博物館)	2021年7月2日～8月22日	6,376
巡回展	復興を支える地域の文化——3.11から10年 (国文学研究資料館)	2021年8月4日～9月29日	153
巡回展	ピース アイヌモシリから世界へ (国立アイヌ民族博物館)	2021年10月2日～12月5日	21,682

※¹ 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出に伴い、4月25日以降は臨時休館

4-3 公募型メディア展示

- 国内の大学等が主催する展示にみんなくが開発した情報メディアやシステムを提供する

令和3年度公募型メディア展示

- 申請1件、採択1件
 - 採択機関 天理大学附属天理参考館
 - 採択事業 器の中のアンデス世界を体験するメディア展示
 - 対象展示 企画展「器にみるアンデス世界——ペルー北部地域編」



5 国際連携

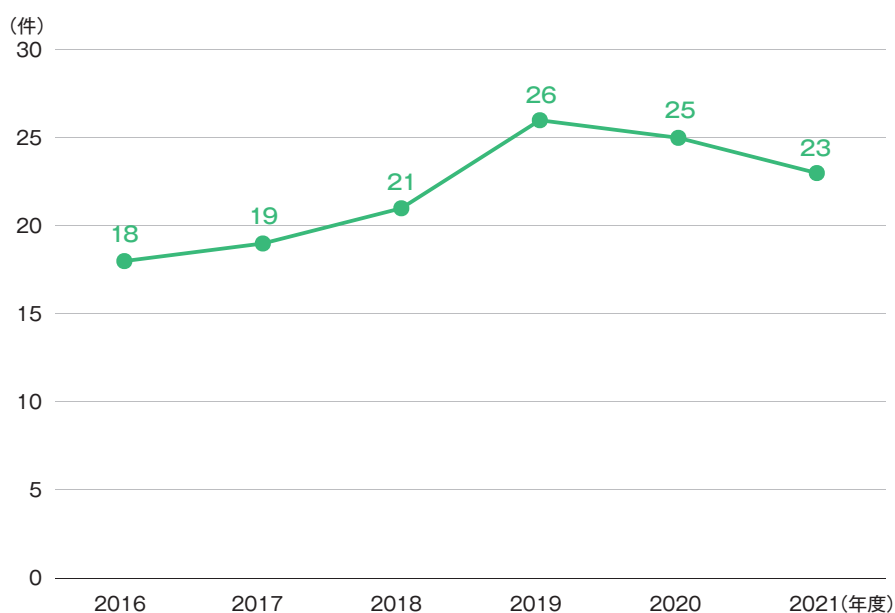
5-1 海外研究機関との学術交流協定

● 海外研究機関等との協定一覧（令和3年度）

No.	相手機関名	国（地域）名	概要
1	国立サン・マルコス大学	ペルー共和国	考古学分野における共同調査の遂行、ならびにそれに基づく学術交流の促進
2	順益台湾原住民博物館	台湾	台湾原住民の現代的動態に関わる人類学的、言語学的、歴史学的調査 国立民族学博物館ならびに他の博物館に収蔵されている台湾原住民関連の資料に係る調査
3	国立民俗博物館	大韓民国	学術、文化交流を通して友好関係を強化し、この関係を発展させる
4	内蒙古大学	中華人民共和国	相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する
5	国立台北芸術大学	台湾	相互の学術交流と両者の発展を目的とした学術協力関係を築く
6	エジンバラ大学	英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）	相互理解と互酬性の原則に則り、両機関の学術研究交流を強化し、発展させる
7	ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館（クンストカメラ）	ロシア	学術、文化の両分野において相互交流および協力関係を発展させる
8	生態学生物資源研究所	ベトナム	相互の理解、利益および協力の原則に基づいて学術研究および交流の強化、発展のために本契約を締結する
9	アシウィ・アワン博物館・遺産センター	アメリカ合衆国	相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する
10	フィリピン国立博物館	フィリピン共和国	相互の理解、利益および協力の原則に基づいて学術協力および交流の強化および発展のために本契約を締結する
11	中国社会科学院民族学・人類学研究所	中華人民共和国	両機関の学術交流を通して国際的な連携を進めるため、平等互惠と相互尊重の理念のもとに、この協定を締結する
12	北アリゾナ博物館	アメリカ合衆国	学術交流・研究を強化・発展させる
13	国立台湾歴史博物館	台湾	学術研究交流の促進
14	ヴァンダービルト大学	アメリカ合衆国	国際共同研究、及びそれに関連する研究交流と人材交流
15	浙江大学人類学研究所・図書館	中華人民共和国	研究者などの人材交流、人類学及び人類学資料事業に関する研究
16	ブリティッシュコロンビア大学人類学博物館（UBC）	カナダ	協力関係の強化、及び相互利益に資する文化、社会、グローバル化などの分野における研究連携の推進
17	イラン国立博物館	イラン・イスラム共和国	両博物館の文化・研究分野の協力強化
18	国立博物館機構	ザンビア共和国	相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する

No.	相手機関名	国（地域）名	概要
19	国立考古学研究センター	インドネシア共和国	インドネシア国内での国際共同調査の実施、および研究成果の共有
20	ウズベキスタン共和国科学アカデミー ヤフヨ・グロモフ考古学研究所	ウズベキスタン共和国	国際共同発掘調査・研究、研究者交流、考古学に関する資料や情報の交換等・研究者・学芸員などの人材交流
21	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ人民共和国	相互理解、相互利益及び協力関係の原則に基づいた学術研究及び学術交流の強化・促進
22	ケニア国立博物館群	ケニア共和国	平等で互酬的な関係のもとに、文化と博物館に関する研究と教育の分野での協働にむけて合同して活動すること
23	カセサート大学林学部	タイ王国	相互理解、相互利益及び協力関係の原則に基づいた学術研究及び学術交流の強化・促進

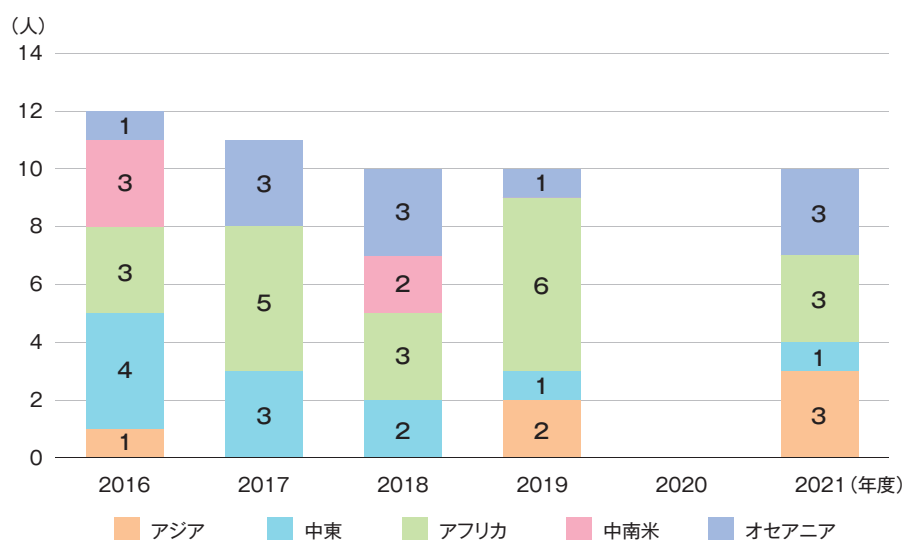
● 海外学術交流協定締結数の推移



5-2 「博物館とコミュニティ開発」コース

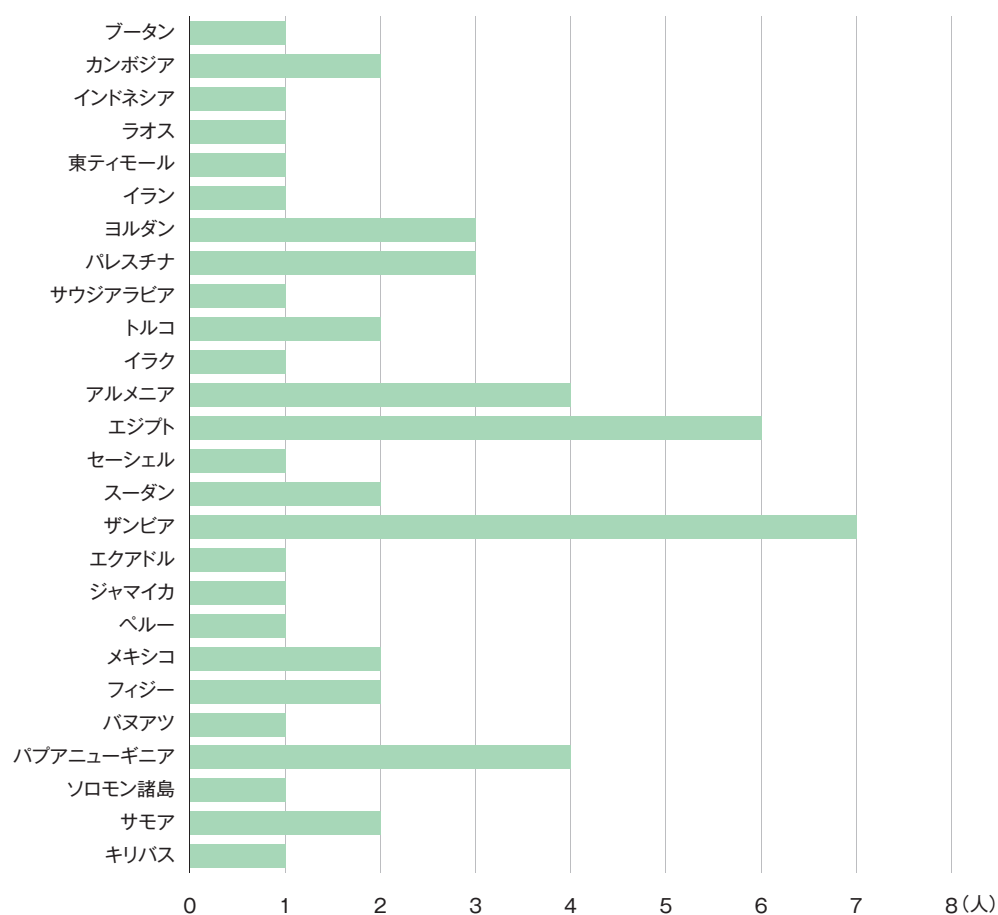
平成16年度から独立行政法人国際協力機構（JICA）からの委託を受け実施している研修で、毎年、開発途上の国や地域から約10名を受託研究員として受け入れてきた。「博物館学集中コース」として始まった本研修について、平成27年度からは「博物館とコミュニティ開発」とコースを改組・発展し、博物館が地域社会に果たす役割により重点を置いた研修を行っている。

● 「博物館とコミュニティ開発」コースの地域別参加者数の推移



注1：2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施していない。2021年度はオンラインで開催
 注2：2017年度（サウジアラビアから）の1名と2021年度（カンボジアから）の1名のオブザーバー参加者を含む

● 6年間に「博物館とコミュニティ開発」コースに参加した国と参加者数



注：2017年度（サウジアラビアから）の1名と2021年度（カンボジアから）の1名のオブザーバー参加者を含む

6 社会連携

6-1 受託事業

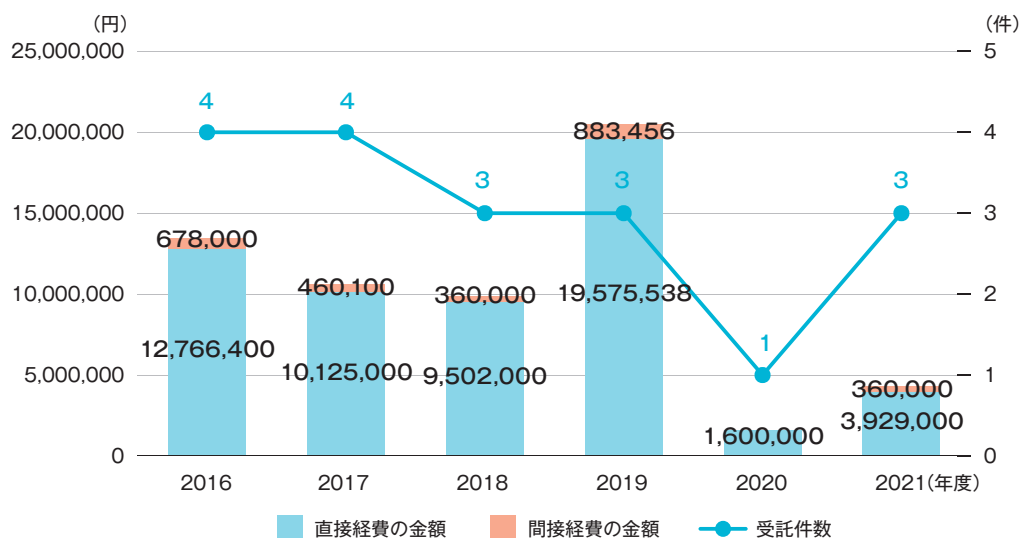
令和3年度 受託事業・受託研究一覧

課題名	委託期間	委託金額	相手方	担当教員・ 担当課	受託事業／ 受託研究
文学一般関連、博物館学関連分野に関する 学術研究動向——文理融合研究の新たな 潮流と展望	R3.4.1～ R4.3.31	1,560,000 (うち360,000は間接経費)	独立行政法人 日本学術 振興会 (学術研究動向等調査)	山中由里子	受託研究
博物館学とコミュニティ開発	R3.9.28～ R4.3.17	2,366,000	独立行政法人 国際協力 機構	研究協力課	受託事業
国際共同研究プログラム (JRD-LEAD with UKRI)	R3.12.1～ R6.11.30	363,000	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	相良啓子	受託事業

令和3年度 共同研究（委託金がないもの）一覧

課題名	委託期間	委託金額	相手方	担当教員	受託事業／ 受託研究
ユニバーサルミュージアム実現のための 展示案内機器の開発	R3.4.1～ R4.3.31	0	国立大学法人 山口大学	日高真吾	共同研究

みんぱくの受託事業・受託研究の受入金額と件数



注：2021年度には委託金のない事業（山口大学との共同研究）があったが、ここでの集計には含まなかった

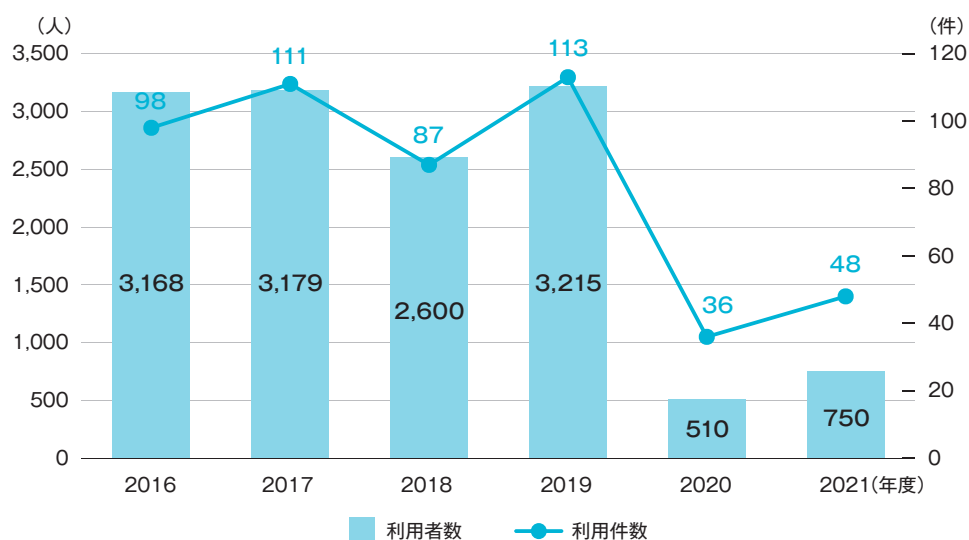
委託元機関の一覧（2016～2021年度）

文化庁
台湾文化部（the Ministry of culture, ROC）
独立行政法人 国際協力機構（JICA）
独立行政法人 日本学術振興会
公益社団法人 大阪聴力障害者協会
国立大学法人 山口大学
大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター運営事業体

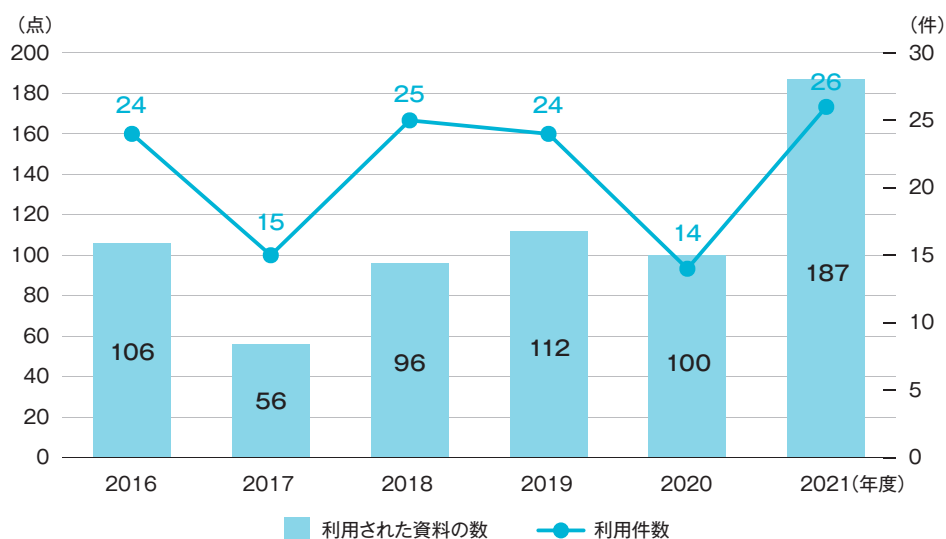
大学等授業利用

みんなくの展示場を、大学（大学、大学院、短期大学）の講義やセミナー等に利用。

● 展示場の大学授業利用制度による利用者数と利用件数の推移



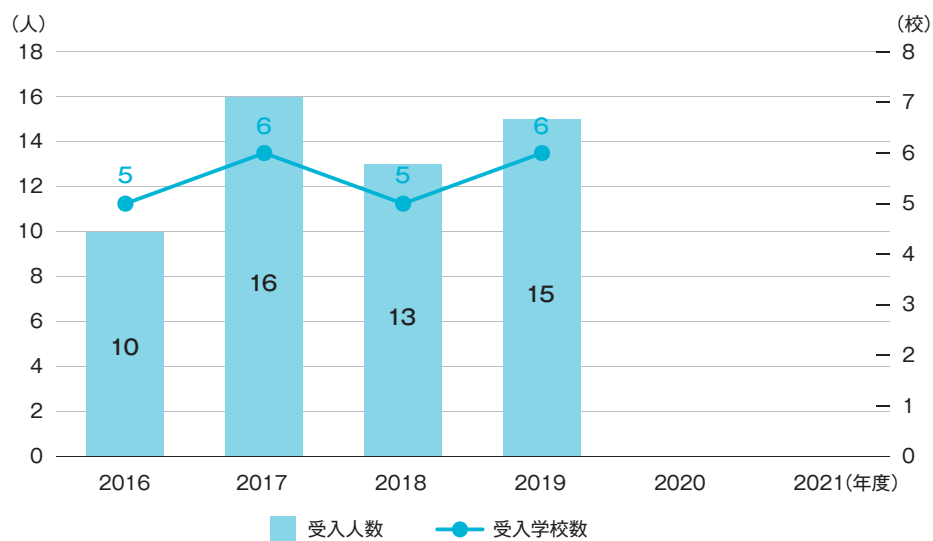
● 大学等授業利用制度を用いて利用された映像・音響資料の数と利用件数の推移



注：2021年度からストリーミング配信による映像提供を開始した（187点中159点がストリーミング配信による利用）

職場体験学習

● 職場体験学習で受け入れた生徒と学校の数



職場体験の様子

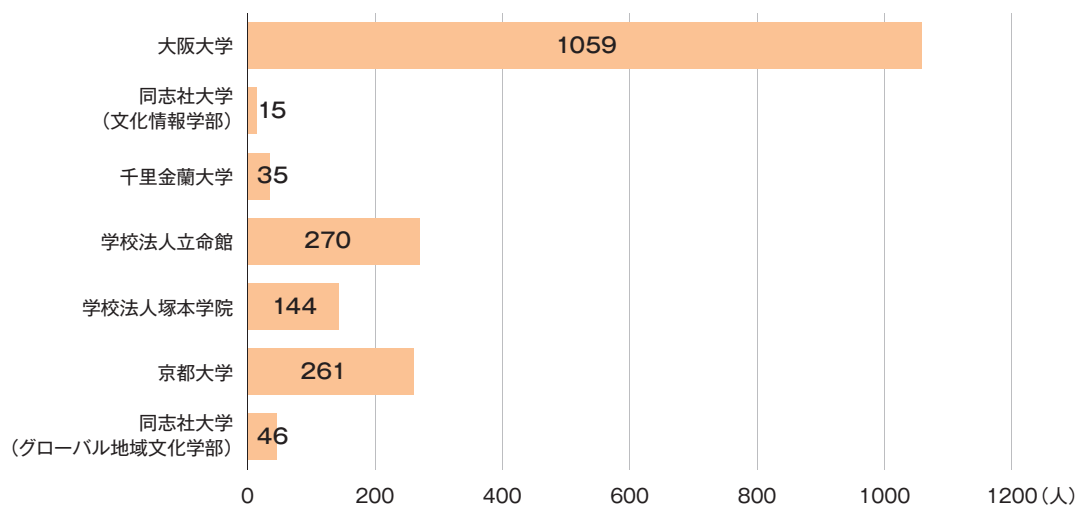
キャンパスメンバーズ

国立民族学博物館と大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度。

令和3年度 キャンパスメンバーズ会員大学一覧

No.	入会年月	大学名	利用対象者数（人）
1	H22.10	国立大学法人 大阪大学	24,283
2	H24.7	同志社大学 文化情報学部・文化情報学研究科	1,300
3	H25.1	千里金蘭大学	900
4	H26.4	学校法人立命館 (立命館大学、立命館高等学校、立命館宇治高等学校、立命館守山高等学校、立命館慶祥高等学校)	36,691
5	H28.4	学校法人塚本学院 (大阪芸術大学、大阪芸術大学短期大学部、大阪芸術大学附属大阪美術専門学校)	9,350
6	H29.4	京都大学	23,203
7	R1.10	同志社大学 グローバル地域文化学部	800
合計			96,527

令和3年度 キャンパスメンバーズ制度による来館者数



貸出用学習キット「みんぱつく」

学校や社会教育施設等を対象に、学習キット「みんぱつく」を貸出している。「みんぱつく」は世界の国や地域の衣装や楽器、日常生活で使う道具や子どもたちの学用品などをスーツケースにバックしたもの。

令和3年度 みんぱつくの運用バック一覧

No.	バック名	担当教員	個数(個)
1	極北を生きる	岸上伸啓	2
2	アンデスの玉手箱	關 雄二	2
3	ジャワ島の装い	福岡正太	1
4	イスラム教とアラブ世界のくらし	西尾哲夫	1
5	ソウルスタイル	太田心平	2
6	ソウルのこども時間	太田心平	2
7	インドのサリーとクルター	南アジア展示プロジェクトチーム	2
8	プリコラージュ	佐藤浩司	3
9	アラビアンナイトの世界	西尾哲夫	2
10	アイヌ文化にであう	齋藤玲子	2
11	モンゴル	島村一平	2
12	あるく、ウメサオタダオ展	小長谷有紀	1
13	世界のムスリムのくらし 1	山中由里子 他	2
14	世界のムスリムのくらし 2	山中由里子 他	2
15	エチオピアのコーヒーセレモニー	川瀬 慈	1
16	エチオピアをまとう	川瀬 慈	1
合計			28

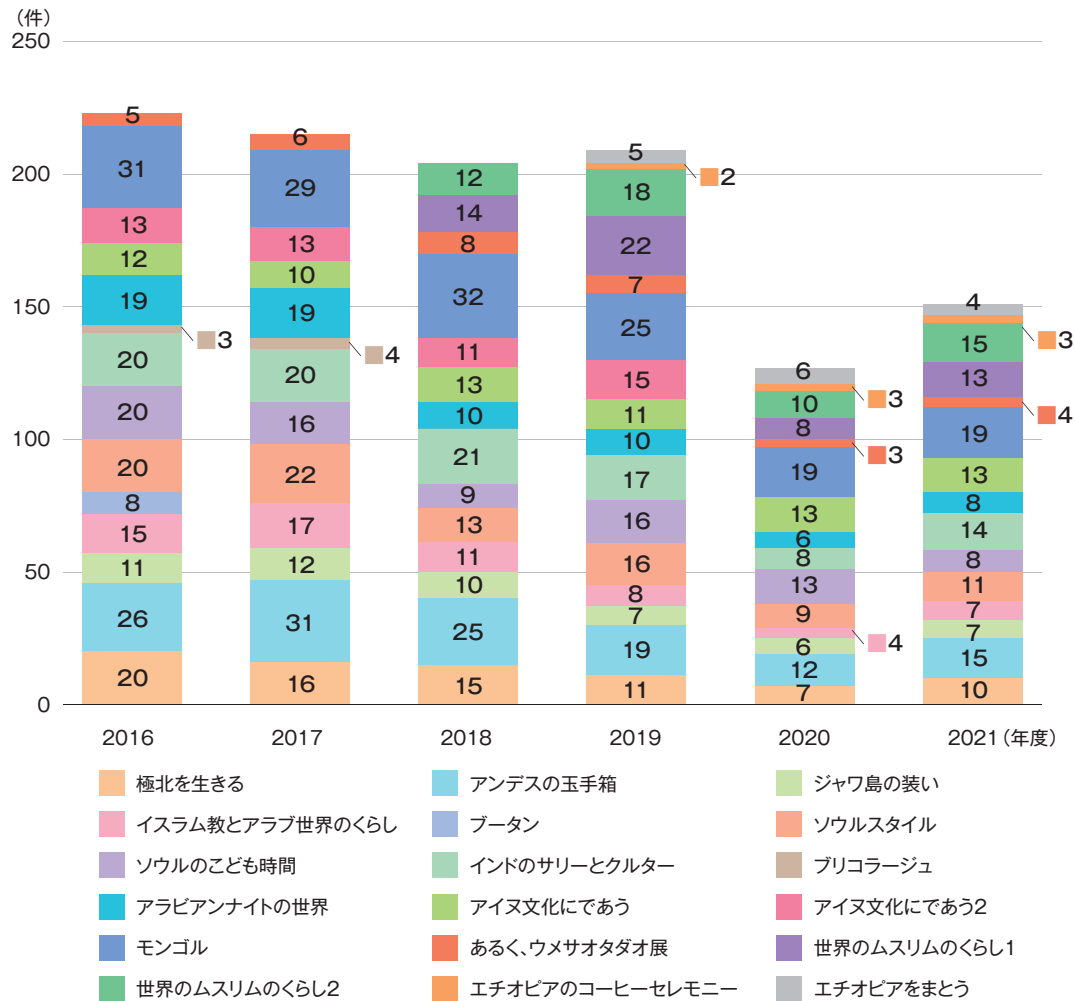


アイヌ文化にであう

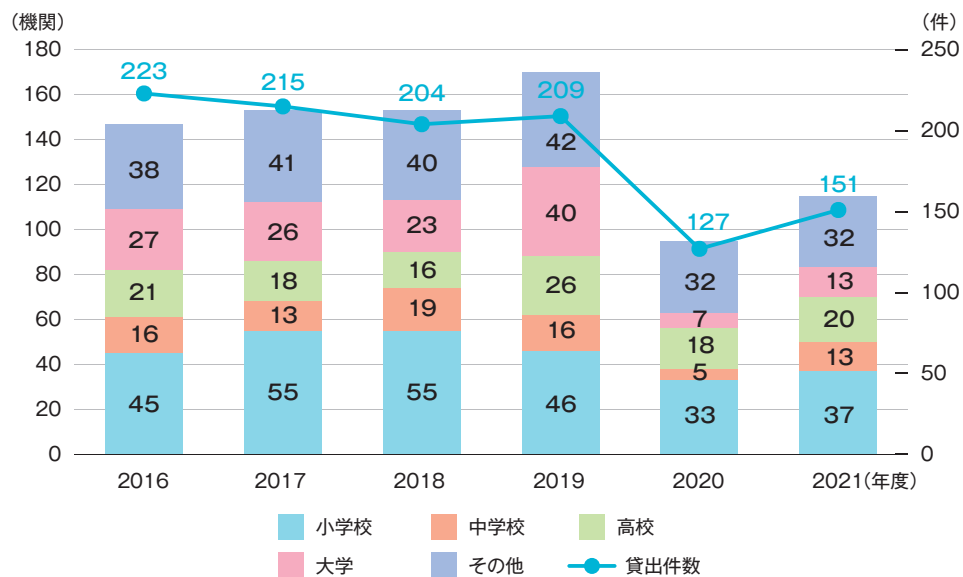


エチオピアをまとう

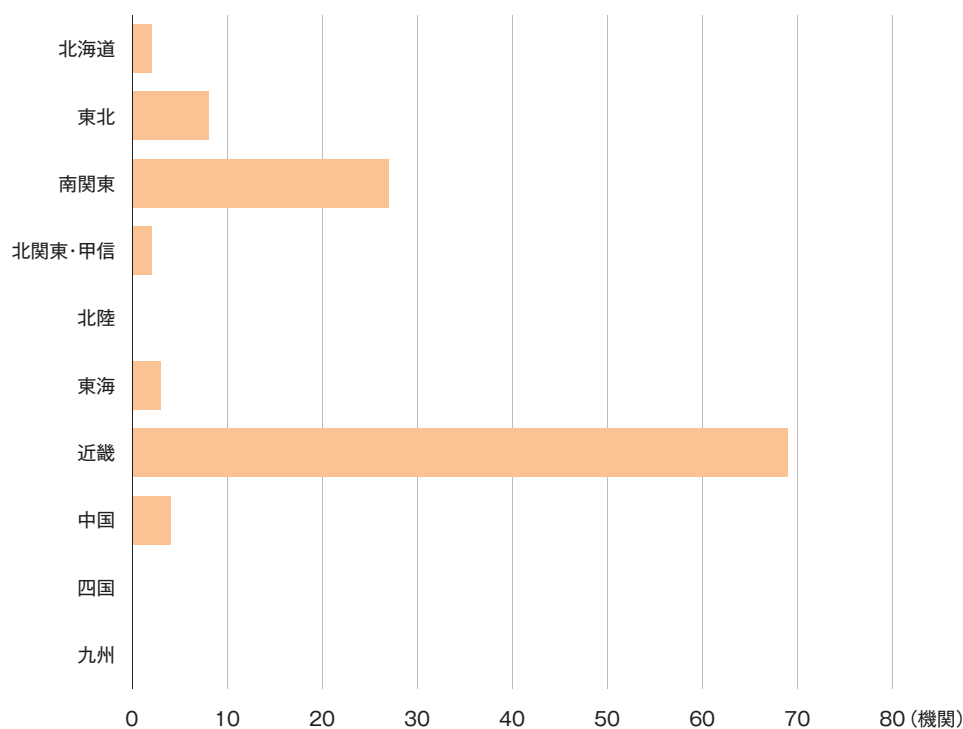
● みんなの貸出しパック数の推移



● 利用者区分別のみんなの貸出し機関数と貸出件数の推移



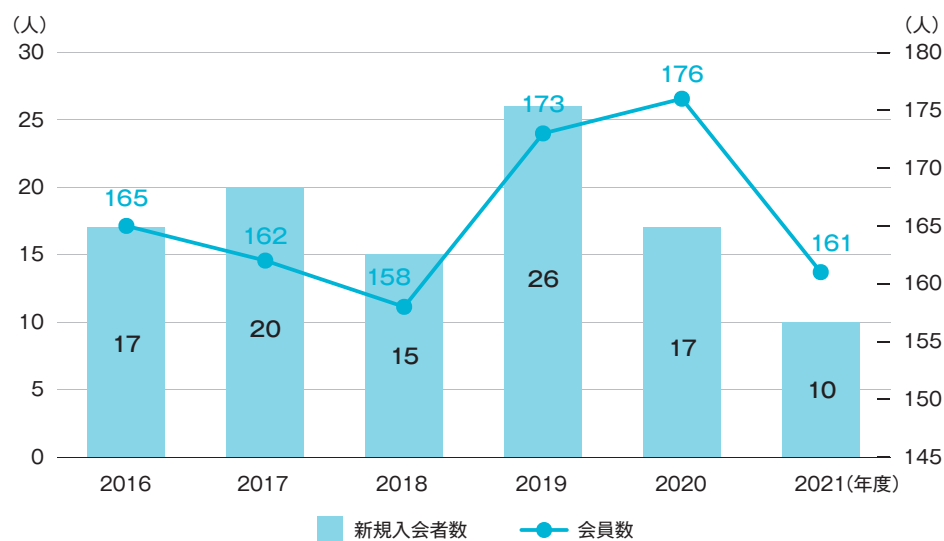
● 令和3年度 地域別のみんなぱく利用機関数



｜ ボランティア活動の受入

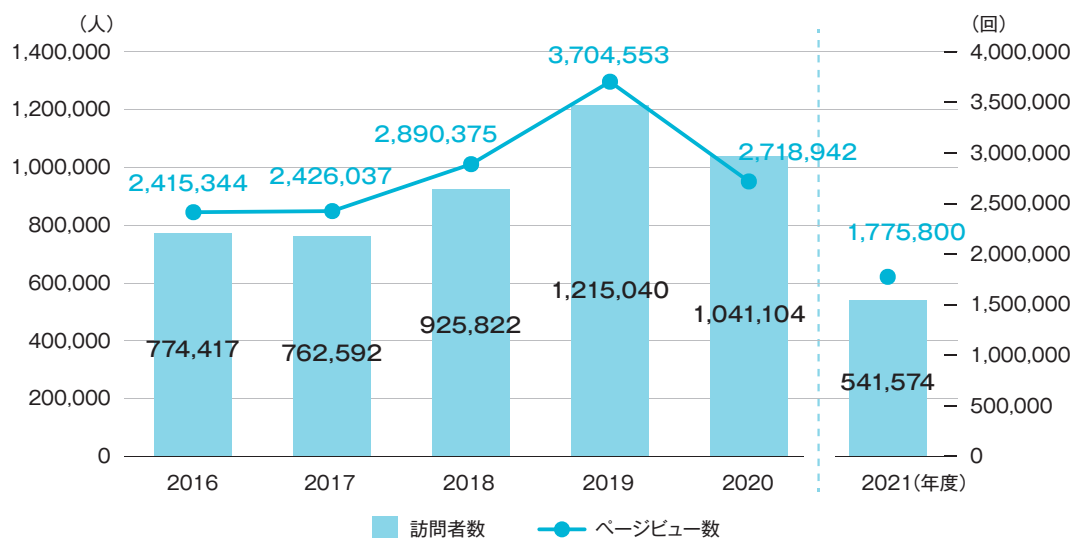
「みんなぱくミュージアムパートナーズ（MMP）」は、本館の博物館活動をサポートする自律的な組織として平成16年9月に発足した団体。「視覚障害者むけ本館展示場案内」や、「わくわく体験 in みんなぱく」、一般来館者向けのものづくりワークショップなど、多岐に広がる活動を本館との協働で進めている。

● みんなぱくミュージアムパートナーズ（MMP）の新規入会者数と会員数の推移



ホームページ利用者数の推移

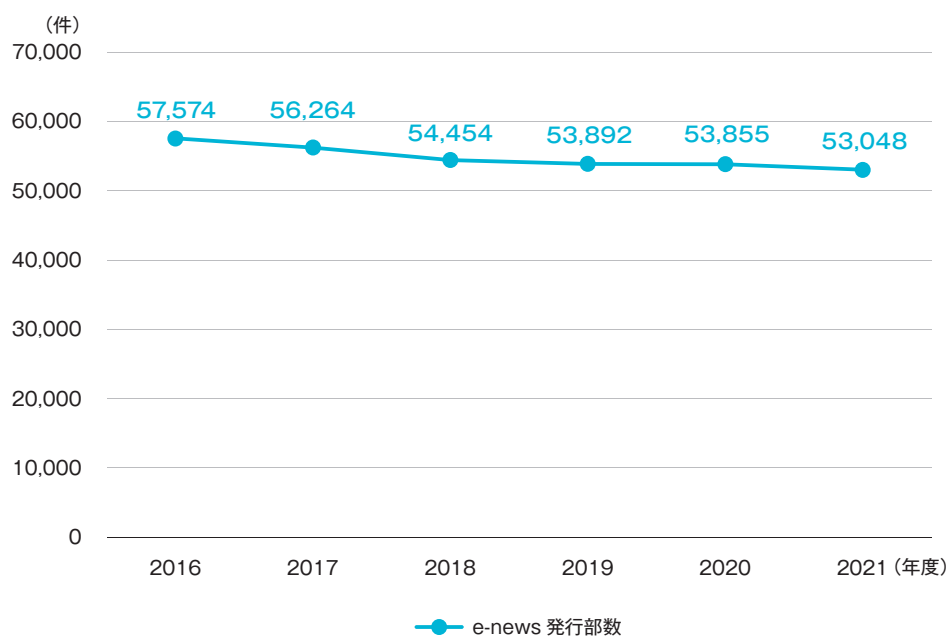
● みんなくホームページ利用者数の推移



注：令和3年度より、ホームページリニューアルに伴い、算出方法を変更した

メールマガジン配信数の推移

● メールマガジン（みんなく e-news）配信数の推移

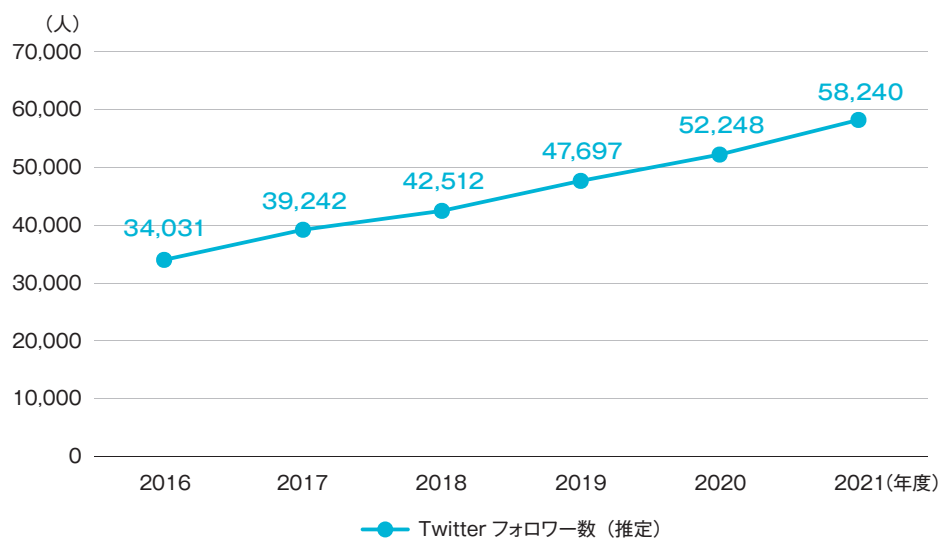


各種 SNS 実績の推移

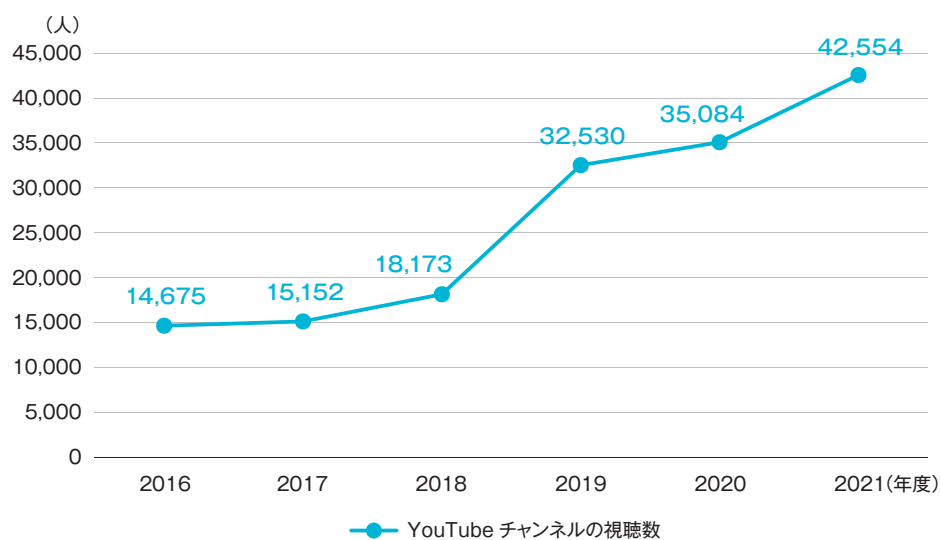
令和3年度の利用者数（リーチ数）

Facebook	146,228
Instagram	7,254

Twitter フォロワー数の推移



YouTube チャンネルの視聴数の推移



バーチャルミュージアム

展示場を超広角カメラでくまなく撮影したもので、パソコンやスマートフォンで各展示場の様子をさまざまな角度から見ることができる。

令和3年度に公開した映像一覧

映像名	公開日
特別展「復興を支える地域の文化——3.11から10年」	2021年7月16日
特別展「ユニバーサル・ミュージアム——さわる！“触”の大博覧会」	2021年12月23日
企画展「躍動するインド世界の布」	2022年3月17日



バーチャルミュージアム（企画展「躍動するインド世界の布」）

6-4 開催イベント

公開講演会

令和3年度 公開講演会一覧

実施日	題名	講演者	参加者数（人）	
			会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
2021年11月12日（金）	流動化する家族のかたち——少子高齢社会を文化人類学から考える	森 明子・松尾瑞穂・大門正克	336	199
2022年3月25日（金）	イメージの脈動にふれる	中沢新一・川瀬 慈・末森 薫	185	184
合計			521	383

みんぱくゼミナール

研究部の教員などが最新の研究成果をわかりやすく講演している。

令和3年度 みんぱくゼミナール一覧

□特別展開連 ○企画展開連

No.	実施回	実施日	担当講師	演題	参加者数（人）	
					会場参加	オンライン参加 （最大同時接続数）
1	□ 第508回	2021年 4月17日（土）	星 洋和 （双葉町役場 教育総務課） 日高真吾	双葉町に就職して——学芸員の視点から	39	43
2	□ 第509回	2021年 5月15日（土）	小谷竜介 （国立文化財機構文 化財防災センター） 日高真吾	郷土芸能の持つ力 【新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオン ライン（ライブ配信）のみ】	—	134
3	第510回	2021年 6月19日（土）	島村一平	ヒップホップ・モンゴリア——韻がつむぎだす 現代モンゴル社会 【新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオン ライン（ライブ配信）のみ】	—	137
4	第511回	2021年 7月17日（土）	岡田恵美	人はなぜ共に歌うのか？——インド北東部ナガ の伝統ポリフォニーの事例から 【新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオン ライン（ライブ配信）のみ】	—	149
5	第512回	2021年 8月12日（土）	末森 薫	規則的配色がつくり出す宗教空間——敦煌莫高 窟の千仏壁画 【新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオン ライン（ライブ配信）のみ】	—	168
6	□ 第513回	2021年 9月18日（土）	広瀬浩二郎	健常者とは誰か——琵琶なし芳一の話 【新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオン ライン（ライブ配信）のみ】	—	374
7	□ 第514回	2021年 10月16日（土）	大石 徹 （芦屋大学教授） 黒澤 浩 （南山大学教授） 篠原 聡 （東海大学准教授） 広瀬浩二郎	ユニバーサル・ミュージアムとは何か——暗闇 で「野生の勘を取り戻せ」 【新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオン ライン（ライブ配信）のみ】	—	150
8	第515回	2021年 11月20日（土）	諸昭喜	産後三・七日間の変化——韓国の伝統慣習から 産後ケア施設まで	34	50
9	第516回	2021年 12月18日（土）	平野智佳子	アボリジニ・アートはどう描かれるか	75	86
10	第517回	2022年 1月15日（土）	林 勲男	大規模災害の経験を伝える——遺構・記念碑・ 語り部・博物館の役割	47	71
11	第518回	2022年 2月19日（土）	關 雄二	遥かなる山々——アンデス文明探究40年の軌跡	70	117
12	○ 第519回	2022年 3月19日（土）	佐藤廉也 （大阪大学教授） 米家泰作 （京都大学教授） 池谷和信	焼畑は環境破壊か——佐々木高明の研究とその 後	108	—
合計					373	1,479

みんなくウィークエンドサロン

本館の研究者が展示場で「現在取り組んでいる研究」「調査している地域（国）の最新情報」「みんなくの展示資料」など、多彩な話題を提供している。

令和3年度 ウィークエンドサロン一覧

No.	実施回	実施日	演題	担当講師	参加者数(人)
1	第583回	2021年4月4日（日）	江戸将軍家が愛用した十日町の越後縮——古文書の解説と光学撮影調査	末森 薫・高橋由美子	25
2	第584回	2021年4月11日（日）	寺社・石碑データベースの可能性	寺村裕史	19
3	第585回	2021年10月24日（日）	居庸関の雲台——万里の長城のもう一つの顔	韓 敏	10
4	第586回	2021年11月7日（日）	神と出会うために——礼拝儀礼布ピチュワイー	上羽陽子・豊山亜希	36
5	第587回	2021年11月21日（日）	展示の舞台裏——始まるまでと、始まってから	園田直子	30
6	第588回	2021年11月28日（日）	非接触社会から触発は生まれない——2025大阪・関西万博に向けて	広瀬浩二郎	42
7	第589回	2021年12月5日（日）	カンガ！——アフリカの布？インドの布？	鈴木英明	42
8	第590回	2021年12月12日（日）	チャウシェスク時代のルーマニア	新免光比呂	21
9	第591回	2021年12月19日（日）	変容する舞踊衣装——擬態するカールペーリヤー	上羽陽子・岩谷彩子	34
10	第592回	2021年12月26日（日）	聖と俗——染色布で女神寺院をつくる	上羽陽子	39
11	第593回	2022年1月9日（日）	トライブ・アイデンティティとしての布	岡田恵美	42
12	第594回	2022年1月16日（日）	モーディー首相、サリーになる	上羽陽子・杉本星子	36
13	第595回	2022年1月23日（日）	みんなくの資料から見る日系アメリカ人収容80周年	丹羽典生	13
14	第596回	2022年1月30日（日）	移動する商人の自由と内なる不自由	三島禎子	11
15	第597回	2022年2月13日（日）	野生性と人類の論理	卯田宗平	15
16	第598回	2022年3月13日（日）	パキスタン北部のシャマン「ピタン」	吉岡 乾	22
17	第599回	2022年3月27日（日）	日本の焼畑	池谷和信	24
合計					461

研究公演

文化人類学・民族学に関する理解を深めてもらうことを目的として、世界の諸民族の音楽や芸能などの公演を実施している。

令和3年度 研究公演一覧

No.	タイトル	実施日	司会	解説	出演	参加者数（人）	
						会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	じゃんがら念仏踊りみんなく公演 【新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン（ライブ配信）のみ】	2021年 5月8日 （土）	日高真吾	遠藤諭（久之浜 大久自安我楽念 仏踊継承会）	久之浜大久自安我 楽念仏踊継承会	—	100
2	身体で聴く「土の音」——触れて打つ、揺らして揺る	2021年 11月13日 （土）	広瀬浩二郎	—	永田砂知子（打楽器奏者）、渡辺泰幸（造形作家）	125	98
3	「絆——人をつなぐ太鼓」	2022年 3月20日 （日）	福岡正太	寺田吉孝（国立民族学博物館名誉教授）	和太鼓 絆	92	65
合計						217	263

みんなく映画会

上映される機会の少ない文化人類学・民族学に関する貴重な映像資料などを、教員の解説を交えて上映している。

令和3年度 みんなく映画会一覧

みんなく映画会

No.	実施日	担当講師	題名	参加者数（人）	
				会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	2021年 4月10日（土）	日高真吾 我妻和樹（映画作家）	願いと揺らぎ	50	57
2	2021年 4月24日（土）	日高真吾 川村清志 （国立歴史民俗博物館 准教授）	明日に向かって曳け——石川県輪島市皆月山 王祭の現在	44	63
3	2021年 11月7日（日）	広瀬浩二郎 斎藤弘美（「贅女ミュージアム 高田」顧問）	みんなく映画会関連企画上映会 「そして贅女はいなくなった——ドキュメンタ リーで辿る盲目の女性旅芸人の実像」	26	—
4	2021年 11月23日（火）	広瀬浩二郎 斎藤弘美（「贅女ミュージアム 高田」顧問）	世界の感触を取り戻せ！——目の見えない者 は、目に見えない物を知っている 【新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオ ンライン（ライブ配信）のみ】	—	175
5	2022年 3月21日（月）	ベンジ・ピンクス（映画監督）、 ジェニー（ラッパー）、ハンガー （ラッパー）、川瀬 慈、 島村一平	ヒップホップから見た現代モンゴル社会—— 映画『モンゴリアン・プリング』から考える	113	185
6	2022年 3月26日（土）	齋藤玲子 溝口尚美（映画監督）	Ainu ひと	73	162
合計				306	642

みんなく映像民族誌シアター

No.	実施日	担当講師	題名	参加者数（人）	
				会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	2022年 1月22日（土）	南真木人 大森康宏 （国立民族学博物館名誉教授）	「土と火と水の葬送——バリ島の葬式」	16	99
2	2022年 1月29日（土）	南真木人 川瀬 慈	「アシェンダ！——エチオピア北部地域社会の 女性のお祭り」	14	90
3	2022年 2月6日（土）	南真木人 端 信行 （国立民族学博物館名誉教授） 飯田 卓	「王の祭り——仮面の王国マンコン、カメル ーン高地」	22	73
4	2022年 2月23日（水祝）	南真木人 金谷美和（国際ファッション専 門職大学准教授） 上羽陽子	「インドの染色職人カトリー——カッチ地方の 絞り染めと更紗」	26	129
合計				78	391

● みんなくワールドシネマ

No.	実施回	実施日	担当講師	題名	参加者数（人）
					会場参加
1	第50回	2022年2月12日（土）	菅瀬晶子	テルアピブ・オン・ファイア	131
合計					131

ワークショップ

本館の研究者の研究成果を社会に還元することをめざし、ものづくりなどの体験型プログラムを通して、世界の文化を紹介している。

● 令和3年度 ワークショップ一覧

No.	実施日	講師	実施ワークショップ	内訳	参加者数（人）
1	2021年 10月9日（土） 10月23日（土） 11月27日（土）	信田敏宏	みんなく sama-sama 塾	10月9日（土） 27人 10月23日（土） 14人 11月27日（土） 22人	63
2	2021年 8月7日（土）	神野知恵 チェジェチョル	ドンドン・クンタクン！ダンボール太鼓で韓国のリズムを叩こう	オンライン開催	4
3	2021年 10月2日（土）	島村一平	絵本の中のほんものを見よう	13：00～14：00 12人 14：30～15：30 10人	22
4	2021年 10月24日（日）	島村一平	大草原で生きる！遊牧民の子どもたち		25
5	2021年 11月3日（水祝）	富長敦也 広瀬浩二郎	Love Stone Project-UM （つるつる編）		115
6	2021年 11月14日（日）	渡辺泰幸 永田砂知子 広瀬浩二郎	音にさわる——地球の鳴らし方	10：30～12：30 9人 14：00～16：00 10人	19
7	2021年 11月20日（土）	片山博詞 広瀬浩二郎	感性を開いて、見えないものを見つめる	10：30～12：30 6人 14：00～16：00 12人	18
8	2021年 12月26日（日） 2022年 1月8日（土） 1月9日（日）	企画課	みんなくトラの巻	12月26日（日） 150人 1月8日（土） 150人 1月9日（日） 150人	450
合計					716

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

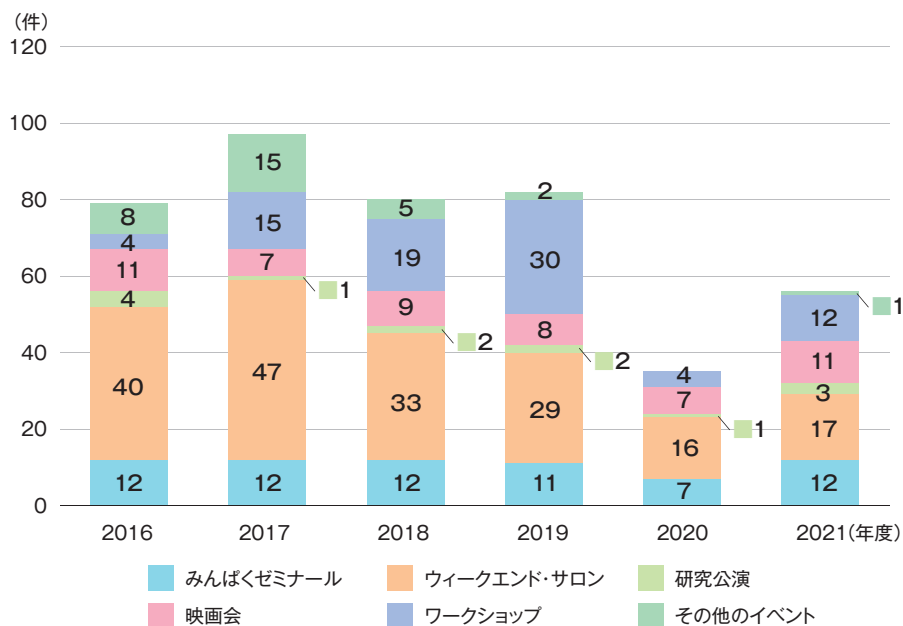
産学連携

大学院教育

業務運営

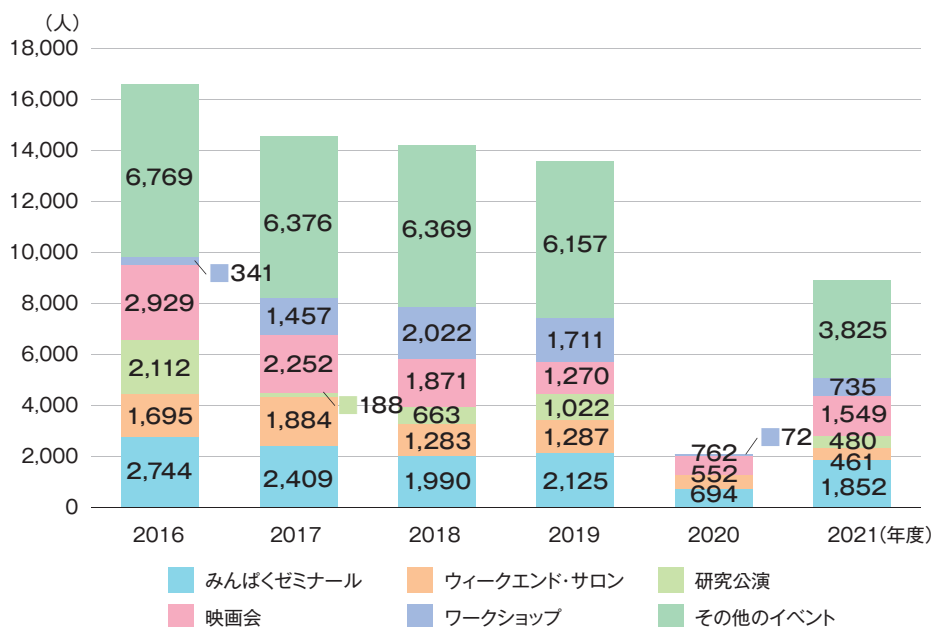
イベント開催件数と参加者数の推移

● イベントの開催件数の推移



注：公開講演会は含まれていない

● イベントの参加者数の推移



注1：公開講演会は含まれていない

注2：2020年度の研究公演はオンライン配信で参加者の数が不明なので集計に含まれていない

注3：2021年度はオンライン参加者の数（オンライン同時接続数）を含む

7 産学連携

産学連携活動の実施状況

民間企業との共同研究

令和3年度 産学連携に関する協定一覧

締結日	相手機関名	協定の概要
R3.10.11	パナソニック システムソリューションズ ジャパン 株式会社	産学連携の推進・学術研究の振興・研究成果による社会貢献・その他諸活動の発展に向けた連携協力

知的財産形成・特許出願

令和3年度 特許・商標取得一覧

発明・商標 の名称	発明者氏名（所属）	発明者 届出日	知的財産委員会 （旧発明委員会） 開催日	特許申請日及び 特許出願審査 請求日	出願番号	特許取得 の結果
紙の強化方法	園田直子 日高真吾 岡山隆之（東京農工大学） 小瀬亮太（東京農工大学） 門屋智恵美（東京農工大学） 関 正純（高知県立紙産業技術センター） 殿山真央（高知県立紙産業技術センター）	H29.9.1	H29.10.10 H29.10.18 （知的財産委員 会審査部会） H29.10.24	特許申請 H29.12.27 特許出願審査請求 R2.12.22	特願 2017-252277	R4.2.16登録 登録番号 第7025721号

組
織

研
究

共
同
利
用

展
示

国
際
連
携

社
会
連
携

産
学
連
携

大
学
院
教
育

業
務
運
営

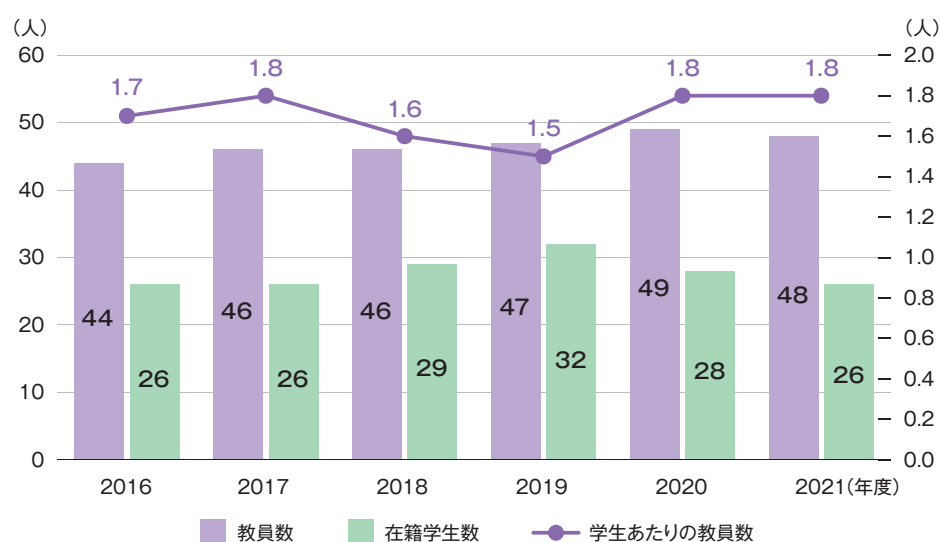
8 大学院教育

総合研究大学院大学

みんなくには、総合研究大学院大学（総研大）の文化科学研究科（地域文化学専攻・比較文化学専攻）が設置されている。総研大は、学部を持たない大学院博士課程だけの国立大学法人で、大学共同利用機関の人材と研究環境を基礎とし、各機関の行っている高度な研究活動に密着した教育・研究を行っている。

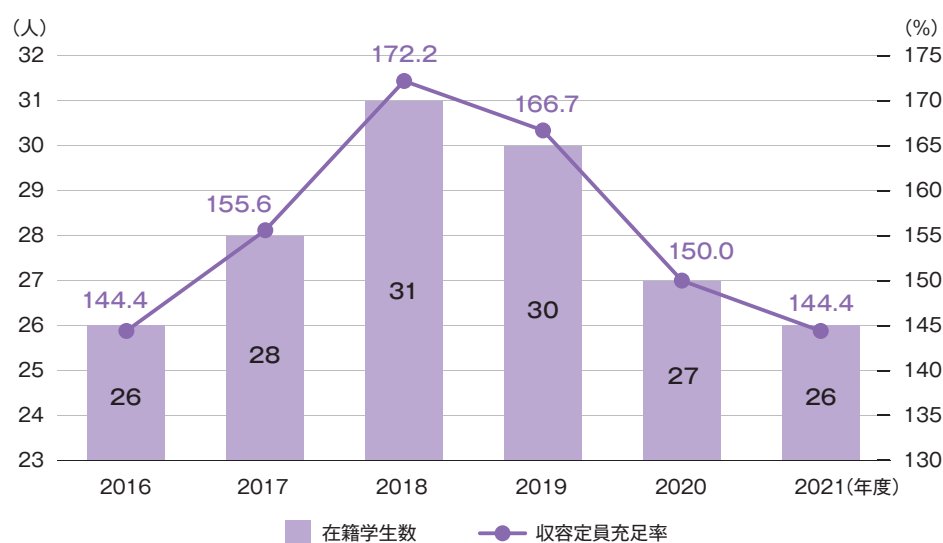
8-1 教員数・在籍学生数

● 教員数と在籍学生数の推移



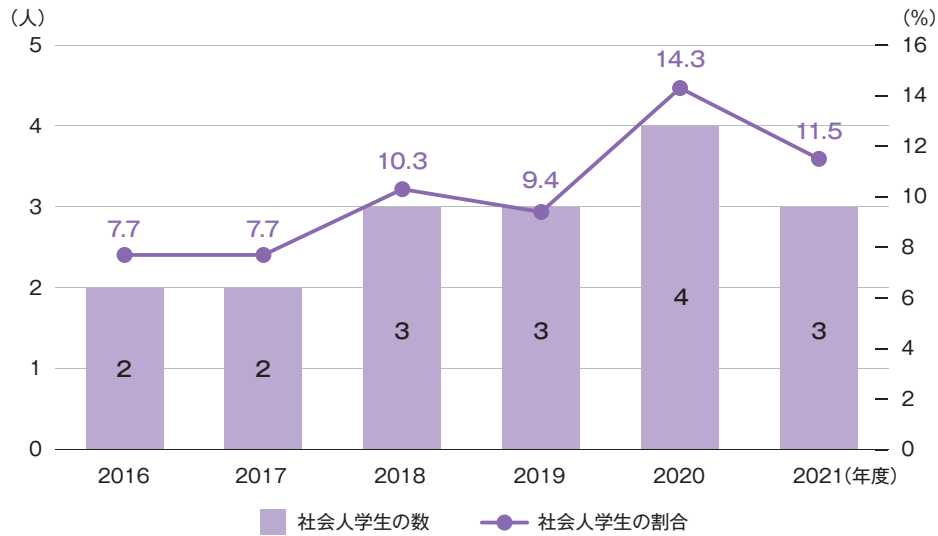
注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：在籍基準日は3月31日

● 在籍学生数と収容定員充足率（在籍者数／収容定員）の推移



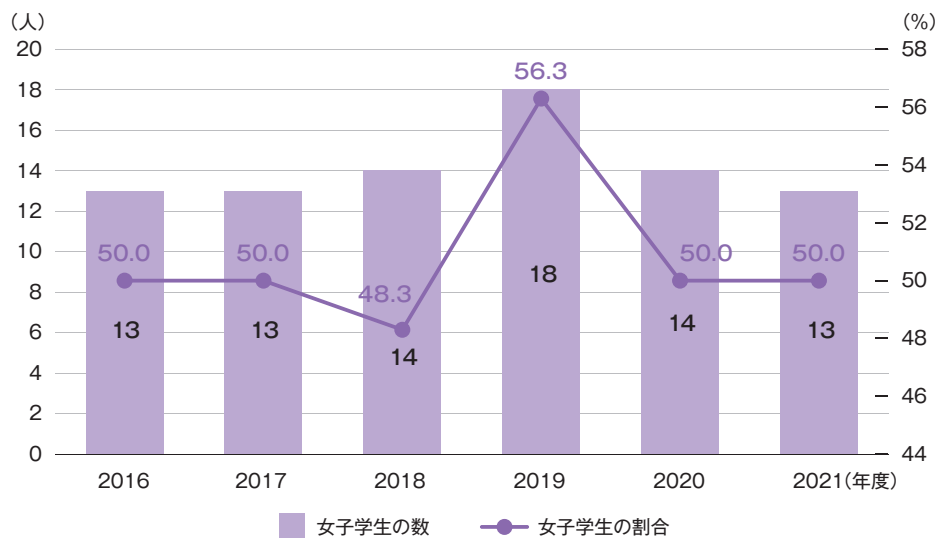
注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：収容定員は各専攻9名の計18名
注3：在籍基準日は4月1日

● 社会人学生の数と割合



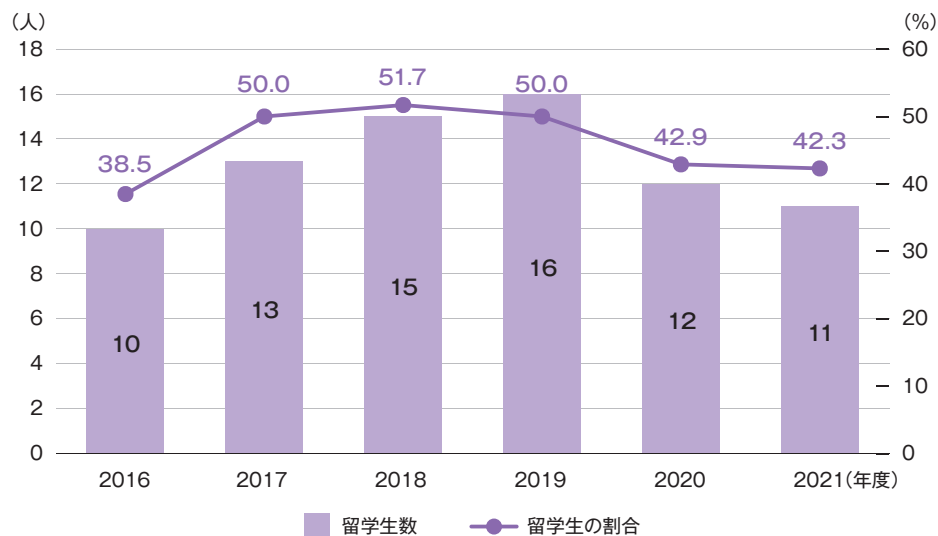
注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：在籍基準日は3月31日

● 女子学生の数と割合



注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：在籍基準日は3月31日

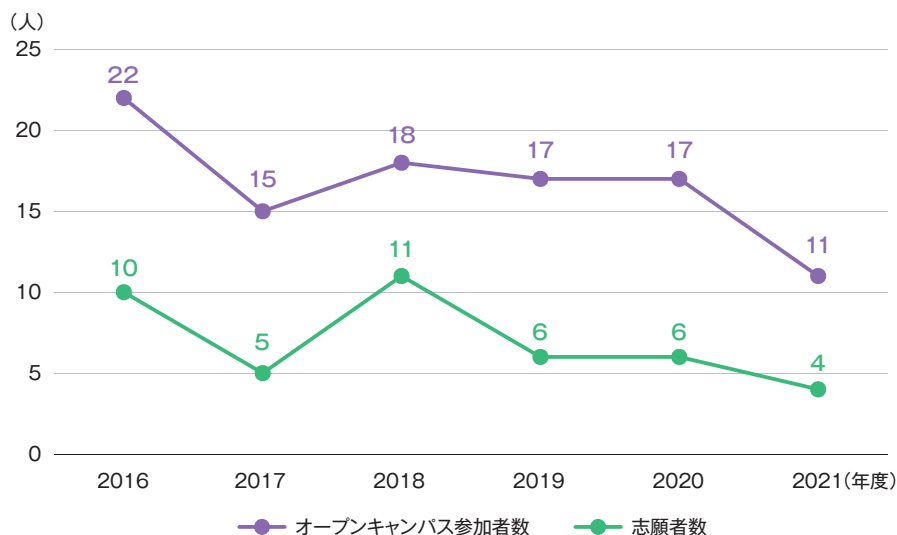
● 留学生の数と割合



注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：在籍基準日は3月31日

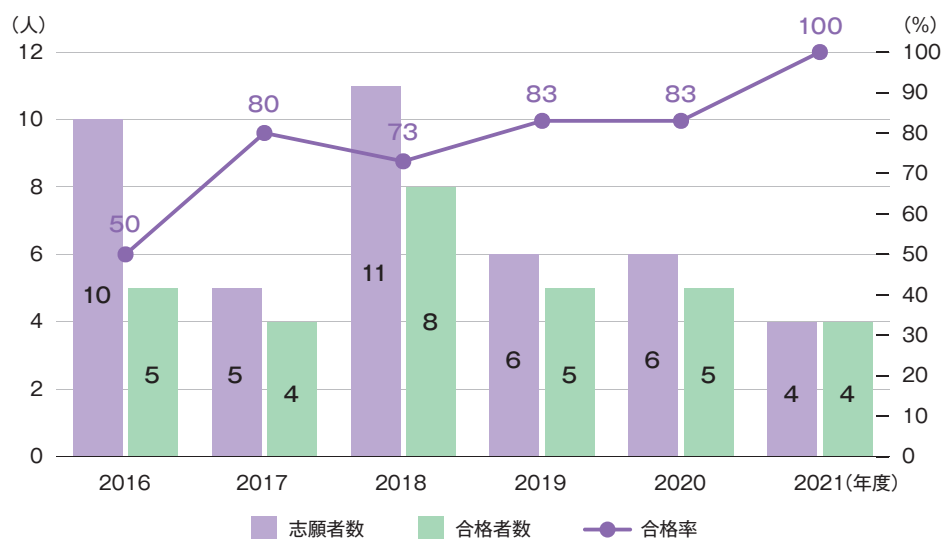
8-2 志願・入学状況

● オープンキャンパス参加者数と志願者数の推移



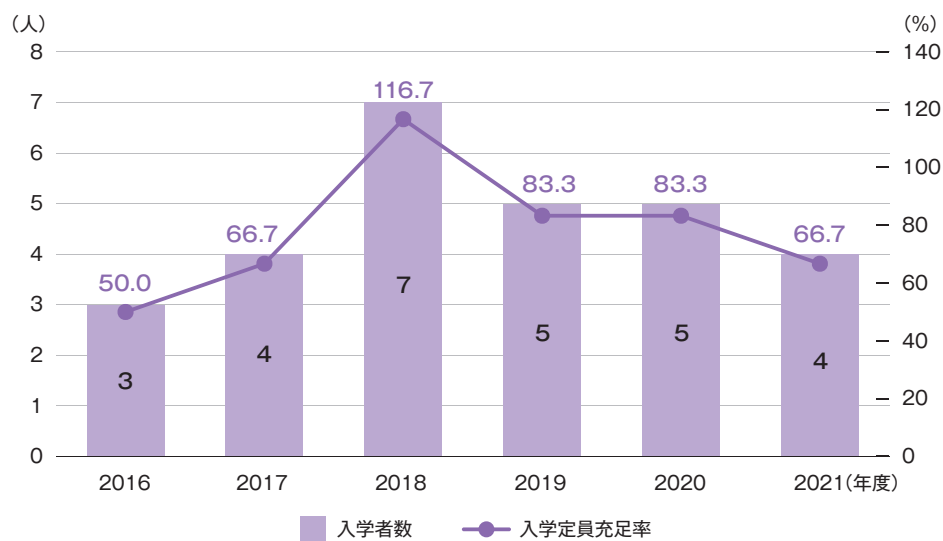
注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：2016年度は2回実施、他の年度は1回実施した

● 志願者数、合格者数、合格率の推移



注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

● 入学者数と定員充足率（入学者数／入学定員）の推移



注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

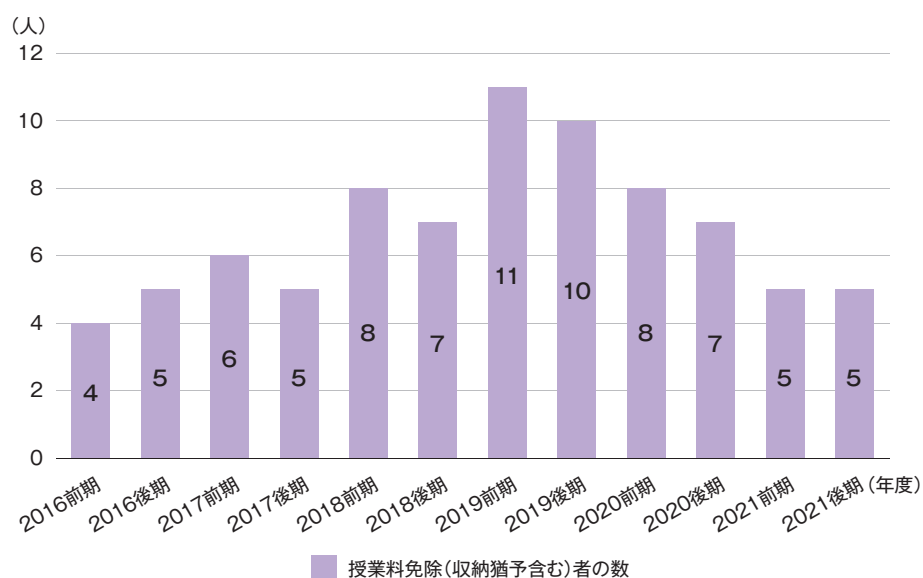
注2：入学定員は各専攻3名の計6名

8-3 学生支援状況

大学による授業料免除実施

経済的理由により入学科や授業料の納入が困難な学生に対する経済的支援としての、入学科・授業料免除（収納猶予）制度。

● 授業料免除者（徴収猶予者含む）数の推移



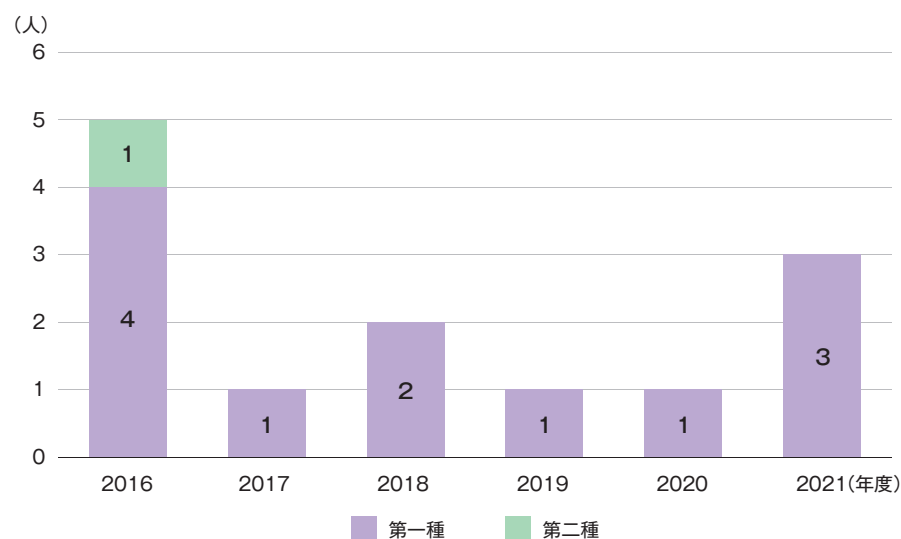
注1：全額免除者、半額免除者、徴収猶予者の合計

注2：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

日本学生支援機構（JASSO）奨学金

日本学生支援機構による奨学金制度。第一種（無利子で借りる）と第二種（有利子で借りる）がある。

● 日本学生支援機構（JASSO）奨学金の受給者数の推移



注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

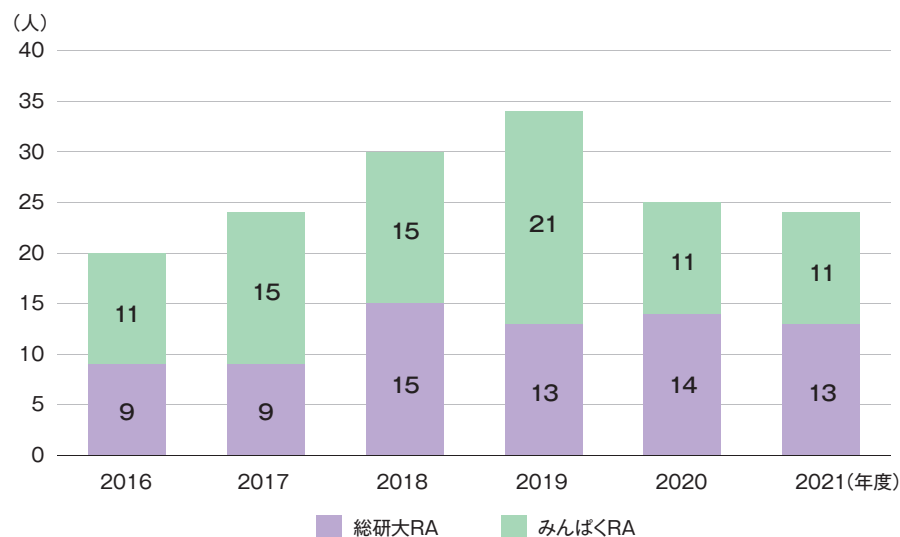
リサーチ・アシスタント（RA）制度

本館教員の指示・監督の下、研究者の補助として研究活動に必要な様々な業務をおこないながら、給与を得る制度。

総研大 RA：地域文化学専攻・比較文化学専攻における教育研究プロジェクトにおける研究補助業務

みんぱく RA：国立民族学博物館が主催するプロジェクトにおける研究補助業務

● リサーチ・アシスタント（RA）従事者の推移



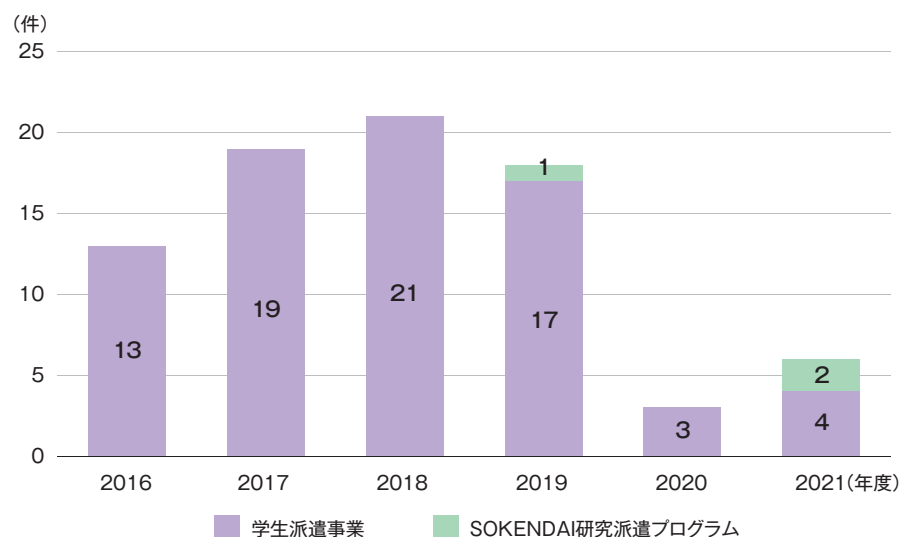
注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

学生派遣プログラム

SOKENDAI 研究派遣プログラム（本部実施）：高い専門性と広い視野、国際通用性をそなえた研究者の育成を目的として、国内外の大学、研究機関、企業等における共同研究活動や調査活動等に必要な経費を支援する制度。

学生派遣事業（専攻実施）：学位申請論文作成に不可欠な国内外の調査や学会での成果発表に要する旅費、宿泊費などの支援をおこなう。

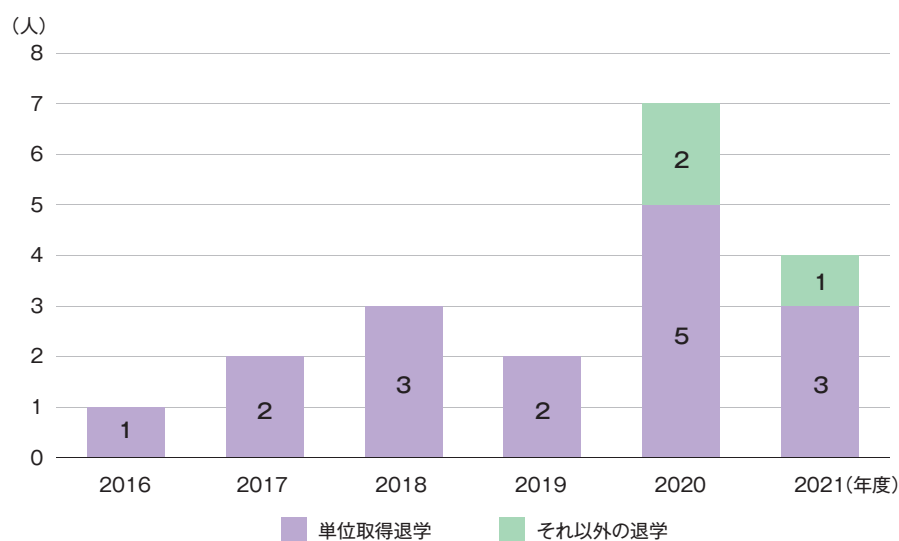
● 学生向け研究支援事業の実施件数の推移



注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

8-4 退学者

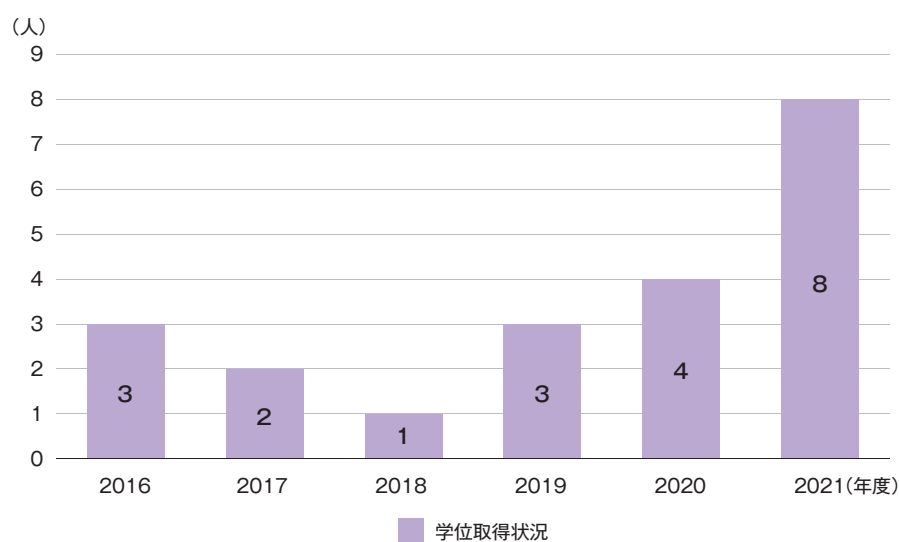
● 退学者数の推移



注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

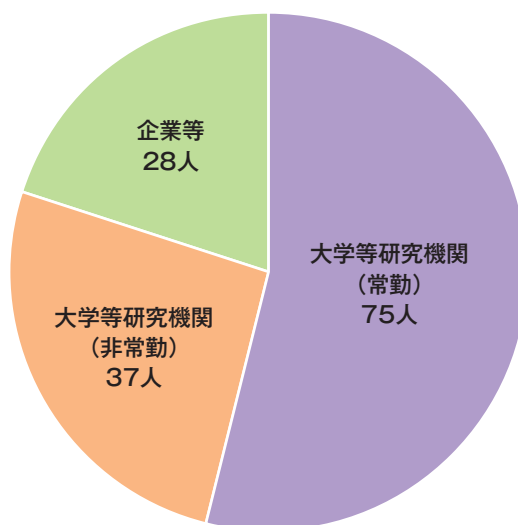
8-5 学位取得

● 学位取得者数の推移



注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

● 修了生等の就職状況（6年間）



注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

9 業務運営

9-1 収入・支出

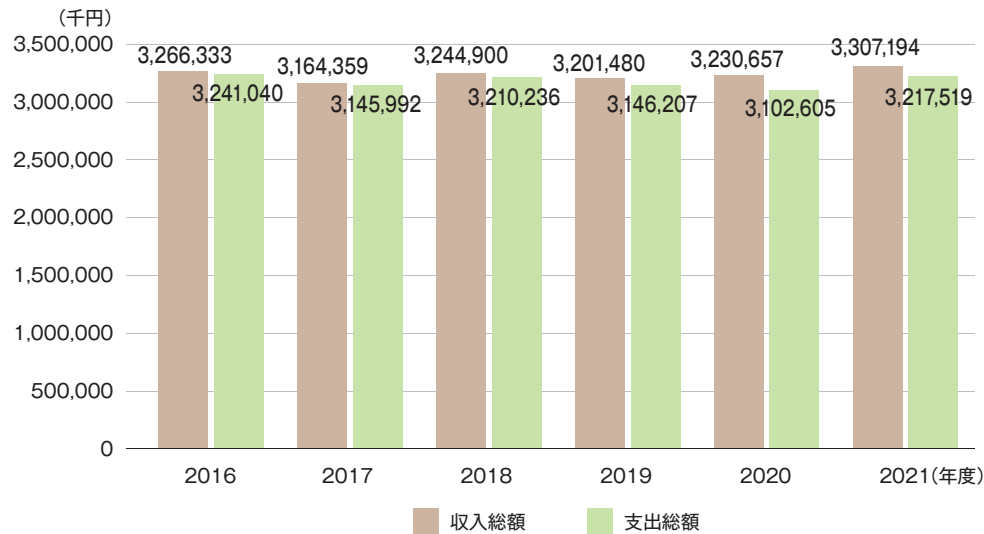
● 令和3年度 収支表

【収入】		(単位：千円)
項目	金額	
運営費交付金	2,746,842	
基幹運営費経費	2,540,292	
機構連携経費等	206,550	
自己収入（入場料等）	32,240	
総研大経費	45,754	
施設費	81,883	
補助金	0	
目的積立金	84,845	
科学研究費補助金（直接経費）	249,784	
科学研究費補助金（間接経費）	54,609	
寄付金	6,948	
共同研究・受託研究・受託事業	4,289	
合計	3,307,194	

【支出】		
項目	金額	
人件費	1,176,639	
物件費	1,787,169	
教育研究経費	312,562	
共同利用経費	1,025,499	
一般管理費	435,462	
大学院教育経費	13,646	
施設費（補助金含）	90,229	
共同研究・受託研究・受託事業	4,289	
科学研究費補助金（直接経費）	159,193	
合計	3,217,519	

※前年度繰越及び次年度繰越があるため、収入と支出の総額は一致しない

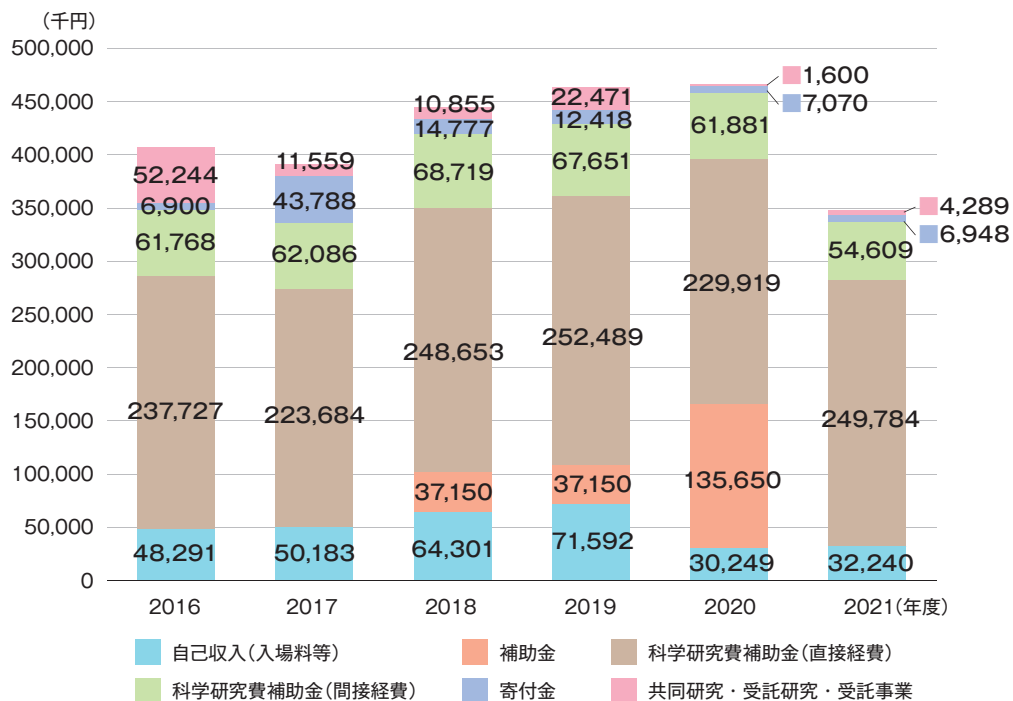
● 収入総額と支出総額の推移



注：前年度繰越および次年度繰越があるため、収入と支出の総額は一致しない

9-2 自己収入と外部資金受入額の推移

● 自己収入および外部資金受入額の推移



注：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館
令和2年2月28日～令和2年6月17日
令和3年4月25日～令和3年6月23日

9-3 新型コロナウイルス感染症の影響について

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は、2020年に入ってから世界中で感染が拡大し、世界的流行をもたらした。2020年4月7日には、大阪府が緊急事態措置を実施すべき区域に指定されるなど、みんなの活動にも大きな影響を与えた。

その影響は、教員、研究員、学生による現地調査の中止、学会参加や外国人研究員の招へい等の人的交流の停止、臨時閉館や団体の受入制限など博物館活動の停止や規模縮小、大学院における対面授業の中止など多岐にわたる。程度の違いこそあれ、このファクトブックで扱ったすべての項目が影響を受けたと考えられる。そのうち、特に影響を大きかった活動制限について下記にまとめる。

新型コロナウイルス感染症による主な活動制限

- | | |
|------------|---|
| 臨時休館期間： | <ul style="list-style-type: none"> 令和2年2月28日～令和2年6月17日 令和3年4月25日～令和3年6月23日 |
| 団体受入の停止期間： | <ul style="list-style-type: none"> 令和2年2月28日～令和2年7月8日 令和3年4月25日～令和3年10月1日 |
| 図書室閉室期間： | <ul style="list-style-type: none"> 令和2年2月28日～令和2年7月8日 令和3年1月15日～令和3年3月3日 令和3年4月25日～令和4年10月1日 |



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

